

14. 21-609

.21



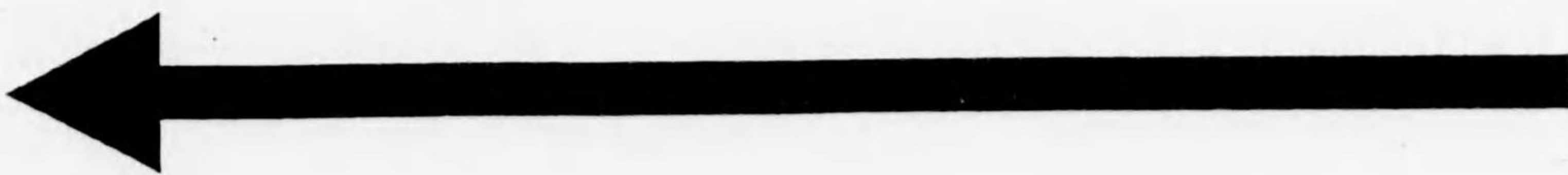
1200501162734

609

千葉縣農事試驗場業務報告
昭和六年度



始



142
609

昭和六年度業務報告

千葉縣農事試驗場

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

正誤表

Blank page with faint vertical lines, likely bleed-through from the reverse side of the document.

正 誤 表

頁行	終ノ行	正	誤	頁行	終ノ行	正	誤
一一頁	終ノ行	三九三	三寸障	二四〇頁	終二行	甘蔗糖	甘蔗糖
二四頁	二四行	一、一三一	三九〇	二四一頁	四行	甘蔗糖	甘蔗糖
四三頁	七行	二、六〇三	一、一〇二	二四四頁	終五行	消石灰	炭酸石灰
五一頁	九行	直前	二、六〇二	二四四頁	終二行	秤量	坪量
七六頁	一四行	一回	一週間前	二四八頁	終二行	一〇倍液	一〇倍液
七六頁	一四行	石灰硫黄合劑(〇)倍液	一回	二六二頁	終二行	被害沿革	被害沿革
八二頁	四行	三月二十一日	四月十一日	二六四頁	終二行	クサレ	クサレ
八三頁	二行	アトリエロー	アトリエローフツシ	二六六頁	四行	ズイムシ	ズイムシ
八四頁	一〇行	アツシユ	アトリエローフツシ	二六八頁	三行	早稻	早稻
八四頁	一六行	チニユエンマンモース	チニユエルマンモース	二七八頁	五行	一一九、三三二	一一九、三五二
八四頁	終ノ行	デリシエーハアバード	デリシエーハアバード	二九〇頁	一行	一、一五	一、一五
八六頁	終ノ行	一、病虫害防除	一、病虫害防除	二九〇頁	一行	八四、九	八四、九
八七頁	二行	混合	混合	二九三頁	八行	一〇〇	一〇〇
八七頁	二行	〇十八度	〇十八度	三〇四頁	三行	二、一	二、一
八八頁	終ノ行	八分調製	〇十八度	三〇五頁	四行	四、六	四、六
八九頁	二行	ジューンヒンダ	ジューンヒンダ	三〇五頁	六行	八、三	八、三
九〇頁	初行	早生丸	早生丸	三〇六頁	一行	一〇四、四三六	一〇四、四六三
九三頁	一三行	試験別	試験別	三〇七頁	四行	九八、〇八〇	九八、〇八〇
九七頁	一七行	施肥量	施肥量	三〇七頁	一行	九	九
九八頁	三行	施肥量	施肥量	三〇九頁	一五行	一一五	一一五
一〇三頁	三行	第四區	第四區	三一〇頁	四行	八八、二〇〇	八八、三二〇
一〇三頁	三行	第八區	第八區	三一〇頁	三行	一一二、八六一	一一二、八六一
一〇三頁	三行	第九區	第九區	三一〇頁	八行	八三	八三
一〇三頁	三行	第十區	第十區	三一〇頁	一行	六二	六二
一一三頁	九行	硫酸區	硫酸區	三一三頁	終子實重歩合(%)	極強	極強
一一四頁	三行	第四區	第四區	三一六頁	葉枯病(一五行)	極強	極強
一一四頁	三行	第八區	第八區	三一六頁	一六行	二八	二八
一一八頁	一行	五九八、五	五、九八五	三一七頁	鉄質含量六行目	二八	二八
一一八頁	一行	四二八、五	四、二八五	三一七頁	硝子率(%)一行目	三〇、二	三〇、二
一二二頁	四行	客土	客土	三一七頁	後ヨリ二行目	成績	成績
一二三頁	九行	削ル(重複)	下部ノ一枝ハ更ニニ芽ヲ殘シ	三一七頁	一ヘタケル當庭三行	成績ノ概要	成績ノ概要
一二六頁	一行	カンデラブル	カンデラブル	三一七頁	一六行	Bart	Bart
一二九頁	一行	紋羽病	斑羽病	三一七頁	一六行	Bart	Bart
一三九頁	一九行	ワイオレットドウフィン	ワイオレットフィン	三一七頁	一六行	Hansus	Hansus
一四二頁	三行	ストツケシヤ	ストツケシヤ	三一七頁	一六行	數字ヲ以テ示	數字ヲ以テ示
一四九頁	三行	品名	品名	三一七頁	一六行	サレザル形質	サレザル形質
一五六頁	下段	開花月日	花開月日	三一七頁	一六行	Dicklow	Dicklow
一六四頁	八行	堆肥二五〇貫	堆肥二五〇貫	三一七頁	一六行	織内五號	織内五號
一六六頁	一六行	一五五	一五	三一七頁	一六行	五、一四	五、一四
一六七頁	七行	軟クシテ	硬クシテ	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一七二頁	二〇行	三七區	二七區	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一七五頁	一行	早生赤メ	早生赤メ	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一九三頁	五行	數量	數量	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一九三頁	五行	配付種類	配付種類	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一九三頁	五行	マリイゴールド	マリイゴールド	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
一九四頁	二行	種子	種子	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
二〇〇頁	一九行	設置	設置	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
二〇〇頁	一九行	増殖	増殖	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
二〇一頁	二〇行	セル	セル	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六
二〇一頁	二〇行	セル	セル	三一七頁	一六行	五、一六	五、一六



昭和

六年度業務報告



同試驗場寄贈本

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	第十三	第十四	第十五	第十六	第十七	第十八	第十九	第二十	第二十一	第二十二	第二十三	第二十四	第二十五	第二十六	第二十七	第二十八	第二十九	第三十	第三十一	第三十二	第三十三	第三十四	第三十五	第三十六	第三十七	第三十八	第三十九	第四十	第四十一	第四十二	第四十三	第四十四	第四十五	第四十六	第四十七	第四十八	第四十九	第五十	第五十一	第五十二	第五十三	第五十四	第五十五	第五十六	第五十七	第五十八	第五十九	第六十	第六十一	第六十二	第六十三	第六十四	第六十五	第六十六	第六十七	第六十八	第六十九	第七十	第七十一	第七十二	第七十三	第七十四	第七十五	第七十六	第七十七	第七十八	第七十九	第八十	第八十一	第八十二	第八十三	第八十四	第八十五	第八十六	第八十七	第八十八	第八十九	第九十	第九十一	第九十二	第九十三	第九十四	第九十五	第九十六	第九十七	第九十八	第九十九	第一百
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----

14.2.11-609

第六季農業發祥書

種藝部

目次

耕種梗概

- (一) 水 稻 一
- (二) 陸 稻 四
- (三) 麥 九
- (四) 雜 穀 三

第一、水 稻

- 一、豊凶考照試験 一五
- 二、品種比較試験 一六
- 三、品種豫備比較試験 二〇
- 四、新品種比較試験 二三
- 五、耐肥性品種選抜試験 二四
- 六、用水不足地ニ於ケル品種ノ生産力比較試験 二五
- 七、滯水地ニ於ケル品種比較試験 二七
- 八、純系淘汰 二九

第二、陸 稻

- (イ) 水嶋純系淘汰 元
- (ロ) 二節純系淘汰 元
- (ハ) 早生神力純系淘汰 三〇
- (ニ) 吉川純系淘汰 三〇
- (ホ) 小安糶純系淘汰 三二
- 九、原種更正 三二
- 一〇、品種保存 三三
- 一一、插秧時期試験 三三
- 一二、除草回数試験 三三
- 一三、苗代播種量對收量試験 三四
- 一四、原種圃 三五
- 一、豊凶考照試験 三六
- 二、品種比較試験 三六
- 三、品種豫備比較試験 三六
- 四、純系淘汰 四〇
- 五、早害豫防法試験 四一
- (イ) 陸稻落花生ノ混植ト早害トノ關係試験 四二

寄贈本

- (ロ) 堆肥効果試験……………四七
- (ハ) 移植試験……………四七
- (ニ) 敷蓋試験……………四七
- 六、原種圃……………四七

第三、麥

- 一、豊凶考照試験……………四八
- 二、品種比較試験……………四八
- 三、小麥耐寒性ト播種期關係試験……………五二
- 四、小麥播種量試験……………五三
- 五、小麥連作試験……………五三
- 六、大麥踏壓時期試験……………五五
- 七、大麥踏壓回数試験……………五七
- 八、堆肥効果試験……………五七
- 九、大麥肥料試験……………五八
- 一〇、小麥增收試作……………五九
- 二、麥類特性調査……………五九
- 三、原種圃……………五九

第四、雜 穀

- 一、大豆生娘純系淘汰……………六〇

- 二、落花生播種期對株數試驗……………六一
- 三、落花生純系淘汰……………六二
- 四、品種保存……………六三
- 五、原種圃……………六四

第五、農具試驗

- 一、製繩農具ニ關スル試験……………六四
- 二、改良農具ノ貸與實演ニ關スル事項……………六六
- 三、改良農具實演會ニ關スル事項……………六六
- 四、農具利用指定貸與組合ニ關スル事項……………六七

第六、委託試驗

- 一、水稻品種比較試驗……………六八
- 二、陸稻梗品種比較試驗……………七三
- 三、陸稻糯品種比較試驗……………七三
- 四、稈麥品種比較試驗……………七四
- 五、這性落花生栽植株數試驗……………七四

園 藝 部

第一、蔬 菜

一、品種試驗		七
(イ) 甘 藷	……………	七
(ロ) 甘 藷 (沖繩縣育成交配種)	……………	七
(ハ) 草 蓴	……………	七
(ニ) 馬鈴薯	……………	九
(ホ) 白 菜	……………	九
(ヘ) 西洋南瓜	……………	九
二、栽培法試験		八
(イ) 西洋南瓜摘心試験	……………	八
(ロ) 江南竹促成栽培法試験	……………	八
三、特殊栽培法試験		八
(イ) 電熱温床ニ關スル試験	……………	八
四、貯藏試験		八
(イ) 白菜屋内貯藏試験	……………	八
五、見本栽培		八
(イ) 蕃 茄	……………	八
(ロ) 里 芋	……………	九
(ハ) 土當歸	……………	九
(ニ) 茗 荷	……………	九
(ホ) 蕨	……………	九
(ヘ) 蒔 蕪	……………	九
(ト) 百 合	……………	九
第二、果 樹		九
(一) 梨	……………	九
一、梨品種試験	……………	九
二、梨施肥方法ニ關スル試験	……………	九
三、梨棚作り整枝方法試験	……………	九
四、梨施肥期試験	……………	九
五、葡萄品種試験	……………	一〇
六、葡萄整枝方法試験	……………	一〇
七、葡萄冬季剪定法試験	……………	一〇
八、葡萄夏季剪定回数試験	……………	一〇
九、葡萄摘果試験	……………	一〇
一〇、葡萄施肥方法試験	……………	一一
一一、葡萄燐酸質肥料試験	……………	一一
一二、硝子室葡萄品種特性調査	……………	一一
一三、桃品種試験	……………	一一
一四、桃客土ニ關スル試験	……………	一二
一五、桃豫備枝剪定法試験	……………	一二
一六、桃斷根試験	……………	一二
一七、桃石灰加用量試験	……………	一二

六、枇杷窒素質量試驗	二二七
七、枇杷磷酸質量試驗	二二八
八、枇杷加里質用量試驗	二三三
九、梅品種試驗	二三三
十、柿品種試驗	二三四
十一、品種特性試驗	二三七
第三、花 卉	
一、花卉經濟試驗	二四〇
二、薔薇品種試驗	二四三
三、牡丹品種試驗	二四六
四、グラチオラス植込時期試驗	二四八
第四、特用作物	
一、茶樹仕立法試驗	二五〇
二、苎苧肥料試驗	二五三
三、苧麻肥料試驗	二五四
第五、品種改良	
一、蔬菜ニ關スル試驗	二五七

(イ) 南瓜黒皮純系淘汰試驗	二五七
(ロ) 胡瓜青節成純系淘汰試驗	二五八
(ハ) 胡瓜半白純系淘汰試驗	二五九
(ニ) 大型黄金甜瓜純系淘汰試驗	二六〇
(ホ) 葱分型試驗	二六一
(ヘ) 里芋分型試驗	二六二
(ト) 白菜分型試驗	二六三
(チ) 西瓜交配種純系分離試驗	二六四
(リ) 甘藍分型試驗	二六四
二、果 樹	
(イ) 枇杷純系淘汰	二六五
(ロ) 第一回枇杷交配ニ關スル研究	二六三
(ハ) 第二回枇杷交配ニ關スル研究	二六七
(ニ) 第三回枇杷交配ニ關スル研究	二七〇
(ホ) 第一回梨交配ニ關スル研究	二七五
(ヘ) 第二回梨交配ニ關スル研究	二七七
(ト) 第三回梨交配ニ關スル研究	二七八
(チ) 柿砧木ニ關スル研究	二七九
(リ) 自然生柿砧木ニ關スル研究	二八〇
第六、種苗交付	
一、蔬菜 菜	二八四
(イ) 原種育成	二八四

(ロ) 優良蔬菜原種交付	二八六
二、果樹苗木配付	二八九
三、花 卉	二九三
第八、果樹苗木ノ育成	
一、一般場内果樹	二九三
二、副業獎勵枇杷苗養成成績	二九五
第九、實地指導	
一、蔬 菜	二九六
(イ) 安房郡平郡村促成栽培	二九七
(ロ) 安房郡長尾村蔬菜一般指導	二九七
(ハ) 君津郡富津町	二九七
(ニ) 副業蔬菜促成栽培	二九七
二、果 樹	二九九
(イ) 君津郡小槻村	二九九
(ロ) 市原郡東海村	二九九
(ハ) 香取郡大倉村	二九九
(ニ) 香取郡豐和村	二九九
三、花 卉	二九九
(イ) 安房郡西岬村	二九九
(ロ) 安房郡和田浦	二九九

(イ) 海上郡豐浦村	二九〇
第十、委託試驗	
一、蔬菜ニ關スル試驗	二九〇
(イ) 西瓜摘心整枝ニ關スル試驗	二九〇
(ロ) 南瓜純系淘汰試驗	二九三
(ハ) 土垂分型試驗	二九四
(ニ) 西瓜交配種ニ關スル試驗	二九五
病 蟲 部	
第一、病 害	
一、土壤消毒劑ニ關スル試驗	二九六
二、里芋乾性腐敗病ニ關スル試驗	二九七
(イ) 病原ニ關スル研究	二九八
(ロ) 環境ニ關スル試驗	二九八
(ハ) 傳染傳播ノ経路ニ關スル試驗	二九九
(ニ) 種塊消毒ニ關スル試驗	二九〇
(ホ) 土壤消毒ニ關スル試驗	二九一
三、稻馬鹿苗病豫防ニ關スル試驗	二九二
四、小麥立枯病ニ關スル試驗	二九三
(イ) 土壤消毒ニ關スル試驗	二九三
(ロ) 輪作ニ關スル試驗	二九五

(ハ) 耕種法ニ依ル防除試験……………二二六

五、麥ノ品種ト病害トノ關係調査……………二二六
 (イ) 小麥赤銹病ノ被害ト品種トノ關係調査……………二二六
 (ロ) 小麥黃銹病ノ被害ト品種トノ關係調査……………二二六

六、麥酒麥立枯病ニ關スル試験……………二二四
 (イ) 土壤消毒ニ關スル試験……………二二四
 (ロ) 藥劑撒布ニ關スル試験……………二二四
 (ハ) 耕種法ニ依ル防除試験……………二二六

七、野鼠及野鼠チブス菌ニ關スル試験……………二二七
 八、野鼠チブス菌ノ培養配付……………二二八
 九、麥赤微病豫防ニ關スル試験……………二二九
 (イ) 赤微病ノ發病時期ニ關スル調査……………二二九
 (ロ) 麥ノ成熟期ニ關スル調査……………二二九
 (ハ) 赤微病菌ノ藥劑ニ對スル抵抗力試験……………二二九
 (ニ) 赤微病菌ノ繁殖ト温度及湿度トノ關係調査……………二二九

一〇、紫雲英根瘤菌ニ關スル試験……………二二七
 (イ) 培養基ニ關スル研究……………二二七
 (ロ) 根瘤菌ノ存否ニ關スル調査……………二二七
 (ハ) 根瘤菌接種試験……………二二七
 (ニ) 配付根瘤菌ノ培養法……………二二七
 (ホ) 根瘤菌接種分量試験……………二二七

一一、紫雲英根瘤菌ノ培養配布……………二二五

第二、害 蟲

一、二化螟虫ニ關スル調査……………二四六
 (イ) 發生狀況調査……………二四六
 (ロ) 水虻ニ關スル調査(ヒゲナガミヅアブ)……………二四六
 三、瓜守ニ關スル試験……………二四九
 四、象虫ニ關スル調査……………二五〇
 (イ) 蠶豆象虫ノ分布ニ關スル調査……………二五〇
 五、殺菌劑驅虫劑ニ關スル試験……………二五二
 (イ) 「パーミサイド」ニ關スル試験……………二五二
 (ロ) 「スケルシン」ニ關スル試験……………二五二

六、團子虫ニ關スル調査……………二五八
 七、大根ノ螟虫ニ關スル試験及調査……………二五八
 (イ) 防除ニ關スル試験及調査……………二五八
 (ロ) 殺虫劑ニ關スル調査……………二五八
 (ハ) 野外ニ於ケル發生狀況調査……………二五八

第三、病菌害蟲府縣連絡調査

一、重要病菌害蟲分布調査……………二六二
 二、二化性螟虫第二化期被害率並ニ被害額ニ關スル調査……………二六九

三、稻熱病ノ發生ト施肥量及三要素ノ配合割合トノ關係試験……………二六九

四、稻熱病ニ對スル耐病性品種ノ交換栽培ニ關スル試験……………二七〇
 附、稻作期間氣象表……………二七三

農藝化學部

第一、一般試験

甲、夏作之部

一、水稻ニ對スル肥料三要素試験……………二七七
 二、陸稻ニ對スル肥料三要素試験……………二七六
 三、甘藷ニ對スル肥料三要素試験……………二七九
 四、水稻ニ對スル肥料三要素適量試験……………二八〇
 五、陸稻ニ對スル肥料三要素適量試験……………二八二
 六、新磷酸質肥料肥効比較試験……………二八三
 七、新肥料肥効比較試験……………二八四
 八、鶏糞施用量試験……………二八六
 九、鶏糞施用時期試験……………二八七
 一〇、堆肥ト硫酸トノ合理的施用法試験……………二八八

二、鶏糞施用時期試験(ポット)……………二八九

乙、冬作之部

一、大麥ニ對スル肥料三要素試験……………二九三
 二、小麥ニ對スル肥料三要素試験……………二九五
 三、大麥ニ對スル肥料三要素適量試験……………二九六
 四、鶏糞施用時期試験(ポット)……………二九七
 五、新肥料肥効比較試験……………二九九

第二、分析

一、依頼分析……………三〇一
 二、場用分析……………三〇二
 三、分析点数表……………三〇三

第三、施肥標準調査

一、ポット栽培試験……………三〇三
 二、原地試験……………三〇五

農林省委託小麥地方的試験部

一、小麥品種豫備試験……………三一二
 二、小麥品種選抜試験……………三二四

- 三、小麥人工交配試驗……………三三三
- 四、寒害抵抗性弱キ小麥品種ニ對スル栽培法ニ關スル研究……………三五五
- 五、小麥品種ノ風土の感應ニ關スル地方共通試驗……………三九九
- 六、小麥品種保存栽培……………三三二

庶務部

- 一、文書收受……………三三三
- 二、文書發送……………三三三
- 三、參觀人員……………三三三
- 四、職員出張……………三三三
- 五、質問應答……………三三三

農業技術員養成部

- 一、練習生養成……………三三四
- 二、練習生教授科目……………三三四
- 三、本年ノ修得者氏名……………三三五

種藝部



種、藝、部
 一、水、種、概
 風選及鹽水選ヲ行ヒ選種シタルモノヲ播種ニ當リ五日乃至七日間浸漬ス鹽水選ノ比重左ノ如シ。
 水一斗ニ對スル食鹽ノ量

- 梗(無芒種)……………一、一三
- 梗(有芒種)……………一、一〇
- 糯(無芒種)……………一、一〇
- 糯(有芒種)……………一、〇八

二、整地及施肥

秋季稻刈取後萬能ヲ以テ三寸内外ニ耕起シ置キ翌春四月上旬ニ之ヲ再耕シ刈株ヲ除去シ土塊ヲ碎キ地均シテ灌水シ畦塗ヲナシテ後藁灰ヲ撒布シ更ニ萬能ニテ淺ク表土ヲ搔キ土壤ト混合セシム、而シテ四月二十日頃即チ播種ノ一週間前ニ至リ硫安、ベ粕、過燐酸石灰ヲ撒布シ良ク土塊ヲ細碎攪拌シテ地均シ其ノ儘放置シテ土壤ヲ沈定セシメ落水シテ溝幅一尺床幅四尺ノ短冊形ニ區劃シ溝土ヲ床面ニ揚ケ手又ハ其ノ他ノ器物ニテ床面ヲ均シ溝内ニ灌水シテ各床面ヲ水平ニシ後床面迄灌水シテ放置シ播種當日ハ落水シテ播種ス。

三、肥料

肥料名	坪當用量	第二回耕起	第三回耕起	播種後	播種後二十日	窒素	磷素	鉀素	加里
硫酸アンモニア	100	100	100	100	100	100	100	100	100
燐酸石灰	100	100	100	100	100	100	100	100	100
灰	100	100	100	100	100	100	100	100	100
計	300	300	300	300	300	300	300	300	300

四、播種

床ノ作成終リ床土沈定シ適度トナリタル時厚薄ナキ様所定ノ量ヲ播下シ直ニ鍍又ハ「金網ローラ」ニテ輕ク撫デ種子ヲ淺ク土中ニ埋メ其ノ上ニ藁灰ヲ撒布ス。

播種期日 四月下旬

播種量(坪當) 二合

五、管理

- (イ) 灌排水 播種後發芽迄ハ床面一、二寸ノ深サニ灌水シ發芽後ハ漸次淺水トシ曇天溫暖ノ日ハ床面ノ水ヲ落シ芽乾ス幼芽綠色ヲ帯ビ來ル時ハ日中ハ床面飽水状態ニ保チ夜間寒冷ノ日強雨ノ際ハ稍深ク湛水ス苗生長シ氣候温暖ニナルニ從ヒ時々必要ニ應ジテ灌水シ苗ヲ強剛ナラシム。
- (ロ) 除草 播種一週間位ヨリ適宜之ヲ行フ。
- (ハ) 病虫鳥害驅除豫防 螟虫ハ捕蛾採卵ノ他「硫酸ニコチン」等ノ藥劑ヲ使用ス鳥害ハ銃器ニテ捕殺ス。

本田ノ部

一、整地及施肥

晚秋又ハ初春ニ第一回耕起ヲ行ヒ五月上旬畦塗ヲシ五月下旬第二回耕起ヲナシ堆肥ヲ撒布ス。六月上旬第

三回鋤返シヲ行ヒ灌水シ堆肥以外ノ元肥ヲ施シ代播ヲ行ヒテ後地均ス但シ試驗田ノ一部窒息病發生スル恐れアル處ハ第三回鋤返シ前元肥ヲ施用シ代播セズ

肥料名	反當用量	第一耕起後	荒代前	窒素	磷素	鉀素	加里
硫酸アンモニア	100	100	100	100	100	100	100
燐酸石灰	100	100	100	100	100	100	100
灰	100	100	100	100	100	100	100
計	300	300	300	300	300	300	300

二、挿秧

繩、廻轉定規ヲ使用 移植期 六月中旬

株間 五寸 條間 一尺 一株 三苗

三、除草

第一回 六月下旬乃至七月上旬 除草器使用一兩日后手直シ

第二回 七月上旬乃至中旬 除草器使用一兩日后手直シ

第三回 七月下旬 手取

第四回 八月上旬 手取(晚稻)

四、灌排水

排四十水ノ細流ニシテ畦内ニ灌水シ後時々落水シ穂孕出穂期ニハ充分灌水シ穂首傾キタ至ル後ハ時々落水シ漸次排水期間ヲ長クシ成熟ヲ促ス。

五、除害

螟虫ハ點燈誘殺、被害莖ノ摘株。
椿象 四十匁式除虫菊石鹼合劑撒布。
雀 銃器補殺。

六、收穫及調製

穂首迄黄變セル時刈取ヲ行ヒ五日乃至七日間稻架乾燥シ脱穀後更ニ一筵五升内外ヲ入レ二日位乾燥シテ粗摺ス乾燥程度玄米水分十四%内外。

脱穀後有芒種約三分無芒種約一分脱芒機ニカク。

七、調査

粗玄米ノ調査ニ當リテハ總容量總重量ヲ測定シ更ニ一升重量測定器ニテ三回測定シ計算容量ヲ算出ス。收量成績ハ地力更正ヲ行ヒタル更正收量ヲ示ス。

二、陸稻

直播ノ場合

一、選種

唐箕選ニヨリ秕其ノ他夾雜物ヲ除去シタルモノヲ更ニ左記比重ヲ標準トシ固形苦鹽ノ溶液ヲ用ヒテ鹽水選ヲ行フ。尙鹽水選ニ先ダチ脱芒ヲ行フ。

粳 一、一〇 糯 一、〇八

二、整理

前作ガ麥ナル時ハ土寄ヲ行フ際成ルベク畦間ヲ耕耘シテ膨軟ナラシメ麥ノ根際ニ土ヲ揚ゲ置ク。其ノ他ノ

作物ノ場合ハ能ク耕耘シテ膨軟ナラシメ且ツ作畦ス。

三、施肥

左記肥料ヲ配合シテ前記ノ畦溝底ニ平均ニ施シ五分位覆土シタル上ヲ鎮壓シ表面ヲ平坦ニシ播種ニ便ナラシム。

肥料名	用途	量	窒素	磷素	酸素	加里
堆肥	100%	100%	0.100	0.100	0.100	0.100
大豆餅肥	10%	10%	0.100	0.100	0.100	0.100
石灰	10%	10%	0.100	0.100	0.100	0.100
硫酸	10%	10%	0.100	0.100	0.100	0.100
硫酸	10%	10%	0.100	0.100	0.100	0.100
總計			0.200	0.200	0.200	0.200

追肥ハ七月中旬迄ニ行フ。

四、播種

五月中旬ニ反當二升五合ヲ蒔代上ニ成ルベク均一ニ條播シタル後五分位覆土シ且ツ鎮壓ヲ行フ。

五、管理

中耕並除草ヲ各三回行フ。

第一回中耕 六月下旬

第二回中耕 七月中旬

第三回中耕 八月上旬

第一回除草 六月中旬

第二回除草 七月中旬

第三回除草 八月中旬

此ノ際追肥ヲ兼行ス

(除草ハ雜草ノ生長繁茂セザルニ先ダチテ行フ)

六、除

發芽ノ始メ並乳熟期ニハ特ニ雀ノ襲來スルコト多キヲ以テ鳴子威銃等ヲ用ヒ病害蟲害獸ハ夫々適宜ノ方法ヲ講ジテ防除ス。

七、調

生育、收量並品質ニ就キ記載セル諸項目ニ就テ之ヲ行フ。

八、收

刈取ハ穂首マデ黃熟スルヲ俟チテ行フ。而シテ生産力比較其ノ他收量ノ比較ヲ行フ試驗ハ必ず番外區ヲトリ誤差ヲ少ナカラシム。種子以外ハ晴天數日間稻架乾燥ヲ行フ。種子用ノモノハ特ニ陰乾トス。

九、調

種子以外ハ輪轉機ヲ用ヒテ脱穀シ、篩、風力又ハ唐箕ニ依リ夾雜物ヲ除キ脱芒機ニヨリ脱芒ヲ行ヒ適宜粒並玄米ノ調査ヲ行フ。

粒摺ハ岩田式粒剝機ヲ用フ。

種子ハ輪轉機ヲ用フル場合ハ廻轉數ニ注意シ周速毎分二千尺ヲ超エザル様ニス。

十、採

品種ノ特性ヲ具備スルモノヲ採種區ヨリ刈取り調製其ノ他ノ作業ニ當リ混淆セザル様注意ス。

移植ノ場合

一、選

直播ノ場合ニ同シ。

イ、苗

代

一、整

豫ノ苗代ニ充テタル畑ヲ約三寸位ニ耕起シ叮嚀ニ土塊ヲ細碎シテ表面ヲ大略平坦ニス。

二、施

完熟堆肥ヲ篩分ケタル後他ノ肥料トヨク配合シタルモノヲ耕起細碎シタル上ニ成ルベク厚薄ナキ様ニ撒布シ萬能又ハ爪ノ長キ「レーキ」等ヲ用ヒテ叮嚀ニ土粒ト混和シ稍鎮壓シテ表面ヲ平坦ナラシム。

坪當施肥量左ノ如シ。

堆肥 一貫 硫酸アムモニア 三〇匁

過磷酸石灰 五〇匁 灰 一五〇匁

窒素 八、五匁 磷 一、九五匁 加 里 九、五匁

此ノ外生育ノ不良ナル時ハ硫酸アムモニアノ水溶液ヲ追肥ス。

三、播

特定ノモノノ外ハ四月下旬、坪當二合五勺ヲ厚薄ナキ様ニ撒播ス。

播種後ハ細碎シタル土ヲ篩ニテ五六分一一寸位ニ覆ヒ鎮壓シテ發芽スルニ至ルマデ稻藁ヲ薄ク擴ゲテ乾燥ヲ防グ。

四、管

理

灌水……發芽スル迄常ニ床面ニ濕氣アル程度ニ夕刻灌水ス。

除草……陸苗代ニハ雜草ノ繁茂甚シキモノナルヲ以テ常ニ注意シテ除草ヲナス。雜草生長繁茂スレバコレヲ除ク際ニ稻苗ノ根ヲ損傷スルヲ以テ幼少ノ時ニ拔取ルコト肝要ナリ。

除害……陸稻ノ發芽後四——五分位ニ伸長スル迄ハ雀害激シキモノナレバ稻藁ヲ取り除キタル後ハ古漁網等ニヨリ其ノ襲來ニ備フ。又稻藁ヲ擴ゲタル下ニハ俗稱「團子蟲」群棲シ幼芽ヲ喰害スルヲ

以テ之ヲ捕殺ス。

其ノ他モグラ、ケラ、野犬等ニハ夫々適當ナル防止法ヲ講ズ。

口、本圃

一、整地

前作物ノ畦間ヲ耕耘シタル後作畦ヲナス。

麥ノ中耕、土入等ヲナシタル爲畦間深ク且ツ膨軟ナル場合ハ特ニ耕起スルノ要ナシ。

二、施肥

作條又ハ畦溝ニ配合シタル肥料ヲ成ルベク均等ニ撒布シ上ニ一寸位ノ覆土ヲナス。施肥量ハ直播ノ場合ノ標準肥料トス。

三、移植

特定ノモノノ外ハ六月十日頃(大凡四十五日苗)ニ株間三寸、一株三本ヲ移植ス。苗ノ拔取リヲ行フニハ鋤等ニテ成ルベク損傷セザル様又根ニハ成ルベク土ノ附着シタル儘本圃ニ運ビ直射日光ニ永ク放置スルコトナク手早ク移植スベキモノトス。移植ニ先ダチ淺ク作切リヲナシ置クモノトス。深植ハ分蘖ニ支障ヲ來スヲ以テ成ルベク淺植ヲ行フ。

四、管理

中耕、除草等ノ管理ハ直播ノ場合ニ準據ス。

陸稻試驗調査事項

一、生産能力ヲ調査スベキ試驗ニ對スル調査事項

イ、生育調査 發芽始 發芽揃 出穂始 出穂期 成熟期 草丈 穗長 莖數 一穗粒數 脫粒難易 病害蟲ノ有無及多少 倒伏ノ難易

ロ、量調査

反當秤重量 粗穗重量 粗一升重量 反當粗容量 玄米總重量 玄米一升重量 反當玄米容量 粗摺歩合(容量、重量) 標準ニ對スル收量歩合 收量順位

ハ、品質調査

粒ノ大小 形狀 色澤 腹白 心白 等級

二、生産能力ヲ調査セザル試驗ニ對スル調査事項

イ、葉 垂否 長短 廣狹 濃淡
ロ、稈 草丈 莖數(有効莖歩合) 細太
ハ、穗 穗長 一穗粒數 穗重 粒着粗密 脫粒難易 芒ノ有無及長短 芒又ハ稈先ノ色 稈色 稈色ノ多少
ニ、玄米 大小 形狀 色澤 腹白 心白 品質 等級
ホ、其ノ他 出穂始 出穂期 穗揃期 成熟期

三、麥

一、種子

風選後左記比重ニテ鹽水選ヲ行ヒタルモノヲ用フ。

大麥 一、一三三 小麥及稈麥 一、二二二

尙黒穗病、斑葉病ノ豫防法トシテ風呂湯浸法又ハ冷水温湯浸法ヲ行ヒ麥蛾ノ驅除ニハ二硫化炭素ニテ燻蒸ス。

イ、冷水温湯浸法

先ヅ種子ヲ袋ニ弛ク入レ冷水ニ三時間浸漬シタルモノヲ華氏百二十度ノ温湯ニ移シ手早ク數回引キ揚ゲ袋内ノ種子ノ温度ヲ可成均等ニシ右ノ温度ヲ保タシメ一時間ノ後取り出シテ充分ニ乾燥シ貯藏ス。

ロ、風呂湯浸法

前法同様ニ種子ヲ袋ニ入レ華氏百十五度ノ風呂湯ニ入レテ約八時間乃至十時間放置シ自然の冷却ニ任ス其ノ後ノ處置ハ前法ト同様トス。

二、整地

夏作收穫後第一回耕起ヲナシ以テ土壤ヲ膨軟ナラシム。地均シハ第二回耕起ノ際土塊ヲ碎キタル後ニ行フ。地均シヲ終リタル後直ニ所定ノ畦巾ニ作畦ヲ行フ。畦巾ハ試驗ノ種類ニヨリ異ル。原種圃及純系淘汰ニ二尺、豊凶考照試驗ニ二尺五寸、品種試驗ニ二尺五寸。

見本圃採種栽培 二尺

蒔代ハ畦巾二尺ノモノハ六寸、二尺五寸ノモノハ八寸トス。深サハ各四寸ニシテ元肥ヲ敷キ五分位覆土シ其ノ上ヲ鍬其ノ他ノ器具ニテ均ラシテ蒔床トナシ播種シタル上ハ五分一寸位ニ覆土シ足ニテ踏ミ付ク。

三、施肥

元肥ハ播種前ニ作畦シテ施シ追肥ハ十二月中旬及二月中旬ノ二回ニ分施ス。用量左ノ如ク試驗別ニ定ム。

イ、豊凶考照試驗

肥料名	第一回		第二回		備考
	追肥	窒素	追肥	窒素	
大堆肥	100	100	100	100	
過磷酸	100	100	100	100	
硫酸	100	100	100	100	
豆餅	100	100	100	100	
石灰	100	100	100	100	
人糞	100	100	100	100	
合計	100	100	100	100	

ロ、原種圃、品種試驗及純系淘汰ノ收量比較試驗

一、大麥

肥料名	第一回		第二回		備考
	追肥	窒素	追肥	窒素	
大堆肥	100	100	100	100	
過磷酸	100	100	100	100	
硫酸	100	100	100	100	
豆餅	100	100	100	100	
石灰	100	100	100	100	
人糞	100	100	100	100	
合計	100	100	100	100	

備考 生育ノ状況ニヨリ三成分ヲ配合追肥ヲ行フ。外ニ石灰反當ニ一〇貫施用。

二、小麥

肥料名	第一回		第二回		備考
	追肥	窒素	追肥	窒素	
大堆肥	100	100	100	100	
過磷酸	100	100	100	100	
硫酸	100	100	100	100	
豆餅	100	100	100	100	
石灰	100	100	100	100	
人糞	100	100	100	100	
合計	100	100	100	100	

備考 生育ノ状況ニヨリ三成分ヲ配合追肥ス。本年度ニ限り石灰反當三〇貫施用。

施肥法 元肥 作條ノ底ニ混合セルモノヲ平均ニ撒分シ淺ク覆土ス。追肥 第一回ノモノハ畦ノ一方ヲ掘リテ與ヘ、第二回ハ他方ニ同一方法ニテ施用ス。條播ニアリテハ第一回條間ニ、第二回條ノ外兩側ニ施與ス。

四、播種法

品種比較試驗、豊凶考照試驗、純系淘汰收量比較試驗等ハ蒔代ノ上ニ均一ニ條播ス。原種圃ハ二條、三—四寸基ノ目ニ二—三粒點播シ後間引ヲナシ一本立トス。純系淘汰ノ收量比較試驗ニ至ラザルモノハ三寸障ニテ二—三粒宛點播シ後間引ヲナシ一本立トス。

播種量(反當) 大麥 三升(原種二升五合) 小麥 二升五合(原種二升) 稈麥 二升五合

播種期 十月中旬—下旬

豐凶考照試驗 十月二十五日

五、管理

中耕 五回施行

- 第一回 十二月上旬
- 第二回 一月中旬
- 第三回 二月中旬
- 第四回 三月中旬
- 第五回 四月中旬(三月下旬又ハ四月上旬タルコトアリ)
- 土入 七回施行
- 第一回 十二月上旬
- 第二回 十二月下旬
- 第三回 一月上旬
- 第四回 一月下旬
- 第五回 二月中旬
- 第六回 三月上旬
- 第七回 三月下旬

土入ハ初メ少ク四、五分位ニシ次第二厚ク最後マデニ三、四寸ヲ入ル。

- 踏 壓 七回施行生育ノ狀況ニヨリ多少參酌ヲ要ス。
- 第一回 十二月上旬
 - 第二回 十二月下旬(或ハ中旬) 第一回追肥
 - 第三回 一月上旬(或ハ十二月下旬)
 - 第四回 一月中旬(或ハ上旬)
 - 第五回 一月下旬
 - 第六回 二月中旬 第二回追肥
 - 第七回 三月中旬(或ハ上旬) 生育狀況ニヨリ行フ

六、收穫 刈取ハ穂首マデ黄變セル時トシ、原種圃ハ稍早目ニ行フ。乾燥ハ麥架ニ掛ケテ行フ。

七、調製 充分ニ乾燥セルモノヲ輪轉機ニテ扱キ落シ連架ニテ芒ヲ打チ調製ス。

四、雜穀

- 一、選種 唐箕又ハ箕ヲ用ヒテ夾雜物ヲ除キタル後更ニ肉眼選別ヲナス。
- 二、整地 前作物ノ畦間ヲ耕耘シテ膨軟ナラシメ作切リヲ行フ。
- 三、施肥 作切リシタル後其ノ溝底ニ配合セル肥料ヲ施シ一寸位覆土ス。

標準施肥料左ノ如シ。五五混合ノ肥料ヲ用テ、一畝ニ五斗ノ土ヲ用ス。

作物名	肥料名	堆	肥	過燐酸石灰	硫燐加里	糞	灰
大豆	大豆	100	100	50	50	50	50
花生	花生	100	100	50	50	50	50

作物名	播種期	播種量	播種法	備考
大豆	五月上旬	三斗	條播	三粒宛坪十八株
花生	五月中旬	三斗	條播	三粒宛坪十八株
落葉	五月下旬	三斗	條播	二粒宛 立性坪十五株 匍性坪十二株

四、播種

五、管理

發芽后大、小豆ニ於テハ強キモノニ本立トシテ一本ヲ間引ク。
 粟黍ハ二——三寸ニ一本立ニ間引ス。
 中耕二回、除草三回施行ス。
 第一回 中耕 除草 六月下旬
 第二回 中耕 除草 七月下旬
 第三回 除草 八月下旬
 六、除害 土龍ハ土龍捕器ニヨリ黄金蟲ハ捕殺ス。二、四、十、十八、入。

七、收穫及調製

成熟期ニ至ラバ刈取、堀取又ハ拔取ヲ行ヒ乾燥シタル後適宜調製選別ヲ行フ。
 八、採種 特性ノ完備セルモノヲ選ビテ採種ス。
 九、調査 生育、收量並品質ヲ調査ス。

第一、水 稻

一、豊凶考照試験

縣下ニ於ケル水稻作ノ豊凶豫察ノ資ニ供センガ爲メ同一品種即チ早生稻ニテハ上總、今泉、信州、中生稻ハ愛國、關取、大和錦、晩生稻ハ張、中生神力、晩生神力、ヲ年々同一方法ニテ栽培シ定期ニ其ノ成育ヲ調査セリ其ノ結果次ノ如シ。

種別	草丈	葉數	草二丈	草十丈	日數	反當換算	一升重量
早稻	一、八五	一七九	三、九	三、九	三、九	二、六六	三、七
中稻	二、〇三	一七九	三、九	三、九	三、九	二、六六	三、七
晚稻	二、〇三	一七九	三、九	三、九	三、九	二、六六	三、七

三、經過概評

試驗中ニ於ケル氣候概況ヲ見ルニ苗代時代ハ氣温低ク苗ハ發育遲レシモ移殖後六月下旬ニ至ル迄ハ氣候順

Table with 10 columns and 12 rows. Columns include '品種', '草丈', '穂長', '莖數', '月出穂期', '月成熟期', '難脱粒', '難倒伏', '一升重量', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '備考'. Rows list various rice varieties and their characteristics.

Table with 10 columns and 12 rows. Columns include '品種', '草丈', '穂長', '莖數', '月出穂期', '月成熟期', '難脱粒', '難倒伏', '一升重量', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '備考'. Rows list various rice varieties and their characteristics.

Table with 10 columns and 12 rows. Columns include '品種', '草丈', '穂長', '莖數', '月出穂期', '月成熟期', '難脱粒', '難倒伏', '一升重量', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '昭利六年更正', '備考'. Rows list various rice varieties and their characteristics.

二、經過 概評

梗、早生二十種、中生三十一種、晚生十一種、糯、十三種ニ就キ當場普通耕種法ニ據リ五月三日、四日播種シ六月十九日ヨリ二十三日ノ間ニ移殖シ比較調査セルニ早生種ニ於テハ愛國種ハ何レモ強稈ニシテ收量多ク特ニ愛國二十號、晚新愛國ハ收量他ニ優リシモ兩者共ニ品質稍劣レリ奥羽試験地育成種ハ一般ニ稈太キモ草丈高ク倒伏シ易ク收量稍少ナシ早生撰一、早生關取種ハ其ノ性狀極メテ近似セルモノニテ收量多キモ草丈稍高ク稍小粒ニ過クル如シ早生太和力五十六號、寶玉、早生銀坊主、中早生銀坊主ノ收量稍少ナカリシモノ三者共ニ強稈ニシテ熟期、品質等、早生種中ニテ優良ナルガ如ク極早生種中ニテハ金華山ノ收量ハ二節水嶋ニ優リシモ尙充分比較調査ヲ要ス

中生種ニ於テハ愛國種ハ銀坊主ニ次ギ稈強健ナルモ無芒種ハ何レモ小粒ニテ腹白多ク收量稍少ナク其他有芒種中ニテモ收量品質共ニ愛國九十號ニ優ルモノナカリキ撰一種ノ收量ハ一般ニ高ク品質亦良好ナルモ國益種ノ草丈稍低キ他何レモ草丈高ク倒伏ノ恐アリ神力種中足柄神力ハ收量ニ於テ榮神力ハ品質ニ於テ稍優レタル點ヲ見ルモ耐病性其他ノ特性ハ何レモ近似スルヲ以テ尙重テ調査ヲ要ス西ヶ原系ノ各種ハ一般ニ細稈ニテ相當分蘗セシモ稈稍軟ク品質ノ優レタルモノナカリキ其他ノ品種中早生旭ハ耐病性稍弱ク收量多カラザレドモ熟期良ク品質良好ナルヲ以テ亦改良愛國ハ草丈低ク病虫害少ナク收量多ク品質中位ナレドモ其

ニ相當有望ナルヲ認ム。銀坊主三十八號、中生大和力五六號、不作不知ハ收量品質ニ於テハ特ニ優良ト認ムベキ點少ナカリシモ生育中他品種ニ比シ強健ナルヲ認ム。晩生種ハ標準種トシテ供用セル晩生神力ヲ始メ何レモ胡麻葉枯病ニ侵サレ充分ノ調査ヲ行ヒ得ザリシガ、神國、ベ張、雄町、千本旭ハ右病菌ニ對シ抵抗力稍強カリシガ更ニ充分ノ調査ヲ要スベシ。糯ハ各種共ニ甚シク稻熱病ニ浸サレ小針糯三號、石白糯、大正糯ハ特ニ被害多ク其他ノ品種ニアリテモ病害ノ爲メ充分ノ特性調査ヲ行フヲ得ザリキ。

一、目的
三、品種豫備比較試驗

縣ノ内外ヨリ蒐集セル有望ト認ムベキ品種ニツキ當場耕種標準ニ依リ比較栽培シ品種比較試驗ニ供用スベキ品種ヲ豫選セントス。

二、成績
早生ノ部

Table with columns: 品種名, 草丈, 穂長, 莖數, 出穂期, 成熟期, 難易, 倒伏, 一升重量, 反當, 百分更正, 更正收量, 平均收量, 稈重量, 備考. Rows include various rice varieties like 早生, 早生, 早生, etc.

中生ノ部

Table with columns: 品種名, 草丈, 穂長, 莖數, 出穂期, 成熟期, 難易, 倒伏, 一升重量, 反當, 百分更正, 更正收量, 平均收量, 稈重量, 備考. Rows include varieties like 早生, 早生, 早生, etc.

晩生ノ部

Table with columns: 品種名, 草丈, 穂長, 莖數, 出穂期, 成熟期, 難易, 倒伏, 一升重量, 反當, 百分更正, 更正收量, 平均收量, 稈重量, 備考. Rows include varieties like 早生, 早生, 早生, etc.

品名	草丈	穗長	莖	本數	出穂期	月成熟期	難脱	難易粒	難倒伏	一升重	反當	昭和六年	昭和六年	備考
九州五八號	三三九	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
高知	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
大分	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
徳島	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
徳島	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
徳島	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
静良	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
原種	三三六	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇

糯品種比較豫備試験

品名	草丈	穗長	莖	本數	出穂期	月成熟期	難脱	難易粒	難倒伏	一升重	反當	昭和六年	昭和六年	備考
標準一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
柳張一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
太郎兵衛	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
小安	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
大正	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
白鳥	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
七面鳥	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
瀧下	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇

三、經過概評

糯、早生十三種、中生十三種、晩生二十一種、糯九品種ニ就キ試験セルニ早生種中ノ新イ號、秋田一號、酒田早生ハ其ノ性狀極メテ近似シ秋田一號ハ稍有有望ト認メラル福坊主一號宮城全山形ノ二品種ハ收量、品質共ニ稍優リシガ草丈高ク倒伏ノ恐アリ中生種中愛國五號、全三號、ハ收量ハ他ノ品種ニ優リ有望ナルヲ認ム尙銀坊主八八號ハ強健ニテ銀坊主三八號ニ比シ成熟期早ク相當有望ナリ晩生種ニ於テハ標準品種晩生神力ヲ始メ各種共胡麻葉枯病ニ侵サレ收量少ナカリシガ丹後中稻畿内三七號、中辨四八號、ノ各種有望ト認メラル糯ニ於テハ何レモ稻熱病ニ侵サレ有望ト認ムルモノナカリキ。

四、新品種育成試験

一、目的
人工交配ニ依リ育成セラレタル新品種ニ就キ其ノ性狀並收量ヲ調査シ優良未固定種ハ淘汰ヲ行ヒ本縣ニ適合スル新品種ヲ選出セントス。

品名	草丈	穗長	莖	本數	出穂期	月成熟期	難脱	難倒伏	一升重	反當	昭和六年	昭和六年	備考	
標準	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東五號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東六號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東七號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東八號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東九號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十二號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十三號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十四號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十五號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十六號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十七號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十八號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東十九號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十二號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十三號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十四號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十五號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十六號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十七號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十八號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東二十九號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十二號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十三號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十四號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十五號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十六號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十七號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十八號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東三十九號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十一號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十二號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十三號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十四號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十五號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十六號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十七號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十八號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東四十九號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇
關東五十號	三三〇	六六六	六六六	九〇七	一〇、一四	九、一〇	難	二六八	一、八〇〇	二〇七五	二八〇	一九四〇	一九四〇	一九四〇

三、經過概評

九新品種ノ他ニ關取二十七號、及地力更正ヲ兼テ愛國九十號ヲ標準種トシテ供用シ品種比較試験ト全一期日ニ同一方法ニ依リ試験セルニ、關東一號ヨリ四號迄ノ各種ハ何レモ草丈短ク分蘖多ク稈細キモ割合ニ強健ナルニ反シ奧羽試驗地育成種ハ草丈稍高ク稈太キモ軟弱ナル傾アリ米ハ關東各種ハ一般ニ小粒ニシテ關東一號ハ他ニ比シ稍大粒ナリシガ溝深ク腹白多ク三號ハ收量多キモ小粒ニ過ル如ク四號ハ三號ニ比シ收量劣リシモ粒大キク品質良好ナルヲ以テ最モ有望ナリ陸羽一二五號奧羽六三號全二九號ハ米粒愛國種ヨリ大ニテ品質良好ナルヲ以テ早生中生種トシテ更ニ調査ヲ要ス如シ。

三三三二二一	號號號號號號	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
六二一七一〇〇		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇
		三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇

八、早生神力純系淘汰
 早熟多收ニシテ品質佳良ナル優良系統ヲ選出セントスルモノニシテ前年度試験ノ結果有望ト認メタル五系統ニツキ一區六坪二區制トシ各系統毎ニ早生神力在來種ヲ標準トシテ入レ比較セル結果ハ左表ノ如ク一四五號並ニ一二〇號收量ニ於テ優レルヲ示セリ。

品名	草丈	穗長	莖數	出穗期	成熟期	難易	倒伏	一升重量	昭和六年	正收量	更正收量	平均收量	程重量	備考
早神在來	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二
一四五號	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二
一二〇號	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二

二、吉川純系淘汰
 前者同様ノ目的方法ニヨリ五系統ニツキ吉川在來種ヲ標準トシ比較セル結果ハ左表ノ如ク三〇五號一〇一號等良好ナリキ。

品名	草丈	穗長	莖數	出穗期	成熟期	難易	倒伏	一升重量	昭和六年	正收量	更正收量	平均收量	程重量	備考
中愛九〇號	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二
一〇一號	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二

ホ、三次郎純系淘汰
 收量多ク品質佳良ナル系統ヲ選出セントスルモノニシテ一區六坪二區制トシ五系統置ニ標準品種ヲ挿入シ比較試験セル結果ハ左表ノ如ク五四、一一號、五四、一〇號等良好ナリキ、尙重ネテ調査ヲ試ミムトス。

品名	草丈	穗長	莖數	出穗期	成熟期	難易	倒伏	一升重量	昭和六年	正收量	更正收量	平均收量	程重量	備考
標七	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二
標五	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二
標二	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二	五五五五五五	八八八八八八	一一一一一一	四四四四四四	七七八七八七	〇〇〇〇〇〇	三三三三三三	六六六六六六	九九九九九九	二二二二二二

九、原種更正
 原種原種ヲ維持センガ爲メ原種育成ニ準ジ各種三十株ヲ株別ニ採種セルモノヲ栽培シ純否ヲ調査シ原種田供用種子トセリ。

十、品種保存
 試験ノ結果成績良好ナリシ品種並ニ縣内外ニ於テ有望ト認メラル、品種及特殊ナル品種十品種ヲ蒐集栽培

シ特性ノ調査ヲ兼ネ當業者ノ參考ニ供シタリ。

十一、挿秧時期試験

一、目的

早稻、中稻、晚稻、ノ挿秧適期ヲ知ラントスルモノニシテ一區五坪二區制トシ肥料ハ堆肥ヲ除クノ他挿秧三日前ニ施シ當場普通耕種法ニ依リ試験セル結果ハ左表ノ如シ。

二、成績

移品 植種	時名	期及	草丈 尺	穂長 寸	莖數 本	出穂期 月日	成熟期 月日	難 易	難 易	難 易	難 易	粗 収	升重 量	反當 石	昭 和 六 年	更 正 四 ヶ 年	米 收 量	秤 重 量
水島	六月六日	二二一	三三三	三三三	一一一	八八八	八八八	易	易	易	易	二二二	九九九	三三三	二二二	三三三	九九九	三三三
中愛	六月七日	二二一	三三三	三三三	一一一	八八八	八八八	易	易	易	易	二二二	九九九	三三三	二二二	三三三	九九九	三三三
晚神	六月八日	二二一	三三三	三三三	一一一	八八八	八八八	易	易	易	易	二二二	九九九	三三三	二二二	三三三	九九九	三三三

三、經過概評

早生稻水島ハ六月廿七日植區最モ收量多ク六月廿日植區並ニ七月四日植區之ニ次ギ中生稻愛國ハ六月廿七

日植區最モ優リ七月九日植區七月四日植區之ニ次ギ既往ノ成績亦何レモ同様ノ傾向ヲ示セリ、晚生稻神力ハ七月四日植區最モ優リ七月九日植區六月廿七日植區之ニ次ギ既往ノ成績ハ遅キ程成績良好ナル事ヲ示セルモ一升重量ニ於テハ一般ヲ通ジ移植期遅ルルニ從ヒ減少ノ傾向ヲ示シタリ。

十二、除草回数試験

一、目的

除草ノ回数並ニ除草ノ方法異ナル場合水稻ノ生育收量ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ中

二、成績

區名	一升重 収	昭 和 六 年	更 正 四 ヶ 年	秤 重 量	備 考	區名	一升重 収	昭 和 六 年	更 正 四 ヶ 年	秤 重 量	備 考
第一區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇		第一區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇	
第二區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇		第二區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇	
第三區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇		第三區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇	
第四區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇		第四區	三九二	二二二	二二二	一〇〇〇	

備考

區名	第一回除草	第二回除草	第三回除草	第四回除草
第一區	移植後十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第一回除草後十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第二回除草後十五日目手取	第三回除草後十日目手取
第二區	移植後十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第一回除草後十五日目手取	第二回除草後十日目手取	第三回除草後十日目手取
第三區	移植後二十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第一回除草後十五日目手取	第二回除草後十日目手取	第三回除草後十日目手取
第四區	移植後二十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第一回除草後十五日目手取	第二回除草後十日目手取	第三回除草後十日目手取
第五區	移植後二十日目中耕除草機使用直ニ手直シ	第一回除草後十五日目手取	第二回除草後十日目手取	第三回除草後十日目手取

三、經過 概評

除草時期遅レタルモノハ手取區優リシモ然ラザル場合ハ機械取手取ヲ併セ行ヒシモノノ收量多ク三回除草區割合ニ收量多ク既往ノ成績亦同様ノ傾向ヲ示シタリ。

十三、苗代播種量對取量試驗

一、目的
苗代ニ於ケル播種量ノ多少ガ苗ノ生育並ニ本田移植後ノ收量ニ及ボス影響ヲ知ランガ爲メ中生愛國種ヲ用ヒ苗代播種量ヲ坪當リ一合、三合、五合、七合トシ本田移植ハ坪七二株一株苗數ヲ左表上記ノ如クシタル結果ハ左ノ如シ。

二、成績

區	名	草丈	穗長	莖數	出穗期	成熟期	脫粒	倒伏	一升重	玄米	昭和六年度	反當收量	石	秤重
標準二合播	一本	三〇	六四	一一	八八	〇〇	〇〇	難	二八九	三九四	二、六三五	正收量	二、六三五	一九、三〇〇
一合播	二本	三〇	六四	一一	八八	〇〇	〇〇	難	二八九	三九四	二、六三五	正收量	二、六三五	一九、三〇〇
三合播	三本	三〇	六四	一一	八八	〇〇	〇〇	難	二八九	三九四	二、六三五	正收量	二、六三五	一九、三〇〇
五合播	五本	三〇	六四	一一	八八	〇〇	〇〇	難	二八九	三九四	二、六三五	正收量	二、六三五	一九、三〇〇
七合播	七本	三〇	六四	一一	八八	〇〇	〇〇	難	二八九	三九四	二、六三五	正收量	二、六三五	一九、三〇〇

三、經過 概評

収量ニ於テハ厚播多苗植優リタル結果ヲ示シ五合播七合播ヨク且ツ兩者共插秧一株苗數多キ程良好ナリキ三合播ニ於テハ三本植區優リ一合播ニ於テハ二本植區優リタリ。一升重量ニ於テハ特別ノ變化ヲ認メザリシモ重ネテ調査セムトス。

十四、原種 圖

次年度ニ於テ採種圃ニ供用スベキ目的ヲ以テ縣獎勵品種早生愛國、中生愛國、中生銀坊主、撰一、中生神力、晚生神力、京都神力、水島、二節、早生大和力、早生銀坊主、中生大和力、不作不知、畿內剛力ノ種子ヲ育成シ其ノ中昭和七年度採種圃用種トシテ左ノ如ク配付シタリ。

種	類	品	種	名	配	付	數	量	同	上	合	計
(原種) 早	生	早	生	愛國	〇	一	五					
(原種) 中	生	中	生	愛國	〇	一	五					
(原種) 中	生	中	生	銀坊	〇	一	五					
(原種) 晚	生	晚	生	神力	〇	一	五					
(原種) 晚	生	晚	生	神力	〇	一	五					
(準原種) 早	生	早	生	大和	〇	一	五					
(準原種) 早	生	早	生	大和	〇	一	五					
(準原種) 中	生	中	生	大和	〇	一	五					
(準原種) 中	生	中	生	大和	〇	一	五					
(準原種) 晚	生	晚	生	大和	〇	一	五					
(準原種) 晚	生	晚	生	大和	〇	一	五					

三五八



温稍上昇シタルモ七月中、下旬ハ再ビ低温ナリキ。降水量ハ六月中ハ平年ニ比シ約半量ナリシガ七月ハ之ニ反シ平年ノ二倍ニ近ク稍軟弱徒長繁茂セリ。然ルニ盛夏八月以降ハ概ネ氣温高ク降水量ハ八月一、九、八ミリメートル（平年一〇九、六ミリ）九月一九〇、七ミリ、（平年二二二、一ミリ）ニシテ晴天持續シ降雨日數八、九兩月ヲ通ジテ僅カニ十五日ニ過ギザレバ出穂ヲ妨ゲラレ著シク生育ニ障害ヲ來シ早生種程被害甚ダシク豊年（千葉）てれんず（千葉）ノ如キハ所定ノ坪數ニテハ玄米一升重量ヲ測定シ得ズ從ツテ反當收量ノ換算不能トナレリ、一石以上ノ收量アルモノ僅カニ梗四品種ニ過ギズ、品質ハ各品種共ニ著シク劣レリ。早害ノ程度ハ圃場ノ位置並耕土ノ關係ニヨリ糯ニ於テ甚ダシ。本年ノ生育收量ヨリ梗オイラン及田優ノ二三系統比較的希望ト認メラレタリ。

三、品種豫備比較試験

一、目的

廣ク縣ノ内外ヨリ蒐集セル品種ニツキ當場耕種標準ニヨリ比較栽培ヲ行ヒ以テ品種比較試験ニ供用スベキ品種ヲ選出セムトス。

二、成績

品種名	程尺	穗長	莖數	出穂期	成熟期	脱粒	強弱	一升重量	反當玄米收量	年百分	ケ年平均	秤重量	備考
三太郎一〇三號	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ
三太郎一〇三號	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ乙區ノミ
三太郎一〇三號	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ乙區ノミ
三太郎一〇三號	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ乙區ノミ
三太郎一〇三號	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ乙區ノミ

品種名	程尺	穗長	莖數	出穂期	成熟期	脱粒	強弱	一升重量	反當玄米收量	年百分	ケ年平均	秤重量	備考
常陸錦大和田	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ
常陸錦大和田	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ
常陸錦大和田	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ
常陸錦大和田	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ
常陸錦大和田	三三〇	八〇	二八	八二	九六	強	強	二七二	一〇、八	一〇、八	一〇、八	一〇、八	收量ハ甲區ノミ

系統名	草丈尺	穗長寸	莖數本	出穂期月日	成熟期月日	難脱粒	強弱	一升重量	反當玄米	收穫石	秤重量
凱旋糯(埼玉)	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
東京支那糯	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
早生江會島糯	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
藤藏(栃木)	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
尾張糯(神奈川)	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
凱旋糯(福島)	二、九六	七、一	三、八	八、二五	九、一〇	難	強	九、〇〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇

三、經過概評

本試験ハ梗二十八品種糯二十四品種ニ就キ一區六坪二區制ニテ行ヒタルモノニシテ播種ハ梗五月二十一日糯五月二十日ナリ、經過ハ品種比較試驗ノソレニ相似タレドモ本試験ニ於テハ晩生種ニ著シキ旱害ヲ蒙リタリ、梗ハ概シテ收量多カリシガ糯ノ晚キモノハ成績不良ナリキ本年ノ成績ニヨリ比較有望ト認メラレタルモノハ梗早生陸稻、花魁、早不知(豊富村)常陸錦(大和田町)中生田勝(旭村)吉川(志津村)雀不知(志津村)金チャボ(新川村)極早生盆倉(海上郡)糯田上り(湖北村)田勝(湖北村)岡太郎(川間村)早生白芒糯(更科村)凱旋(豊富村)等ナリ。

四、純系淘汰

一、目的
經濟的優良ナルモノ特ニ耐旱性强キ系統ヲ選出セムトス。

二、成績

系統名	草丈尺	穗長寸	莖數本	出穂期月日	成熟期月日	難脱粒	強弱	一升重量	反當玄米	收穫石	秤重量
同捷	二、七六	七、七	三、八	八、二四	九、一〇	難	強	八、九〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
同捷	二、七六	七、七	三、八	八、二四	九、一〇	難	強	八、九〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
同捷	二、七六	七、七	三、八	八、二四	九、一〇	難	強	八、九〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇
同捷	二、七六	七、七	三、八	八、二四	九、一〇	難	強	八、九〇〇	〇、七九	三、八〇	八、三、〇〇〇

同同同	標準	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	一	二

三、經過概評

本試験ハ目的ノ項ニ記載セル如ク特ニ耐旱性强キ系統ヲ選出セムガタメ行ヒタルモノニシテ一區七坪二區制ニテ收量比較ヲナセリ。
生育期間中ノ氣候ハ品種比較試驗ノ項ニ於テ記述セル如クナリシガ相當ニ耐旱性强キ品種ト目サレタル本種モ著シク被害ヲ受ケ殆ンド見ルベキモノナシ。陸稻ノ耐旱性ハ生育期間中ニ於ケル早魁ノ襲來時期ノ相異ニヨリテ左右サルルモノニシテ絶對的ニ耐エ得ルモノ殆ンド無キガ如シ。サレバ將來耐旱性强キ品種ノ育成發見ニ努ムルト同時ニ耐旱栽培法ノ研究ハ重要ナルモノト思惟ス。

五、旱害豫防法試驗

一、目的
陸稻落花生ノ混植ト旱害トノ關係試驗

陸稻ト落花生トノ混植ヲ行ヒ陸稻ノ旱害状態ヲ調査シ之ガ防除ニ適當ナル方法ヲ驗知セムトス。

二、成績

區名	草丈尺	穗長寸	莖數本	出穂期月日	成熟期月日	一升重量	反當玄米	收穫石	陸稻落花生	陸稻落花生
陸稻一畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻二畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻三畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻四畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻五畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻六畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻七畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻八畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻九畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三
陸稻十畦	三、〇三	八、〇	三、三	八、一八	九、一八	三、八〇	〇、七九	一、〇〇一	九、七、〇〇〇	三、四、三三

備考 陸稻玄米一斗一田五十錢、落花生上實百斤六田ノ單價トス

三、經過 概評

本試驗ハ陸稻オイラン種、落花生千葉中粒四三號ヲ供用シ一區七、五坪二區制トシ耕種法ハ夫々當場ノ耕種標準ニ據リタリ。
 早害防除ノ一方策トシテ陸稻ノ畦間ニ落花生ノ畦ヲ交互ニ挿入シタルニ落花生ノ枝葉ノ繁茂スルハ日照烈シク降水量ノ割合ニ少キ七月乃至九月上旬ナルヲ以テ此ノ期間畦間ノ空地ヲ蔽ヒ宛カモ陸稻ノ畦間ニ敷草ヲナシタルニ似タル状態トナリ陸稻ノ出穂期前後ニ要求スル水分ヲ補フニ有效ナルモノト認めラル。勿論落花生ノ葉面ヨリ蒸散スル水分モ相當大ナルモノト考ヘラルルモ露出セル畦間ヨリ逸散スル水分ハ落花生ノ繁茂セル場合相當ニ減少スルガ如シ。
 又落花生ハ陸稻ノ畦アル爲メニ密生ノ害ヲ輕減サレ稔實良好トナリ一齊栽培ノ場合ヨリモ上實ノ收量多シ播種管理收穫等ノ作業モ普通ノ場合ト勞力ノ点ニ於テ大差ナク地方ニヨリテハ實用的價值アリト認めム。

一、目的

陸稻栽培ニ於テ堆肥又ハ厩肥ヲ使用スルト、大豆粕、硫酸アムモニア等ヲ使用スルト早害並收量ニ如何ナル影響アルヤヲ驗知セムトス。

二、成績

區名	草丈	穂長	莖數	出穂期	成熟期	一升重量	玄米	玄米反當收量	三ヶ年平均收量	秤重量
同夏冬	二、六九	七、七四	八、八三	八、三三	九、二六	二、七三	三、八二	〇、七三六	一、一八八	六、八五〇
同夏冬	二、七九	七、六四	七、八九	八、三三	九、二六	二、八九	三、八二	〇、七三六	一、一八八	六、八五〇
同夏冬	二、七九	七、六四	七、八九	八、三三	九、二六	二、八九	三、八二	〇、七三六	一、一八八	六、八五〇
同夏冬	二、七九	七、六四	七、八九	八、三三	九、二六	二、八九	三、八二	〇、七三六	一、一八八	六、八五〇
同夏冬	二、七九	七、六四	七、八九	八、三三	九、二六	二、八九	三、八二	〇、七三六	一、一八八	六、八五〇

同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬	同夏冬
堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫	堆肥五〇貫
二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九	二、七九
七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四	七、六四
八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九	八、八九
八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三	八、三三
九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六	九、二六
二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九	二、八九
三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二	三、八二
〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六	〇、七三六
一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八	一、一八八
六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇	六、八五〇

備考 堆肥五〇貫區ヲ基礎トシ二五〇貫區不施肥ハ其ノ不足ノ窒素分ヲ第一區ヨリ第七區マデハ大豆粕、第八區ヨリ第十四區マデハ硫酸アムモニアヲ以テ補充セリ。

三、經過 概評

本試驗ハオイラン種ヲ供用シ一區十坪二區制ニテ施行セリ。
 生育ノ初期ニ於テハ堆肥施用量ノ少キ區程莖葉ノ繁茂旺盛ニシテ伸長亦速カナレドモ日照強烈ニシテ降雨ナキニ至レバ其ノ萎凋スルコト早ク遂ニハ葉先枯損スルニ至ル。而シテ堆肥ノ施用量多キ區特ニ夏作ニミ五〇貫ヲ施用スル區ノ如キハ毛管現象妨ゲラレ分蘗伸長共ニ不振ニシテ生育ハ一般ニ貧弱ナリ。但シ莖葉ノ萎凋スルハ稍遅ル。
 成績表ニ見ル如ク堆肥ハ二五〇貫程度ヲ適當トシ夏冬二期ヲ通ジテ施スモ夏又ハ冬ノ一期ノミ施スモ收量ニ於テ大差ナシ。只大豆粕ヲ補給スル場合ハ冬作ニ堆肥ヲ施用スル方稍有利ナルガ如シ。
 三ヶ年ノ試驗ヲ通ジ成績區々ニシテ結論ヲ得難キモ耕土ノ深カラザル場合ニ堆肥ノ多用ハ早害防除ニハ大ナル効果ヲ認め難シ。

八、移植 試驗

一、目的
陸稻ノ移植ガ早害並収量ニ及ボス影響ヲ驗知セムトス

二、成績

(五月一日播種セルモノ)

區名	草丈尺	穗長寸	莖數本	出穗期月日	成熟期月日	一升重量匁	玄米匁	玄米反當收量石	玄米年平均收量石	秤重量
一、株一本移植標準區	三、八九三	七、七八	八、八五	八、一五	九、一六	二、六七	三、八九	一、七九	一、七三	六、三九四
二、株二本移植標準區	三、〇五五	七、七九	九、四六	八、一五	九、一六	二、七七	三、八六	一、〇〇五	一、三三二	六、三七一
三、株三本移植標準區	三、〇三三	七、七六	八、八五	八、一五	九、一六	二、七七	三、八六	一、〇〇五	一、三三二	六、三七一
四、株四本移植標準區	三、〇三三	七、七六	八、八五	八、一五	九、一六	二、七七	三、八六	一、〇〇五	一、三三二	六、三七一
五、株一本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
六、株二本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
七、株三本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
八、株四本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
九、株一本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十、株二本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十一、株三本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十二、株四本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇

備考 標準區ハ五月二十三日反當二升ヲ直播ス
(五月十五日播種セルモノ)

一、株一本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
二、株二本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
三、株三本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
四、株四本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
五、株一本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
六、株二本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
七、株三本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
八、株四本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
九、株一本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十、株二本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十一、株三本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇
十二、株四本移植標準區	三、〇〇一	七、七五	八、八五	八、一五	九、一六	二、七三	三、八七	一、一八八	一、八三三	六、二〇〇

備考 標準區ハ五月二十三日反當二升ヲ直播ス
(五月十五日播種セルモノ)

三、經過 概評

本試験ハオイラン種ヲ供用シ一區六坪二區制ニテ行ヒ移植ノ株間ハ畦巾二尺ニ對シ四寸一條トセリ。生育期間中移植期ノ遅キモノ即チ七月ニ入りタルモノハ異常出穂ヲナスモノ多ク、出穂期モ早マリ分蘗モ割合ニ少シ。即チ苗代期間長ク草丈アマリニ伸長セルモノハ移植ニ適セズ。五月十五日播種ノ苗ヲ移植セル區ハ成績ノ上ニ傾向ノ一致セザル点アレドモ五月一日播種ノモノハ大体次ノ如キ事實ヲ認メラル。一、陸稻ノ移植ハ早害防止ニ有効ナリ。二、移植期ニ就テハ後ルルニ從ヒテ収量減少ス。三、苗代日數ノ長キニ從ヒテ収量減少ス。四、移植早キモノハ一株苗數ノ少キ程収量多ク後ルルニ從ヒ一株苗數多キ程収量多シ從ツテ移植オクルルニ伴ヒ一株ノ苗數ヲ増ス必要アリ。五、一株ノ苗數同ジキト移植期早キ程収量多シ。六、苗代日數七十日ニ至レバ異常出穂ヲナスモノ多ク減收ヲ招ク。七、移植オクルルニ從ヒ草丈低シ但シ六月三十日後ハ多少此ノ傾向亂ル。八、一株苗數少キモノノ一升重量ハ多キモノヨリ重シ。九、玄米一升重量ハ移植期早キモノ程重シ。一〇、移植期オソキモノ程重量輕シ、即チ生育不良ナリ。一一、移植

般的ノ經過良好ナリシタメ收量ハ比較的増加ヲ見タリ。

一、豊凶考照試驗

一、目的

毎年同一品種ヲ同一ノ耕種法ヲ以テ同一土地ニ栽培シ定期ニ生育状態ヲ調査シ、既往ノモノト比較對照シ之ニ基キ其ノ年ニ於ケル麥類ノ豊凶ヲ考照セムトス。

二、成績

種別	春		夏		大暑	
	丈	分	丈	分	反當收量	一升重量
大麥三種平均	八〇八		二、八八		三、九九六	二九六
小麥三種平均	七、七七		二、三三		二、八三〇	三六二
稈麥三種平均	七、五三		二、二四		三、〇三六	三五九

三、經過概評

本試驗ハ十月二十五日播種一區八坪二區制ニテ施行セリ。播種ノ經過ハ一般經過ニ述ベタル如ク、氣候適順ニシテ結實良好ナリシタメ平年ニ比シ一升重量重ク、收量ニ於テハ大麥三種平均二割二分八厘強、小麥三種平均四割五分九厘強、稈麥三種平均三割六分四厘強ノ增收歩合ヲ示セリ。

二、品種比較試驗

一、目的

品種豫備比較試驗ノ結果有望ト認メタルモノニツキ其ノ性状並ニ收量品質ヲ調査シ以テ本縣獎勵品種タル可キモノヲ選出セントス。

二、成績

(一) 大麥

品名	種	尺	寸	莖數	本	出穗期	成熟期	品質	量一升重	年	反當收量	秤重量	備考
關取一號	關取一號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取二號	關取二號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取三號	關取三號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取四號	關取四號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取五號	關取五號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取六號	關取六號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取七號	關取七號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取八號	關取八號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取九號	關取九號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十號	關取十號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十一號	關取十一號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十二號	關取十二號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十三號	關取十三號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十四號	關取十四號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十五號	關取十五號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十六號	關取十六號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十七號	關取十七號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十八號	關取十八號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取十九號	關取十九號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ
關取二十號	關取二十號	二、八〇	二、七	二〇	二四	五、〇	六、〇	中	三、〇	五、〇	四、一六	一、三	適良ノ生育病害ナシ

三、經過概評

本試驗ハ十月二十八日播種一區八坪二區制ニテ施行セリ。播種后ノ經過ハ一般經過ニ於テ述ベタルモノト大差無カリキ。供試品種中谷風、五畝四石、關取一號、關取二號ハ關取型ニ屬スルモノニシテ特性ハ關取二號原種ト大差ナシ。穗揃原種及三德原種ハ生育適良ニシテ收量多ク食味佳良ニシテ飯用ニ適ス。金玉ハ病害、寒害ニ共ニ強ク收量多ケレドモ熟期遲シ。神堂二號ハ寒害ニ弱ク細身多キ缺点アリ。四國ハ生育良好ニシテ收量多キモ熟期遲シ。

(二) 小麥

岡)ハ寒害ニ強キモ斑葉病ノ發生ヲ見ル、倒伏シ難ク收量多ク有望ナリ。宗兵衛ハ生育旺盛ニシテ收量多ク有望ナリ。

三、小麥耐寒性ト播種期關係試驗

一、目的

耐寒性弱キ小麥江島神力ト耐寒性强キ赤達摩ニ就キ播種期ノ早晚ト寒害トノ關係ヲ研究セントス。

二、成績

播種月日	品名	稈長尺	穗長寸	莖數本	出穗期月日	成熟期月日	一升重量匁	品質	年石	反當收量	稈重量匁
十月二十五日	赤達摩	二、四二	二、七八	二二	四、二六	六、一〇	三四六	中上	二、六三四	一、六五三	一、〇三三
十月二十九日	赤達摩	二、四八	二、七〇	一九	四、三〇	六、一四	三五四	中中	二、九四〇	一、八四〇	一、〇三三
十一月五日	赤達摩	二、六〇	三、〇〇	七六	四、三〇	六、一六	三五七	中中	二、七一一	一、七八〇	一、〇三三
十一月九日	赤達摩	二、七六	三、一三	七六	四、三〇	六、一六	三五七	中中	二、七一一	一、七八〇	一、〇三三
十一月十五日	赤達摩	二、七六	三、一三	七六	四、三〇	六、一六	三五七	中中	二、七一一	一、七八〇	一、〇三三
十一月二十五日	江島神力	三、〇八	三、五三	六六	四、二六	六、一三	三六〇	中上	二、〇六五	一、三四五	一、〇三三
十二月五日	江島神力	三、〇八	三、五三	六六	四、二六	六、一三	三六〇	中上	二、〇六五	一、三四五	一、〇三三
十二月十二日	江島神力	三、〇八	三、五三	六六	四、二六	六、一三	三六〇	中上	二、〇六五	一、三四五	一、〇三三
前年ノモノ不明											

三、經過概評

十月十五日播種一區七、三坪二區制ニテ試驗セリ。赤達摩區ニアリテハ初メヨリ生育旺盛ニシテ寒害ヲ認メズ、出穗期頃ニ至リ葉ニ白斑点ヲ認メ立枯病少シク發生スルモ收量多ク子實普通ナリ。

江島神力區ニアリテハ寒害甚大ニシテ分蘖ノ約半數位ノ出穗ヲ見タリ隨ツテ成熟ハ一齊ナラズ子實瘠粒ナリ。十月二十二日播種赤達摩區ニ於テハ寒害、病害共ニ少ナク生育良好ニシテ收量多ク品質中ノ上ニシテ本試

驗區ニ於ケル適期ト認メ得可シ。江島神力區ニ於テハ普通生育狀態ノモノ約七割ヲ占メ、黃綠斑葉ノモノ約三割見當ナリ圃場關係ニ支配セラレタル傾向アルモ寒害被害ノ程度ハ前區ニ次イテ甚シク收量品質共ニ低シ。

十月二十九日播種赤達摩區ニ於テハ生育狀況普通ト認ム。江島神力區ニ於テハ九割位健全莖ニシテ生育狀況稍良好ナリ。

十一月五日播種赤達摩區ニ於テハ生育普通ナレドモ分蘖少シ播種量ヲ増加スルニ於テハ相當成績ヲ現シ得ルモノト認ム收量低ケレドモ品質ハ普通ナリ。

江島神力區ニ於テハ十月二十九日播種ノモノヨリ生育狀態不良ナリ(特ニ不良ナル原因ハ不明ナルモ氣候ノ關係ナランカ)

十一月十二日播種赤達摩區ニ於テハ生育ノ初期ニ於テ霜柱ノ爲メ枯死セルモノアリタルタメ全体ノ分蘖莖數少シ。

江島神力區ニ於テハ全區健全ニシテ稀ニ縞葉ノモノヲ認ムルモ適當ノ播種期ナラン、生育適良、出穗後ノ狀況モ又可ナリ、立枯病ノ發生モ少ク、隨ツテ收量多ク品質モ良好ナリ。要スルニ江島神力種ニアリテハ播種期ノ早キ程概シテ減收ナリ。

四、小麥播種量試驗

一、目的

小麥粒ノ大小ニ依リ播種量ヲ異ニスベキモノト思惟セララルガ故ニ大粒種ト小粒種ニ就キ粒數ヲ同ジクシタルモノト、容量ヲ等シクシタル區ヲ設ケ試驗セリ。

二、成績

三、經過概評

十月二十七日播種一區十坪二區制ニテ施行セリ。其ノ后ノ經過一般經過ト差ナシ。小麥ト陸稻ノ交互區ハ生育中庸ニシテ粒ノ肥瘠中位、品質亦中。小麥ト甘藷ノ交互區ハ前作物甘藷ノ吸肥力大ナルタメ小麥ノ葉色他ニ比シ淡シ、随ツテ收量著シク減少スレドモ粒肥大ニシテ品質上位ナリ。然レドモ著シク粉狀質ニ傾クヲ見ル。陸稻ノ后ニ麥ヲ栽培スルニ大、小麥ヲ隔年ニ入ルルハ收量ヲ減ズルコト小麥ノ連作區ヨリ稍少ナキガ如シ。

六、大麥踏壓時期試驗

一、目的

大麥栽培ニ於テ踏壓ノ最モ有利ナル時期ヲ檢知セントス。

二、成績

試驗區名	踏壓施行セル月日	反當收量石	反當二ヶ年平均收量石	稈重量
一	三月二十三日	四、二五四	三、四六一	一〇九、四三八
二	三月二十三日	三、九二四	三、三三〇	一〇〇、〇〇〇
三	三月二十七日	四、一七六	三、五五五	一〇四、六二五
四	三月二十七日	三、九二四	三、三三〇	一〇〇、〇〇〇
五	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇
六	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇
七	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇
八	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇
九	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇
十	三月二十七日	三、七五九	三、一七三	八九、二五〇

三、經過概評

供試品種ハ大麥關取二號ニシテ十二月十八日播種一區七坪二區制トセリ。生育ノ狀況ハ一般經過ニ述ベタル所ト同ジ。

土入レハ踏壓日ト踏壓日トノ中間ニ於テ行フ回数ノ分配ハ農家勞力ノ繁閑ヲ考慮セリ。年ニヨリ成績ニ相違アルハ豫期スル所ナルモ本年度ノ如ク例年ニ比シ寒氣烈シキ年柄ニ於テハ早期ニ踏壓回数ヲ多ク施行シタル方有効ナルガ如シ。

七、大麥踏壓回数試驗

一、目的

大麥栽培ニ於テ適當ナル踏壓回数ヲ決定セントス。

二、成績

試驗區名	踏壓施行セル月日	反當收量石	反當二ヶ年平均收量石	稈重量
一	三月二十三日	四、三三八	三、四一〇	一一三、六二二
二	三月二十三日	三、八四九	二、八七二	一一一、〇七三
三	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
四	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
五	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
六	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
七	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
八	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
九	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
十	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三

二、成績

續 (踏壓ト土入レヲ併施セル區)

試驗區名	踏壓施行セル月日	反當收量石	反當二ヶ年平均收量石	稈重量
一	三月二十三日	四、三三八	三、四一〇	一一三、六二二
二	三月二十三日	三、八四九	二、八七二	一一一、〇七三
三	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
四	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
五	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
六	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
七	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
八	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
九	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三
十	三月二十七日	三、七二五	二、九七七	一〇九、〇七三

八、陸稻並ニ麥ニ對スル堆肥ノ効果試驗

陸稻並ニ麥ヲ栽培スルニ當リ堆肥又ハ厩肥ヲ施用スル場合ト大豆粕及硫酸アムモニアノ如キ肥料ヲ施用ス

ル場合トハ陸稻或ハ麥ノ旱魃、寒害ニ對スル抵抗力並ニ收量ニ如何ナル差異アルヲ驗知セントシテ行ヒタルモ堆肥ノ施用ガ品質ノ向上ニハ有効ナルモ收量ノ増加ニハ未ダ顯著ナル成績ヲ示スニ至ラザリキ。

九、大麥肥料試驗

一、目的

同一ノ土地ニ陸稻ト大麥ヲ交互ニ栽培スル場合ニ酸性、アルカリ性及當場標準ノ三種類ノ肥料ヲ用ヒ、肥料並ニ土性ニ關シ相反セル性質ノ兩作物ノ收量品質ヲ調査シ經濟的得失ヲ見ントス。

二、成績

區名	稈尺	穗長寸	莖數本	出穂期月日	成熟期月日	一升重量匁	反當收量石	秤重量匁
夏冬 酸性肥料	二、三三	一、一五	七、五	四、一八	六、〇四	三、〇五	四、九〇	九七、〇〇〇
夏冬 當場標準肥料	二、一七	一、一五	八、二	四、二七	六、〇四	三、〇〇	五、三六	一八七、五〇〇
冬 酸性肥料	二、四七	一、一四	八、三	四、二七	六、〇三	三、〇一	五、三九	一一、六二五
冬 當場標準肥料	二、五二	一、一四	八、三	四、二七	六、〇三	三、〇一	五、三九	一一、六二五
冬 鹽基性肥料	一、七四	一、一四	八、三	五、〇二	六、〇九	三、〇〇	二、三三	四三、五〇〇

三、經過概評

十一月六日播種其ノ后ノ經過一般ト同ジ。

酸性及中性肥料區共ニ生育適良、鹽基性區ハ生育異常、發芽後養分ヲ吸收スルコト困難ナル狀況ニ見受ケタリ。

十、小麥増収試作

一、目的

増肥ニヨリ小麥増収ヲ圖ラムトス。

二、成績

品種名	畦巾尺	播巾寸	播キ方	一升重量匁	反當收量石	秤重量匁
關東一號	二、二八	八、一四	二條散播	三、六六	三、五八二	一、六一、二五〇
赤達摩	二、四八	八、一四	四條散播	三、五〇	三、八四九	一、四六、〇〇〇

三、經過概評

播種ハ十一月一日、豫定ヨリ遅延セリ。一區十五坪一區制ニテ施行セリ。

肥料ハ假定三要素量窒素二、八七、一。磷酸五、〇二、三。加里四、〇五、三。

遅播キノ爲メ寒害ニ罹リ充分ノ成績ヲ舉グルニ至ラズ。

十一、麥類特性調査

本縣麥類品種改良ノ目的ヲ以テ縣下ニ栽培セラレツ、アル品種ヲ蒐集シ當場ニ於テ栽培シ特性調査ヲ行ヒ各型別ニ分類シ新品種育成上ノ資ニ供シタリ。

小麥一七六品種。大麥一一一品種。稈麥四九品種。ビール麥二三品種。計三五九品種。

十二、原種圃

一、目的

次年度ニ於テ採種圃ニ供用スベキ縣獎勵品種ノ種子ヲ増殖セムトス。

二、成績

種類	品種名	配付數量
大麥	關取二號	七、三〇〇五

坊主一號	三德	赤達摩	白九七	相州一號	細州一號	白皮
計	計	計	計	計	計	計
四一四	二〇〇	五〇〇	二〇〇	四〇〇	二〇〇	八〇〇
一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
五九	七八	一七	一七	一七	一七	一七
八五	六九	一八	一八	一八	一八	一八
二九	二一	五五	五五	五五	五五	五五

第四、雜穀

一、大豆生類純系淘汰

良質ニシテ豊産ナル系統ヲ選抜シ以テ本縣獎勵品種ヲ決定セムトス。

二、成績

系統名	草丈	分枝數	開花期	成熟期	一升重量	反當收量	反當重量	同上年平均	反當重量	同上重量
第一號	一八二	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第二號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第三號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第四號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第五號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第六號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第七號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第八號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第九號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
第十號	一七九	四三	七三〇	九一八	三五六	一、五九六	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九

三、經過概評

本試驗ハ前記ノ目的ヲ以テ大正十二年度ニ於テ在來種一〇、〇〇〇株ニ就キ調査セルニ始マリ爾來優良系統ヲ選抜シ收量比較試驗ヲ行ヒタリ。而シテ本年度ハ一區六坪二區制ニテ試驗セリ。生育期間中ノ氣象ハ甚ダ順調トハ言ヒ難ケレドモ先ヅ平年作ニシテ本年度マデノ成績ヲ考察シ收量ニ於テ年々ノ豊凶甚ダシカラザル第七七號ヲ獎勵品種ニ編入セムトス。

二、落花生播種期對株數試驗

立性落花生ニ就キ適當ナル播種期ト株數トヲ驗知セムトス。

一、目的

區名	播種期	株數	尺長	分枝數	主枝長	開花期	成熟期	反當重量	百分比	平均上實重量	秤重量
五月四日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十一日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十八日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十一日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十八日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十一日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十八日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十一日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十八日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十一日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇
五月十八日播	坪九株	一、五九	一、五九	一、五九	一、五九	七三〇	九一八	二、八七九	一〇七	六、一七三	七、八七〇

備考 標準區ハ五月十一日坪十五株播ナリ。依ツテ試驗區中ノ該當區ヲ充當シ得レドモ區數ノ關係上別ニ標準區ヲ四區宛設ケタリ。

三、經過概評

本試験ハ立ラクダ二〇號ヲ供用シ一區八坪二區制ニテ行ヒタリ。中ハ播種時ハ...

三、落花生純系淘汰

一、目的

輸出向製菓用ニ適スル早熟豊産ニシテ品質優良ナル極大粒種ノ系統ヲ選出セムトス。

二、成績

Table with 10 columns: 系統名, 長尺, 分枝長尺, 主枝數本, 開花期日, 成熟日, 反實重, 同百分比上, 反當上下實重, 同百分比上, 秤重量. Rows include 第千大標, 第千中標, 第千小標, 第千大粒, 第千中粒, 第千小粒.

三、經過概評

本試験ハ第二回純系淘汰ニヨリ選出セル這性第八九號及第九九號並立性第八號及第一二號ノ收量比較試驗...

四、品種保存

一、目的

農家ノ參考ト品種改良ノ資ニ供セムガタメ雜穀ノ各品種ヲ保存セムトス。

二、保存セル種類及品種

- 大豆: 水戸早生, イタチ, 銀杏, 小粒, 毛ブルーイ, ロービキ, 晩生千成, 青豆, 久助, 青柳, 山根, 千成生娘崎一號, 白花, 鈴成崎一號. 粟: 笹穂長, 馬鹿粟, 晩赤(岩手), 三尺粟, 府馬糯, 婿ダマシ, 國分, 大須賀糯, 帝國糯. 黍: 田原在來, 千倉在來, 白, 八重原糯, 神納糯.

五、原種

一、目的

落花生ノ純系淘汰ヲ行ヒ優良系統ノ選出ニ成功シタルヲ以テ之ヲ縣ノ獎勵品種トナシ原種ノ増殖配付ヲ行ヒ在來種ヲ更新セムトス。

二、成績

系統	統計	面積	生産	数量	縣外配付	縣内採種組合配付
千粒	千粒	畝	畝	貫	貫	貫
葉大	四五	三四	三四	元三〇	一四三〇	三七八〇〇
中粒	七五	四五	四五	三〇九〇	〇八九〇	二二二〇〇
計	四五	四五	四五	七〇四〇	七三三〇	六三三〇〇

第五、農具試驗

一、製繩農具ニ關スル試驗

現在大市場ニ於テ大量ニ消費サレツ、アル特殊用繩以外ノ普通荷造用繩ハ使用ニ際シテ締リ易ク且ツ柔軟ニシテ使用シ易キモノヲ以テ第一要件トシ尙其ノ質ハ整一ナルヲ要スル爲メ販賣用機械繩製造ニ際シテハ機械荒繩製造後、之レガ條件トシテ人力手摩法又ハ繩仕上機ニ依ル製造ヲ必要トスベシ。依テ其ノ質ヲ整一ナラシムル爲メニハ製繩機ノ優良ナルモノニ統一シ、且又藁ハ藁打機ヲ利用シテ十分ニ軟ラゲルト同時ニ繩仕上機ニ掛ケテ其ノ質ヲ柔軟使用シ易キモノニ仕上グルノ必要アリ、即ハチ之等加工用農具ニ關シ調査研究シタル結果優良ト認ムルモノヲ舉グレバ次ノ如シ。

イ、製繩機類

(一) 普通荷造用繩ノ製造ニ適スルモノ

農具名	稱	價額(圓)	製造	又	販賣所
日の出式製繩機	(普通用)	三三,〇〇〇	埼玉縣川越市	又	片山製作所
鳥國式製繩機	(光輝號)	三三,〇〇〇	東京府下北千住町牛田	又	豐國社本店
荒佐式製繩機	(荷造専用)	三四,〇〇〇	大阪市港區大正通五	又	荒佐本店

(二) 醬油標掛用改良繩ノ製造ニ適スルモノ

農具名	稱	價額(圓)	製造	又	販賣所
原式製繩機	(醬切器付)	四五,〇〇〇	名古屋市中區登島町	又	物産共同合資會社
名古屋式製繩機	(醬切器付)	二六,〇〇〇	名古屋市西區龜町四	又	名古屋製繩機合資會社

(三) 魚網用硬繩製造ニ適スルモノ

農具名	稱	價額(圓)	製造	又	販賣所
荒佐式製繩機	(記念號)	三五,〇〇〇	大阪市港區大正通五	又	荒佐本店
本田式製繩機		二七,〇〇〇	靜岡縣安倍郡有度村	又	大原梅吉

ロ、藁打器類

農具名	稱	價額(圓)	製造	又	販賣所
國益式藁打機		二五,〇〇〇	東京市上野驛前	又	東京國益社
		三五,〇〇〇		又	

ハ、繩仕上機類

農具名	稱	價額(圓)	製造	又	販賣所
南本式繩仕上機		二一〇,〇〇〇	大阪市港區千島町	又	東洋企業合資會社
		一七〇,〇〇〇		又	

二、改良農具ノ貸與實演ニ關スル事項

イ、石油發動機及附屬作業機ノ貸與

將來之レガ設備ヲ必要ト認ムル組合其他ノ團體ニ貸與實演ヲナサシム。

ロ、畜力原動機及同用作業機ノ貸與

縣下ニ於テ之レガ利用ニ適當ト認ムル地方ニ貸與利用セシムルト共ニ實演會ヲ開催シ一般ニ公開シテ其ノ普及ニ務ム。

ハ、小型電力農具ノ貸與

利用ニ適當ト認ムル地方ニ貸與シ實演會ヲ開催シ之レガ利用法ニ關シ指導ヲナス。

ニ、元井式螺旋水車ノ貸與

利用ニ適當ト認ムル地方ニ長期ニ亘リテ貸與シ其ノ利用成績ヲ以テ公開實演ヲナセル爲メ有利ナルコトヲ認メツ、アリ。

ホ、苧麻剝皮機ノ貸與

該作物栽培普及ノ見込ミアル地方ニ貸與シ之レガ使用法ニ關シ指導ヲナス。

ヘ、藁工品副業用農具ノ貸與

利用ニ適當ト認ムル地方ニ繩仕上機、藁打器等ヲ長期ニ亘ツテ貸與シ副業組合ヲ組織セシメテ實地指導ヲナシタル爲メ其ノ成績極メテ良好ナリ。

ト、深耕犁ノ貸與

比較試験ノ結果地方土質的ニ犁ノ適否ヲ區別シ未ダ在來式ノ不適當ナル犁ヲ使用スト認ムル地方ニ深耕獎勵ノ目的ヲ以テ貸與シツ、アルニヨリ目下ノ普及成績良好ナリ。

三、改良農具實演會ニ關スル事項

本年度優良農具普及ノ爲メ實演宣傳ヲ施行シタル實演場所並實演狀況ヲ示セバ次ノ如シ。

實演農具名稱	場外		場内		一日作業工程大要	作業時
	回数	日數	回数	日數		
石油發動機利用作業	七	九	三	九	脱穀—約七反歩分	八時間
畜力機利用作業	一	二	一	二	精米—約三反歩	約三時
小型電動機利用作業	一	一	一	一	脱穀—約三反歩	約三時
元井式水車利用作業	一	一	一	一	精米—約三反歩	約三時
苧麻剝皮機利用作業	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
繩仕上機利用作業	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
製繩機講習及實演	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
藁打機利用作業	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
揚水機利用作業	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
大豆粕粉碎作業	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時
深耕犁ノ實演	一	一	一	一	荷造用繩製約十貫匁	約三時

前記ノ方法ニ依リ普及宣傳ニ務ムルト共ニ實地利用ヲ行ハザル場合ト雖モ各種農具ハ常ニ場内ニ陳列シ一般來場者ノ觀覽ニ供スルト共ニ簡單ナル當業者使用ノ在來農具トノ比較成績ヲ配付セル爲メ之レガ利用ノ機運著ルシク進ミ設備者多シ。

四、農具利用指定貸與組合ニ關スル事項

當場設備農具ノ一部ヲ利用ニ適當ト認ムル地方組合ニ長期ニ亘リテ貸與シ之レガ利用法ニ關シ指導ヲナスト共ニ經濟的調査ヲナサシメ其ノ成績ヲ以テ適時實演會ヲ開催セシメ地方當業者ノ周知ニ務メタリ。而シテ繩仕上機並元井式螺旋水車動力農具等本年度貸與ノ左記組合ハ其ノ經營地方ニ範タルノ成績ヲ現ハサレ繩仕上機ノ如キハ近年著ルシク普及ヲナシ目下ニ於ケル縣下普及台數二十七台ヲ數ヘラレ夫々副業ト

シテ大量出荷ヲナスニ至レリ。

利用農具名稱	代表者	經營場所
元井式螺旋水車利用	所榮太郎	香取郡多古町染井協行組合
動力農具利用	土屋昌勇	香取郡笹川町根方實行組合
動力農具利用	中村勇	山武郡豊成村上武射田實行組合
動力農具利用	近藤國右衛門	印旛郡和田村高岡農事實行組合
動力農具利用	近藤彌三郎	君津郡中川村農會
動力農具利用	杉浦正夫	長生郡本納町農會
動力農具利用	永井久松	安房郡吉尾村製纈組合

第六、委託試驗

一、水稻品種比較試驗目的並ニ經過概要

縣獎勵品種ノ好適スル地域ヲ驗知スルト共ニ有力ナル在來種ト比較シ縣獎勵品種ノ紹介ヲ兼ネ其ノ普及ヲ計ランガ爲縣下二十ヶ所ニ委託試驗セル結果早中晩ノ收量順ニ記セバ左ノ如シ。

早生	中生	晚生	早生	中生	晚生
早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三
早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三

千葉郡生濱町

早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三

匝瑳郡八日市場町

早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三

香取郡多古町

早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三

香取郡笹川町

早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生大和力 (原種) 三、三三三
早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生旭 (原種) 三、〇八〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三

印旛郡八生村

早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三
早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三	早生愛國 (原種) 三、三三三	早生銀坊主 (原種) 三、〇三〇	早生大和力 (原種) 三、三三三

香取郡新島村

水鳥 (準原)	二、八〇〇	森田早生 (原種)	二、七九〇	二節 (準原)	二、七三〇	早生銀坊主 (準原)	三、七五〇	寶玉 (準原)	三、三六五	早生大和力 (準原)	三、三三三	早生愛國 (原種)	三、二〇〇
晚新愛國 (秋田)	三、七五五	中生愛國 (原種)	三、四三〇	筑波關取 (原種)	三、四〇〇	陸羽一三號 (準原)	三、二五〇	大正愛國 (準原)	二、八四七	東郷二四號 (準原)	二、七五〇	早生愛國 (原種)	三、二〇〇

香取郡萬歲村

水鳥 (準原)	二、五八二	二節 (準原)	一、九〇〇	寶玉 (原種)	二、七三〇	早生銀坊主 (準原)	二、六七九	中生銀坊主 (準原)	二、五七二	早生旭 (準原)	二、五三三	不生不知 (準原)	二、四三三
中生愛國 (原種)	二、三〇〇	中生大和力 (準原)	二、〇八三	撰 (原種)	二、〇七〇	早生銀坊主 (準原)	二、二七二	中生大和力 (準原)	二、二八八	早生旭 (準原)	二、二五二	不生不知 (準原)	二、四三三

山武郡豊成村

不生不知 (準原)	三、八七〇	中生愛國 (原種)	三、六八〇	早生旭 (京都神力)	三、三九〇	中生銀坊主 (原種)	三、二〇〇	中生大和力 (準原)	三、二四三〇	中生神力 (原種)	二、八五〇	畿内剛力 (準原)	四、三〇〇
晚生神力 (原種)	三、九〇〇	北部二號 (原種)	三、八四〇	京都神力 (原種)	三、七〇〇	早生旭 (準原)	三、二〇〇	中生大和力 (準原)	三、二四三〇	中生神力 (原種)	二、八五〇	畿内剛力 (準原)	四、三〇〇

市原郡姉ヶ崎町

早生銀坊主 (準原)	三、一〇〇	早生大和力 (準原)	二、八三三	中生銀坊主 (原種)	三、三三〇	中生愛國 (原種)	三、四三三	早生旭 (京都神力)	三、二九三	中生大和力 (準原)	二、八五五	撰 (原種)	二、七六八
不生不知 (準原)	二、六三三	中生神力 (原種)	二、六三三	榮神力 (原種)	三、三〇七	中生愛國 (準原)	三、二七三	早生旭 (準原)	三、二九三	中生大和力 (準原)	二、八五五	撰 (原種)	二、七六八

君津郡小糸村

早生愛國 (原種)	二、八七三	早生銀坊主 (準原)	二、七五三	中生銀坊主 (原種)	三、三三三	中生神力 (原種)	二、八六三	中生愛國 (原種)	二、八四三	畿内七五號 (原種)	二、六三三	不生不知 (準原)	二、五三三
中生大和力 (準原)	二、四九八	撰 (原種)	二、三八三	畿内剛力 (準原)	三、四〇三	京都神力 (原種)	三、一五〇	中生愛國 (原種)	二、八四三	晚生神力 (原種)	二、五七三	不生不知 (準原)	二、五三三

君津郡中郷村

早生銀坊主 (準原)	二、四三三	早生大和力 (準原)	一、九三三	中生銀坊主 (原種)	二、六七五	早生旭 (京都神力)	二、五五〇	不生不知 (準原)	二、五〇〇	中生神力 (原種)	二、四七三	撰 (原種)	二、四三三
中生大和力 (準原)	二、四〇八	中生愛國 (原種)	二、三七六	畿内七四號 (原種)	二、三〇五	早生旭 (京都神力)	二、六五五	中生愛國 (準原)	二、五〇〇	晚生神力 (原種)	二、三三三	撰 (原種)	二、四三三

長生郡豊榮村

早生銀坊主 (準原)	三、二五〇	畿内七四號 (準原)	三、四三三	早生旭 (京都神力)	三、四七五	中生愛國 (原種)	三、三三五	中生銀坊主 (原種)	三、二五八	大阪神力 (原種)	三、二六八	中生神力 (原種)	三、一五五
畿内七五號 (準原)	三、一五八	不生不知 (準原)	三、二二三	京都神力 (原種)	三、六〇〇	榮神力 (原種)	三、二五五	中生銀坊主 (準原)	三、一九六	晚生神力 (原種)	三、一五〇	中生神力 (原種)	三、一五五

長生郡一ノ宮町

早生銀坊主 (準原)	二、六四〇	早生愛國 (原種)	二、五二〇	早生大和力 (準原)	一、八〇〇	撰 (原種)	二、四三三	中生大和力 (準原)	二、四〇〇	中生銀坊主 (原種)	二、六八〇	中生愛國 (原種)	二、三九〇
早生旭 (準原)	二、三〇〇	不生不知 (準原)	二、三六〇	畿内七四號 (準原)	二、三三〇	撰 (原種)	二、二五〇	中生大和力 (準原)	二、〇九〇	晚生神力 (原種)	一、九〇〇	中生愛國 (原種)	二、三九〇

夷隅郡國吉村

早生銀坊主 (準原)	二、五七五	早生旭 (京都神力)	二、八四五	中生銀坊主 (原種)	二、八二五	中生神力 (原種)	二、七七五	中生愛國 (原種)	二、七七五	畿内七四號 (準原)	二、七六五	不生不知 (準原)	二、七三三
畿内剛力 (準原)	三、〇三三	撰 (原種)	二、九四五	晚生神力 (原種)	二、八八三	大阪神力 (原種)	二、六七五	中生愛國 (原種)	二、七七五	畿内七四號 (準原)	二、七六五	不生不知 (準原)	二、七三三

安房郡田原村

早生旭 (原種)	三、一〇〇	中生神力 (原種)	二、九八〇	畿内七四號 (原種)	二、九三〇	畿内七五號 (原種)	二、九二〇	不生不知 (準原)	二、八四二	京都神力 (原種)	二、九四〇	畿内剛力 (準原)	二、七九三
晚生神力 (原種)	二、五四〇	北部二號 (原種)	二、四六〇	花結 (原種)	二、四二〇	撰 (原種)	二、四二〇	中生銀坊主 (原種)	二、八六二	中生愛國 (原種)	二、八六二	畿内剛力 (準原)	二、七九三

安房郡那古町

早生旭	二、六〇〇	中生銀坊主 (原種)	二、六五〇	中生神力 (原種)	二、三〇〇	畿内七四號	二、七〇〇	不作不知 (準原)	二、一〇〇	撰 (原種)	一、九七〇	畿内剛力 (準原)	二、五五〇
荒木神力	二、五〇〇	榮神力	二、四九〇	京都神力 (原種)	二、二〇〇	神山神力	二、六五〇	晩生神力 (原種)	二、〇四〇	北部二號	一、九四〇		

君津郡小櫃村

千鈴赤糯	二、四〇〇	西原糯	二、二五七	太郎兵衛 (在來)	二、〇〇〇	小針三號 (崎玉)	二、一〇五	大正糯 (福井)	二、〇〇〇	小 (千葉)	一、九七〇	ビツクリ (山梨)	一、九〇〇
太郎兵衛 (崎玉)	一、九〇〇	太郎兵衛 (千葉)	一、八七〇	羽二重糯 (岐阜)	一、八〇〇	明神糯 (長野)	一、八〇〇						

安房郡南三原村

旭 (愛知)	三、〇一〇	千鈴赤糯	二、〇〇〇	越後水糯	二、六三三	海發糯	二、六〇七	コボレ神力	二、四四〇	與平糯	二、四六九	小針三號	二、三三〇
小 (千葉)	一、七九〇	太郎兵衛 (千葉)	一、七七〇	太郎兵衛 (茨城)	一、六五五	備考、	各試験區共螟虫ノ被害ヲ受ク。太郎兵衛ニ特象ノ被害アリ。						

一、目 陸稻糯品種比較試験

陸稻栽培盛ナル地方ニ於ケル糯ノ適品種ヲ選定セムトス

擔當者

千葉郡譽田村

伊藤 誠 一

二、成績

品名	草丈	穗長	一尺間本數	出穂期	成熟期	一玄升重	反當收量	同百分比	二ヶ年平均反當收量	稈重量
地方在來	三、三三	八、八四	二、三三	八、四	八、四	三、九四	一、三〇	一〇〇	一、四九	一、四七五〇
千代田	三、三三	七、七一	三、三三	八、四	八、四	三、九四	一、三〇	一〇〇	一、四九	一、四七五〇
早知	三、三三	七、七一	二、五〇	八、六	八、六	三、九四	一、三〇	一〇〇	一、四九	一、四七五〇

品名	草丈	穗長	一尺間本數	出穂期	成熟期	一玄升重	反當收量	同百分比	二ヶ年平均反當收量	稈重量
金子 (東京)	三、三三	八、八〇	三、二二	八、二	八、二	三、九六	一、〇七	一〇七	一、五〇	一、三三
戦柄早生 (群馬)	三、三三	七、七五	三、二二	八、二	八、二	三、九六	一、〇七	一〇七	一、五〇	一、三三
三太郎	三、三三	七、七五	三、二二	八、二	八、二	三、九六	一、〇七	一〇七	一、五〇	一、三三
久藏	三、三三	七、七五	三、二二	八、二	八、二	三、九六	一、〇七	一〇七	一、五〇	一、三三

三、經過概評

本試験ハ一區五坪二區制ニテ施行セリ早天ノ後ノ降雨ニヨリ若返リ成熟期モ判然セザル程度ナリシガ收量ノ点ニ於テハ平年作ニシテ金子(東京)ノ如キハ成績良好ナリキ、玄米ノ品質ハ千代田早生、早不知、田優ハ上金子(東京)オイラン、久藏七三號ハ中他ハ下ナリ、栽培地トシテハ品質ト收量ノ共ニ優レタルモノヲ要求スルモノナレドモ概シテ兩立セズ殊ニ本試験地附近ハ早害ヲ蒙ルコト多ク陸稻栽培ニハ難点アリ從ツテ収量本位ニテハ金子長柄早生品質ニテハ早不知等ヲ適當トスベシ。

一、目的

陸稻栽培盛ナル地方ニ於ケル糯ノ適品種ヲ選出セムトス。

擔當者

印旛郡八街町

常世 田藤 太郎

二、成績

品名	草丈	穗長	一尺間本數	成熟期	一玄升重	反當收量	同百分比	二ヶ年平均反當收量	稈重量
地方在來	三、三三	七、七〇	三、一四	八、〇	三、八二	一、〇九	一〇〇	一、三〇	一、三三
平旋一號	三、三三	六、九〇	三、一四	八、〇	三、八二	一、〇九	一〇〇	一、三〇	一、三三
北旋一號	三、三三	六、九〇	三、一四	八、〇	三、八二	一、〇九	一〇〇	一、三〇	一、三三
陸羽二海	三、三三	六、九〇	三、一四	八、〇	三、八二	一、〇九	一〇〇	一、三〇	一、三三
凱旋	三、三三	六、九〇	三、一四	八、〇	三、八二	一、〇九	一〇〇	一、三〇	一、三三

凱旋 旋 (埼玉) 熊本	三、五 三、五	七、一 七、〇	三、〇 三、八	一〇、一 一〇、四	二、六 二、五	三、八 三、七	一、四 一、〇	一、〇 一、五	七、四 七、五
-----------------------	------------	------------	------------	--------------	------------	------------	------------	------------	------------

三、經過概評

本試験ハ一區七、五坪二區制ニテ施行セリ。

本試験ハ當場ト相似タル土質氣候ナレドモ夏期ノ早害ハ稍激シキ年アリ、本年モ稍不適ナル天候ナリシガ收量ニ於テハ平年作ニ近シ而シテ各區共倒伏シタルモ凱旋一〇四號(原種)ハ收量品質共ニ良好ナリキ。

四、裸麥品種比較試驗

一、目的

裸麥栽培ノ盛ンニシテ當場ト氣候土質ヲ異ニスル地方ニ於ケル適品種ヲ選定セムトス。

二、成績

品名	草丈	穂長	莖數	本數	出穂期	成熟期	難倒伏	一升重	反當收量	稈重量	備考
小川	二、六三	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
紅子	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
長白	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
長州	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
鬼州	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
濕氣	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
宗兵衛	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	
標準	二、五八	一、一七	一、一七	一、一七	四、一六	六、〇四	難	三、五八	一、四三	一、三三、〇〇〇	

五、這性落花生栽培株數試驗

一、目的

這性落花生栽培ニ於テ九十九里沿岸ノ砂地々方ノ坪當株數ハ從來過少ナルヲ認メ之ヲ増加セシムルニ當リ適當ナル株數ヲ知ラムトス

二、成績

區名	播種日	收穫日	寸長	分枝尺長	月掘取日	上實	下實	合計	二ヶ年平均	稈重量
標準	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
六株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
八株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
十株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
十二株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
十五株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇
二十株區	五、九	八、四	二、四八	二、四八	一〇、二八	五、二七	三、三〇	八、五七	七、六八	九、〇七五〇

三、經過概評

本試験ハ千葉中粒四十三號ヲ供用シ一區八坪二區制ニテ施行セリ

本年ハ落花生ノ生育期間中降水量割合ニ多ク殊ニ初期ヨリ開花期中雨天連續シ氣温低カリシ爲メ莖葉ノ繁茂旺盛ナリシモ種實並莢殼ノ充實稍不良ナリキ從ツテ試験地ノ如キ稍地盤低ク地下水ノ高位ナル處ハ一般ニ成績良好ナラザリキ。

園藝雜誌

園藝部

第一蔬菜

一、品種比較試驗

1、甘藷

1、耕種梗概

一、蒔伏期 三月二十五日

一、栽植株數 畦巾二尺、株間一尺（反當五、四〇〇株）

一、栽植期 五月三十日

一、肥料（反當）

堆肥一五〇貫、油粕一二貫、米糠三〇貫、藁灰二〇貫、過石八貫、硫加四貫。

三成分 窒素一、九五〇貫、磷酸三、〇四〇貫、加里三、六九〇貫。

一、施肥法 全部元肥トシ栽植一週間前ニ施ス。

一、中耕土寄 二回。

一、蔓返シ 一回

一、堀取月日 十一月十三日

2、試驗方法

一、一區面積 三坪

一、一區株數 四十八株

3、試驗成績

一、供試品種 左記十五種類

品名	個數	反當收量	重	個數	十ヶ年平均	重	肉質	用途
千花立	一七、七八〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、一八三	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
鹿島	一八、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
新兒	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
細白	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
赤州	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
紅州	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
紅島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
新島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
赤島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
新島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
赤島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
新島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
赤島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
新島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	
赤島	三三、九〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一四、〇九七	四、五五九	粘質	蒸煮燒芋用	

以上ノ如キ成績ヲ示シタルモ尙繼續施行セントス。

1、耕種梗概（沖繩縣交配種）

2、試驗方法

一、一區面積 三坪

一、一區ノ株數 四八株

一、供試品種 一七種

一、供試品種 一七種

3、試験成績

系	圃統	個數	反當收量	重量	等位	形狀	色澤	肉費	甘味
一	〇五二九	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(一)	短紡錘	淡灰黃	粉	中上
二	一八六一	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(二)	丸紡錘	淡灰黃	粉	中上
三	二九二二	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(三)	不紡錘	淡灰黃	粉	中上
四	六六六六	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(四)	長紡錘	鮮紅	粘	中
五	五五五五	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(五)	長紡錘	鮮紅	粘	中
六	七六七八	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(六)	長紡錘	鮮紅	粘	中
七	八七六五	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(七)	長紡錘	鮮紅	粘	中
八	九八七六	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(八)	長紡錘	鮮紅	粘	中
九	一〇九八	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(九)	長紡錘	鮮紅	粘	中
一〇	二〇一〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	〇〇〇〇	(一〇)	長紡錘	鮮紅	粘	中

以上ノ如ク五三號、一一〇號ノ二系統ハ收量、品質共ニ優良ナルニ依リ環境及土質ノ適否ヲ知ラントシテ委託試験地ヲ設置シ之ガ成績ヲ調査中ナリ。

八、草 苜

1、耕種梗概

一、定植期 九月中旬

一、栽植株數 畦幅二尺、株間八寸、反當六、七五〇株

一、肥料 元肥 堆肥二〇〇貫、魚肥二〇貫、油粕一〇貫、藁灰一〇貫、硫加二貫

追肥 下肥二〇〇貫(第一回) 魚肥二〇貫、米糠二〇貫、藁灰一〇貫、硫加三貫

1、施肥法 元肥ハ植付ケノ際、追肥第一回ハ九月下旬、第二回ハ十一月下旬施ス。

2、試験方法

一、一區面積 一坪

一、一區株數 二十四株

3、試験成績

品 種 名	形 狀	色 澤	甘 味	酸 味	肉 質
ニユーオレゴン	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
ニツクオレゴン	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
マシヤル	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
パンナル	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
ドクトル	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
モナール	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中
千葉一號	尖圓錘	鮮紅	中良	中	中

以上ノ如キ成績ヲ示シタルモ優良ナル品種ヲ撰擇シ尙繼續施行セントス。尙本年度ハ收量不明ナルニヨリ記載ヲ省略セリ。

二、馬鈴薯

1、耕種梗概

一、播種期 三月二十五日

一、栽培距離 畦幅二尺、株間一尺

一、肥料 (反當) 元肥 堆肥六〇〇貫、豐年大豆粕二六貫、藁灰一〇貫、過石一〇貫、硫加二貫

追肥 過石一〇貫、下肥一五〇貫、藁灰一〇貫

一、施肥法 元肥ハ播種ノ際、追肥ハ第一回中耕土寄セノ時施ス。

一、病害防除 三斗式ボルドウ液三回撒布ス。

一、中耕 第一回四月下旬、第二回五月中旬

2、試験方法

一、一區面積 五坪

一、一區株數 九十株

一、供試品種 左記十種

3、試験成績 (反當)

品種名	個數	反當收量	形状	色澤	芽ノ深淺	耐病性	肉質
アメリカンウオシダ	四、七〇〇	三三、〇〇〇	扁圓	淡黃	中淺	弱中	半粘
スノードロップ	三、一五〇	二四、六〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
ゴールドロップ	二、二〇〇	一八、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘
アールロイヤル	一、八〇〇	一六、八〇〇	扁圓	淡黃	淺	弱中	半粘

以上ノ如キ成績ヲ示シタルモ萎縮病發生シ判然タルヲ得ズ、品種試験ハ一時中止セントス。

1、耕種梗概

ホ、白、菜、以上ノ如キ成績ヲ示シタルモ萎縮病發生シ判然タルヲ得ズ、品種試験ハ一時中止セントス。

一、播種期 八月二十日

一、栽培距離 畦幅二尺五寸、株間一尺七寸、反當二千五百二十株立。

一、播種量 一合

一、肥料 反當左ノ如シ

種類	用 量	元 肥	第一回	第二回	第三回	第四回	三成分	計
大豆粕	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇					1,500N	N 六〇、五八
堆肥	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇					900P	P ₂ O ₅ 三、四八五
蠶粕	一三、〇〇〇			一三、〇〇〇			660	
過石	一〇〇、〇〇〇			一〇〇、〇〇〇			0,318	
硫酸	一〇〇、〇〇〇				一〇〇、〇〇〇		1,200	K ₂ O 四、一九九
下肥	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇					0,600	
硫酸	一〇〇、〇〇〇						1,160	
堆肥	一〇〇、〇〇〇						960	

一、施肥法 元肥ハ播種ノ際追肥ハ第一回九月上旬、第二回九月下旬、第三回十月中旬、第四回十月下旬。

一、開引 第一回双葉ノ時第二回本葉三四枚ノ時、第三回本葉六七枚ノ時、中耕土寄 追肥ノ都度之ヲ行フ。
 一、病蟲害防除 心虫及夜盜虫ハ砒酸鉛三四回撒布シ驅除ス。
 白斑病ニ對シテハ六匁式銅石鹼液、腐敗病ニ對シテハ二斗式石灰ボルドウ液ヲ根元ニ撒布シ防除ニカマルモノトス。

2、試験方法

- 一、一區面積 五坪
- 一、一區株數 四十二株
- 一、供試品種 左記十種

3、試験成績 (反當)

品種名	反當		當		收		計		硬サ	色澤
	ケ	數	ケ	數	ケ	數	ケ	數		
英城(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	50
宮城(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
白京(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
千京(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
大京(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
大早(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
大早(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80
變一(取寄)	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	11,510	70	80

以上ノ如キ成績ヲ得タルモ尙繼續施行セントス。當二十五年二十科立。
 へ、西洋南瓜二十科

1、耕種概

- 一、播種期 四月十一日
- 一、移植回数 三回
- 一、定植期 五月二十日
- 一、定植距離 畦幅七尺、株間三尺、反當五一七株。
- 一、肥料 反當左ノ如シ。

元肥 堆肥一二〇貫、魚肥一二貫、米糠一二貫、藁灰六貫。
 追肥 堆肥一二〇貫、魚肥一二貫、米糠一二貫、藁灰六貫。

2、試験方法

- 一、整枝 元肥ハ定植三十日前、追肥ハ定植後施ス。
- 一、病蟲害防除 三斗式ボルドウ液三回撒布(硫酸ニコチン加用)
- 一、媒助 開花前雌雄花共ニ袋掛ケテ爲シ開花後媒助シ直チニ其ノ袋ヲ掛クルモノトス。
- 一、一區面積 四坪
- 一、一區株數 七株
- 一、供試品種 左記二十七

3、試験成績 (反當)

品種名	反當收量	個數	重量	形状	縮狀	色澤	條溝	斑紋	肉色	肉質	汁味	用途
ブリユーハツバード	103.7	75	1,010	短紡錘	大疣多シ	ブリウ	10條	淡朱色綠線ハ	赤卵黃	粘中	中	煮食
ホストンマロー	110.6	75	1,010	短紡錘	大疣多シ	ブリウ	10條	淡朱色綠線ハ	赤卵黃	粘中	中	煮食

A

- 一、播種期 十二月十日
- 一、移植 二回
- 一、定植期 二月二十四日
- 一、定植本数 一框 八本
- 一、肥料 一框當リ

元肥 油粕二〇〇匁 糞粕二〇〇匁 米糠一五〇匁 過石一〇〇匁 木灰二五〇匁
追肥 油粕腐汁液十倍液三四回ニ分施ス

- 一、床土 荒木田四分、堆肥四分、川砂一分、石灰一分
- 一、床土 厚サ 五寸

一、管理 摘心親蔓一本立トナス。

一、灌水 毎日一回之ヲ行ヒ開花期及成熟期ハ之ガ回数及量ヲ減ズルモノトス、障子ノ開閉、温度濕氣ノ調節ノ爲メ任意ニ障子ノ開閉ヲ行フ、病蟲害豫防、六匁式銅石鹼液(硫酸ニコチン加用)數回撒布ス。

B

- 一、播種期 十二月十日
- 一、移植回数 二回
- 一、定植期 二月二十四日
- 一、定植本数 一框當リ 二十一本

- 一、肥料 一框當リ 油粕二六〇匁、米糠四〇〇匁、過石八〇匁、糞灰五〇〇匁
- 一、床土 荒木田四分、堆肥四分、川砂一分、石灰一分、
- 一、床土厚サ 五寸
- 一、管理 摘心 親蔓一本立トス

一、病害防除 六匁式銅石鹼液(硫酸ニコチン加用)數回撒布ス。

C

一、草苺 ゼネラルサンデー

- 一、育苗法 六月中旬幅四尺長サ三間(二坪)ノ冷床ヲ設ケ左記肥料ヲ四五寸ノ表土ト混合シ充分肥沃ナラシメ假植床ニ供ス
堆肥二五〇匁、油粕三〇〇匁、過石二〇〇匁、葉灰二〇〇匁、下肥五〇〇匁
- 一、假植期 七月上旬
- 一、定植期 十一月十五日
- 一、定植法 定植株數一框六十株東西一尺南北八寸ノ株間ニ一列五株十二列トス
- 一、定植床 稻藁五〇匁、厩肥四〇匁、米糠一斗、水肥四五匁
- 一、床土 (六寸) 粘土二分、腐壤土四分、川荒砂四分
- 一、肥料 一框當リ左ノ如シ
元肥 油粕二〇〇匁、油粕三〇〇匁、骨粉一五〇匁、木灰二〇〇匁、下肥五匁
追肥 油粕腐汁三升時々稀釋シテ施用ス

一、管理 温度濕氣 床温〇十八度—二十二度ヲ適温トス摘顆一花梗ニ三花ヲ生ズル時其ノ中央ノ花ヲ殘シ側花ヲ除キ結顆後ハ其ノ指頭大トナリタル時形狀ノ正シキモノヲ殘ス
病蟲害防除、赤蝨ハ石灰硫黃合劑ニヨリ褐斑病ハ六匁式銅石ケン液ヲ用ヒテ豫防驅除ヲ行フモノトス

(2) 試驗方法

- 一、一區面積 一框
- 一、供試種類 メロン、トマト、草苺
- 一、試驗區

- 第一區 標準踏込法
- 第二區 プラム線三〇〇ワット
- 第三區 プラム線五〇〇ワット
- 第四區 スペースヒーター四〇〇ワット

(3) 試驗成績

(一框當リ)

試験区	品種名	個數	重量	金額	床内一日平均温度	床土一日平均温度	迄種ヨリ採取	粗收入
第一區 苜蓿	ゼキラルサンチ	一九四	四〇〇	七	19.1	20.2	(7日)	堆肥二〇〇
第二區 メロン	スカレット	八	一、三六	六	24	29.4	(10日)	ナシ
第三區 トマト	ビクトリア	三五	三、三〇	二	34	29.3	(10日)	ナシ
第四區 メロン	アイリス	八	一、九〇	九	25.8	27.1	(10日)	ナシ

以上ノ如キ成績ヲ得タルモ尙繼續施行セントス

四、貯藏試験

イ、白菜屋内貯藏試験

(1)、貯藏白菜耕種梗概

(2)、試験方法

- 一、供用品種 千葉一號
- 一、貯藏量 一區一〇〇貫(調整換算)
- 一、試験區數 六區

第一法 二月中旬掘取	第二法 二月中旬掘取	第三法 三月上旬掘取	第四法 三月上旬掘取	第五法 三月上旬掘取	第六法 三月上旬掘取
長一尺五寸	長一尺五寸	長一尺五寸	長一尺五寸	長一尺五寸	長一尺五寸
幅一尺	幅一尺	幅一尺	幅一尺	幅一尺	幅一尺
高さ一尺	高さ一尺	高さ一尺	高さ一尺	高さ一尺	高さ一尺
積三層	積三層	積三層	積三層	積三層	積三層
方一丈	方一丈	方一丈	方一丈	方一丈	方一丈
填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包
被包 外葉ツキ	被包 外葉ツキ	被包 外葉ツキ	被包 外葉ツキ	被包 外葉ツキ	被包 外葉ツキ
調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分

第一法 二月中旬掘取	第二法 二月中旬掘取	第三法 三月上旬掘取	第四法 三月上旬掘取	第五法 三月上旬掘取	第六法 三月上旬掘取
七、一	六、〇	七、六	七、〇	八、〇	三、〇
三、七	三、五	三、五	三、三	三、五	三、七
一、三	一、二	一、五	一、三	一、四	一、四
二層	二層	二層	二層	二層	二層
方一丈	方一丈	方一丈	方一丈	方一丈	方一丈
填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包	填充物 紙包
被包 外葉付五分	被包 外葉付五分	被包 外葉付五分	被包 外葉付五分	被包 外葉付五分	被包 外葉付五分
調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分	調製 外葉付五分

(3)、試験成績

第一法	第二法	第三法	第四法	第五法	第六法
二	三	四	四	四	五
二月二十九日	二月二十九日	三月二日	三月二日	三月二日	三月二日
四日	四日	四日	四日	四日	四日
〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
完全白菜歩合	完全白菜歩合	完全白菜歩合	完全白菜歩合	完全白菜歩合	完全白菜歩合
七六	七六	七六	七六	七六	七六
中	中	中	中	中	中
品	品	品	品	品	品
質	質	質	質	質	質

以上ノ如キ成績ヲ得タルモ尙繼續施行セントス

五、見本栽培

左記八種ニツキ品種試験ノ前提トシテ試作ヲ爲セシニ左記ノ如キ成績ヲ得タリ。

イ、蕃茄

品種名	六年度反當收量	個數	平均重量	色澤	形状	食味	熟期
一、スバシヤルアーリア	二、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇	朱赤色	腰高良	上上	極早
二、スバシヤルアーリア	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八	朱赤色	腰高良	上上	極早
三、ジュンブリン	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八	朱赤色	腰高良	上上	極早
四、ジュンブリン	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八	朱赤色	腰高良	上上	極早
五、マインデローザ	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八	朱赤色	腰高良	上上	極早
六、マインデローザ	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八	朱赤色	腰高良	上上	極早

白莖早生、親責、早生九、石川早生、早生盆、生作、静岡早生、蝦芋、昭和、丸芋ノ十種ニツキ品種保存的栽培ヲ爲セリ。

八、土當掃

品名	早發	晚芽	本株數	一本重	長サ	太サ	節數	多刺	芽色	澤	莖下部色澤
赤芽	早	早	七本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	濃紫赤色	極紫紅	極紫紅
當場	早	早	七本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	淡紫赤色	淡紫紅	淡紫紅
東京	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	濃紫赤色	極紫紅	極紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	淡紫赤色	淡紫紅	淡紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	濃紫赤色	極紫紅	極紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	淡紫赤色	淡紫紅	淡紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	濃紫赤色	極紫紅	極紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	淡紫赤色	淡紫紅	淡紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	濃紫赤色	極紫紅	極紫紅
愛知	早	早	六本	四〇〇g	一、〇五尺	一、〇五寸	二	少	淡紫赤色	淡紫紅	淡紫紅

二、茗荷
秋茗荷ノ増殖ヲ爲シ軟化促成栽培ノ準備ヲ爲セリ。
木、蕨
野蕨ノ増殖ヲ爲シ促成栽培ノ準備ヲ爲セリ。

株ノ増殖ヲ計リ促成栽培ノ準備ヲナセリ。

卷丹種ノ増殖ヲナセリ。

第二、果樹

一、梨

栽培方法徑二尺深サ一尺五寸ノ穴ヲ堀リ穴底中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ入レ少シ堀リ上ゲシ土ヲ入レテ堆肥ト混合シ更ニ少シク土ヲ入レテ定植ス。

肥料元肥一回追肥二回トス元肥ハ二月中ニ施シ第一回追肥ハ六月上旬第二回追肥ハ果實採取後直ニ之ヲ施ス。

其ノ種類、數量、配合法ヲ樹齡別トシ反當額ヲ示セバ次ノ如シ。

樹齡	堆肥	木灰	鯨ノ粕	硫安	豆	木灰	過石	下肥	木灰	過石	窒素	有機酸	成分
二年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
三年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
四年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
五年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
六年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
七年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
八年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
九年	三〇〇〇	〇、九六六	〇、八八八	〇、八八八	三、七四三	五、九〇二	一、〇三〇	四、八七九	〇、九八五	二、二二六	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

一、剪定冬季剪定及夏季剪定ノ二回トス冬季剪定ハ二月ヨリ三月上旬迄ニ行ヒ夏季剪定ハ六月第一回七月八月中ニ第二回ヲ行フ。
一、摘果ハ二回行ヒ第一回ハ果實ノ豌豆大ニナリシ時一花序ニ果ヲ殘シ第二回ハ果ノ直徑四分位ノ時一果ヲ殘シ他ヲ摘果シ直ニ袋掛ヲ行フ。

一、病虫害豫防三月中旬發芽前ニ石灰硫黄合劑四度前後ノモノヲ撒布シ其ノ後落花後及果實指頭大トナリシ時及袋掛前ノ三回三斗式ボルドウ液ヲ撒布シ尙落果落葉ハ燒却ス。

一、梨品種試驗

本試驗ノ目的ハ左記品種ヲ蒐集栽培シ其ノ固有ノ性質品質ノ良否栽培ノ難易及收量ノ多寡ヲ比較シ以テ本縣下ニ適スル最良種ヲ選出シ將來斯業ノ資ニ供セントス。
方法本試驗區別品種名樹齡樹形ハ左ノ如シ。

區別	品種名	樹齡	樹形	區別	品種名	樹齡	樹形
第一區	眞鏡	昭和四年	高接	第十一區	泰平	十年	樹
第二區	倉光	昭和五年	高接	第十二區	土佐	十年	樹
第三區	早生	昭和五年	高接	第十三區	天祐	十年	樹
第四區	玉川	昭和五年	高接	第十四區	天祐	十年	樹
第五區	石井	昭和五年	高接	第十五區	龍川	十年	樹
第六區	長十郎	昭和五年	高接	第十六區	大笠	十年	樹
第七區	藤左衛門	昭和五年	高接	第十七區	樂陽	十年	樹
第八區	全勝	昭和五年	高接	第十八區	赤龍	十年	樹
第九區	甘世	昭和五年	高接	第十九區	今秋	十年	樹
第十區	明月	昭和五年	高接	第二十區	紅梨	十年	樹
第十一區	玉翠	昭和五年	高接				
第十二區	正五	昭和五年	高接				
第十三區	春木	昭和五年	高接				
第十四區	五木	昭和五年	高接				
第十五區	屋號	昭和五年	高接				

供試樹栽植反別ハ三畝二十二歩トス。
供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。

本年度ハ結果稍々少ク大正十四年ヨリ昭和六年度ニ至ル六ケ年平均反當收量ヨリ見ル時ハ最モ多キハ長十郎種ノ二百八十貫五百二十五匁ニシテ次ハ全勝ノ反當百九十九貫四百二十五匁之ニ次ギ第三位倉光百五十一貫六百五十匁第四位ハ石井早生ノ百四十九貫二百五十匁ナリ。

品質上ヨリ見ル時ハ廿世紀最モ優良ニシテ石井早生太白之レニ次ギ倉光全勝等ハ最モ劣ル。
樹勢ハ土佐今村、鴨梨、慈梨、明月、土佐猫殺等ハ極メテ旺盛ニシテ花芽ノ着生極メテ不良ナリ、石井早生、幸藏、今村秋、長十郎等ハ樹勢強キモ花芽ノ着生ハ良好ナリ、早生長、倉光、廿世紀ハ樹勢弱ク病害ノ被害多シ。

二、梨施肥方法ニ關スル試驗

耕種梗概

一、栽培方法剪定摘果袋掛病虫害豫防法ハ品種試驗ノ耕種梗概ニ準ズ。
二、本試驗ノ目的ハ施肥方法ヲ異ニシ以テ梨樹ノ發育結果ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントスルニアリ。

(2)、本試驗區別供試品種名樹齡本數樹形左ノ如シ。

區別	供試品種	供試本數	供試樹形	備考
第一區	長十郎	二本	棚作	大正十一年二年生植付
第二區	十年生			
第三區	十年生			
第四區	十年生			
第五區	十年生			

一、本試驗方法左ノ如シ。

(1)、第一區ハ樹株ノ周圍ニ圓形ノ溝孔ヲ穿テ其ノ内ニ肥料ヲ投入シ土壤ト混和シ更ニ表土ヲ被フ方法ニシテ其ノ溝ノ直徑ハ二寸宛延シ順次ニ其ノ大キサヲ増ス。

(2) 第二區ハ樹ヲ中心トシ放射狀ニ溝ヲ穿チ之レニ施肥スルコト前法ノ如シ。
 放射溝ノ數ハ六乃至八トシ成ル可ク旬根ヲ切斷セザル様ニ溝孔ヲナスモノトス。
 (3) 第三區ハ樹株周圍一面ノ表土ヲ上根ノ露出スル程度ニ剝ギ取り其ノ上ニ薄ク平均ニ施肥シ後掘リ上ゲタル土ヲ被フモノトス。
 (4) 第四區ハ樹株ノ主ナル旬根四―五本ヲ選定シ置キ兩側ニ溝孔ヲ穿チ其ノ内ニ施肥スル事第一區ト同様トス。
 (5) 第五區ハ第一區及第三區ノ兩様ノ方法ヲ併用スルモノトス。
 一、本試驗供試樹栽植反別ハ一畝十歩トス。
 一、本試驗供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
 一、本試驗成績摘載様式ハ品種試驗ト同様トス。

試驗成績

區別	試驗	個數	重量	昭和六年		昭和七年		平均	個數	重量
				個數	重量	個數	重量			
第一區	環狀法	五	三、二九八	七	五、五三三	六	三、六六九	四	四、八〇〇	
第二區	放射法	四	二、八四五	五	五、三三〇	四	三、二九二	三	四、五〇〇	
第三區	表土剝法	三	二、五三六	二	二、五五〇	二	二、五三六	二	三、四〇〇	
第四區	主根剝法	二	二、〇八〇	一	二、五三三	一	二、五九八	一	三、五〇〇	
第五區	表土剝法	一	二、六五〇	一	三、七九七	一	三、七九七	一	三、七九七	

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量多キハ前年度ト同ジク第一區第一位ニ第二區第二位ヲナシタリ最モ收量少ナキハ第三區ナリ尚引續キ之レヲ行ハントス。
 三、梨棚作り整枝方法試驗
 百四十八頁二百四十八頁

一、栽植方法肥料剪定摘果袋掛病虫害豫防方法ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、本試驗ノ目的ハ梨樹棚作り整枝方法ヲ施スニ際シ其ノ主枝本數ノ差異ト之レガ分枝方法ノ如何ガ將來發育結果ニ對シ如何ナル差異ヲ呈スルヤヲ比較シ最モ良好ナル整枝方法ヲ知ラントスルニアリ。
 一、本試驗區別供試品種供試樹令本數及樹形左ノ如シ。

區別	試驗	品種	樹名	齡	本數	樹數	備考
第一區	十二枝(四、三)	長十郎	十年生	二本	棚作		大正十一年二年生植付
第二區	十六枝(四、四)	長十郎	十年生	二本	棚作		大正十一年二年生植付
第三區	十二枝(三、三)	長十郎	十年生	二本	棚作		大正十一年二年生植付
第四區	十六枝(三、三)	長十郎	十年生	二本	棚作		大正十一年二年生植付
第五區	十八枝(三、三)	長十郎	十年生	二本	棚作		大正十一年二年生植付

一、本試驗方法左ノ如シ。
 (1) 第一區初年ニ於テ主幹地上三尺ノ高サニ剪定シ其レヨリ四枝ヲ發生セシメ次第二各枝ヲ一尺五寸シ長サニ剪定シ各枝ヨリ三枝宛發生伸長セシム。
 (2) 第二區ハ初年ニ於テ主幹地上三尺ノ高サニ剪定シ其レヨリ四枝ヲ發生セシメ次年ニ各枝ヲ一尺五寸ノ長サニ剪定シ更ニ各枝ヨリ四枝宛發生伸長セシム。
 (3) 第三區ハ初年ニ於テ主幹地上三尺ノ高サニ剪定シ四枝ヲ發生セシメ次年ニ各枝ヨリ二枝宛發生セシメ之レヲ一尺ノ長サニ剪定シ更ニ各枝ヨリ二枝宛發生セシム。
 (4) 第四區初年ニ於テ主幹地上三尺ノ高サニ剪定シ其レヨリ三枝ヲ發生セシメ次ニ各枝ヲ一尺ノ長サニ剪定シ更ニ各枝ヨリ二枝宛發生伸長セシメ之レヲ一尺ノ長サニ剪定シ更ニ各枝宛二枝ヨリ伸長セシムルモノトス。

(5) 第五區初年ニ於テ主幹地上三尺ノ高サニ剪定シ其レヨリ三枝ヲ發生セシメ次年ニ各枝ヲ一尺ノ長サニ剪定シ各枝ヨリ三枝發生セシメ之レヲ一尺ノ長サニ剪定シ更ニ各枝ヨリ二枝宛發生セシムルモノトス

一、本試驗供試樹栽培反別ハ一畝十歩トス。

一、本試驗供試樹栽培距離ハ方十二尺トス。

一、本試驗成績記載様式ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗成績

區別	試驗別	個數	重量	昭和六年度	同上年平均	同上年	反當
第一區	十二枝	四六四	二、五七三	四、九四四	二、九四四	三、六七五	二、一〇〇
第二區	十六枝	四九四	三、五二一	九、〇七二	四、四七二	五、一〇〇	三、七二五
第三區	十六枝	四九四	三、〇八一	五、六七一	三、六九	四、七二五	三、七二五
第四區	十八枝	五三六	二、九六二	三、〇二五	三、五七三	二、七二五	二、七二五
第五區	十八枝	五三六	一、七〇八	三、〇二五	三、五七三	二、七二五	二、七二五

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量ニ於テハ前年全樣第二區第一位ニ第四區第二位ニ第五區最モ劣レリ尚引續キ行ハントス。

四、梨施肥期試驗

耕種梗概

一、栽植方法剪定摘果袋掛病害虫豫防法ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、本試驗ノ目的ハ梨樹栽培ニ對シ左記試驗區別ノ如ク施肥期ヲ異ニシ本場ノ如キ土質及氣候ニ於ケル肥効ノ如何ヲ比較シ以テ適當ナル施肥期ヲ知ラントスルニアリ。

一、本試驗區別、品種、樹齡、本數及樹形左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	三、六月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第二區	三、八月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第三區	三、九月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第四區	三、七月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第五區	三、三月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第六區	三、三月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第七區	三、三月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第八區	三、三月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植
第九區	三、三月	長十郎	十一年	三本	コルドンホリザンタル	大正十一年二年生定植

一、本試驗供試面積ハ十六坪五トス

一、本試驗供試樹栽培距離ハ六尺四方トス。

一、本試驗ニ施用スル肥料種類數量ハ左ノ如シ (反當)

一、施肥期並ニ施肥種類及數量ノ各區別次ノ如シ

三年生反當施肥重三百本植

區別	試驗別	堆肥	木灰	煉粕	硫酸	豆	木灰	過石	下肥	木灰	過石	含有成分
第一區	標準	二月廿五、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	六月五、九六八	八、三三六	四、四三三	七月七、〇一七	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第二區	二月廿六	二月廿五、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	六月五、九六八	八、三三六	四、四三三	七月七、〇一七	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第三區	三月廿七	三月廿六、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	七月七、〇一七	八、三三六	四、四三三	八月八、〇二八	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第四區	三月廿八	三月廿七、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	八月八、〇二八	八、三三六	四、四三三	九月九、〇三九	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第五區	三月廿九	三月廿八、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	九月九、〇三九	八、三三六	四、四三三	十月十、〇四〇	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第六區	三月三十	三月廿九、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	十月十、〇四〇	八、三三六	四、四三三	十一月十一、〇五一	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第七區	三月三十一	三月三十、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	十一月十一、〇五一	八、三三六	四、四三三	十二月十二、〇五二	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第八區	四月一	三月三十一、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	十二月十二、〇五二	八、三三六	四、四三三	一月十三、〇六三	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200
第九區	四月二	四月一、〇〇〇	二、二〇〇	一、五〇三	〇、九四四	一月十三、〇六三	八、三三六	四、四三三	二月十四、〇七四	一、三三四	二、五二二	1.400, 1.100, 1.200

區別	試驗別	堆元	肥	木灰	鯨	粕	肥	硫	安	豆	一	木	道	肥	過	石	下	二	木	道	肥	過	石	窒	素	含	有	成	分	窒	素	含	有	成	分	加	里		
十一區	十一月	(八月)								(八月)																													
十區																																							

四年生反當施肥三百本植

區別	試驗別	堆元	肥	木灰	鯨	粕	肥	硫	安	豆	一	木	道	肥	過	石	下	二	木	道	肥	過	石	窒	素	含	有	成	分	窒	素	含	有	成	分	加	里			
十一區	十一月	(八月)								(八月)																														
十區																																								
九區																																								
八區																																								
七區																																								
六區																																								
五區																																								
四區																																								
三區																																								
二區																																								
一區																																								

五年生反當施肥三百本植

區別	試驗別	堆元	肥	木灰	鯨	粕	肥	硫	安	豆	一	木	道	肥	過	石	下	二	木	道	肥	過	石	窒	素	含	有	成	分	窒	素	含	有	成	分	加	里			
十一區	十一月	(八月)								(八月)																														
十區																																								
九區																																								
八區																																								
七區																																								
六區																																								
五區																																								
四區																																								
三區																																								
二區																																								
一區																																								

六年生反當施肥三百本植

區別	試驗別	堆元	肥	木灰	鯨	粕	肥	硫	安	豆	一	木	道	肥	過	石	下	二	木	道	肥	過	石	窒	素	含	有	成	分	窒	素	含	有	成	分	加	里			
十一區	十一月	(八月)								(八月)																														
十區																																								
九區																																								
八區																																								
七區																																								
六區																																								
五區																																								
四區																																								
三區																																								
二區																																								
一區																																								

七年生反當施肥三百本植

區別	試驗別	堆元	肥	木灰	鯨	粕	肥	硫	安	豆	一	木	道	肥	過	石	下	二	木	道	肥	過	石	窒	素	含	有	成	分	窒	素	含	有	成	分	加	里			
十一區	十一月	(八月)								(八月)																														
十區																																								
九區																																								
八區																																								
七區																																								
六區																																								
五區																																								
四區																																								
三區																																								
二區																																								
一區																																								

八年生反當施肥三百本植

區別	試驗別	堆肥	木灰	鍊粕	硫安	豆一回	木灰過肥	下二回	木灰過肥	含有成分
一	標準	二月	六月	六月	六月	六月	六月	八月	八月	五、三〇〇
二	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	九月	九月	五、三〇〇
三	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
四	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
五	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
六	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
七	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
八	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
九	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
十	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
十一	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇

九年生反當施肥量三百本植

區別	試驗別	堆肥	木灰	鍊粕	硫安	豆一回	木灰過肥	下二回	木灰過肥	含有成分
一	標準	二月	六月	六月	六月	六月	六月	八月	八月	五、三〇〇
二	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	九月	九月	五、三〇〇
三	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
四	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
五	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
六	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
七	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
八	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
九	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
十	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇
十一	標準	三月	七月	七月	七月	七月	七月	八月	八月	五、三〇〇

九年生以後ノ施肥量ハ九年生ト同様ニス。
 一、本試驗成績摘載様式ハ特性調査ト同様トス。

試驗成績

區別	試驗別	個數	昭和六年年度	以上六年平均	同	反當
一	標準	二	二七五	二七五	二七五	二七五
二	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
三	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
四	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
五	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
六	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
七	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
八	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
九	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
十	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
十一	標準	三	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最多キハ前年同様第九區六月一回施肥區、第一位ニ第二位ハ第十區ノ八月一回區、第三位ハ第八區ノ二月一回區ニシテ施肥回数ハ何レモ一回ニ全量ヲ施スヲ可トスルガ如シ。最も收量少キハ前年同様第一區ノ二月、六月、九月ノ三回施肥區ナリ尚ホ引續キ行ナハントス。

五、葡萄品種試驗

耕種梗概

一、栽培方法ハ徑二尺深サ一尺五寸ノ穴ヲ穿チ孔底中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ周圍ニ施シ表土ヲ投入シ堆肥ト充分混合シタル後更ニ土ヲ入レ稍々淺ク定植ス。
 一、本試驗ノ施肥ハ元肥一回、追肥二回トス。元肥ハ二月中ニ行ヒ第一回追肥ハ六月上旬第二回追肥ハ果實採收後直チニ行フ。其ノ種類數量配合法ハ左ノ如シ。

樹齡	堆肥	木灰	過石	硫酸	豆粕	木灰	過石	下肥	木灰	過石	窒素	磷	酸	加	分
七年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
六年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
五年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
四年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
三年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
二年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
一年	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000

七年生以後ハ七年生施用量ト同様トス。

- 一、剪定ハ冬季及夏季ノ二回トス。冬季剪定ハ二月下旬迄夏季剪定ハ六月中旬ヨリ八月上旬迄ニ一回行フ。
- 一、摘果ハ果實ノ小豆大ノ時ヨリ豌豆大ニ至ル迄ニ過多ノ結果セル時ニ果房ヲ間引キ果實一個一個ニ行ハズ。
- 一、發芽前後開花前後及果實大豆大ニナリシ時ニ三斗式ボルドウ液ヲ撒布シ尙ホ三月上旬迄ニ古皮ヲ剥皮ス。
- 一、中耕ハ早春淺ク一回行ヒ除草ハ隨時行フ。
- 一、採收ハ適熟ヲ待ツテ順次採ヲ用ヒテ行ヒ取扱ハ丁寧ニシテ果實ヲ損傷セザル様ニ注意ス。

試驗設計

- 一、本試驗ノ目的ハ葡萄ノ左記品種ヲ蒐集シ其ノ固有ノ性質ノ良否栽培上ノ難易及收量ノ多寡ヲ比較シ以ツテ本縣内ニ適當スル最良品種ヲ選出セントス。
- 一、本試驗區別品種名樹令本數樹形左ノ如シ。

區別	品名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	ハイランド	十一年	二	本棚	大正十一年二年生植付
第二區	ハイランド	十一年	二	本棚	大正十一年二年生植付
第三區	ハイランド	十一年	二	本棚	大正十一年二年生植付
第四區	ハイランド	十一年	二	本棚	大正十一年二年生植付
第五區	ハイランド	十一年	二	本棚	大正十一年二年生植付

品名	番號	枝幹		開發		收穫		最粒	落葉	梢枝	地上一尺ノ幹ノ太サ	病蟲害	備考
		太長	花芽	上同	下同	均平	大房						
第一區	九七六	ムアスダイヤモンド	アジロダツク

試驗成績

區別	試驗別	房數	平均	昭和六年	以上七ヶ年平均	同上	反當
第一區	ハイランド
第二區	ハイランド
第三區	ハイランド
第四區	ハイランド
第五區	ハイランド
第六區	ハイランド
第七區	ハイランド
第八區	ハイランド

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年同様第八區ノ反當七百四十貫七百七十五匁ヲ第一位ニ第四區ノ反當六百七十五貫四百五十匁ヲ第二位ニ第五區ノ反當二百二十一貫六百二十五匁ヲ最モ劣レリトナス。尙ホ引續キ行ハントス。

六、葡萄整枝方法試驗

一、栽植方法、肥料、摘果、袋掛、病虫害豫防法ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、本試驗ノ目的ハ葡萄ニ對シ左記整枝方法ノ何レガ最モ完全ナル發育結果ヲナスヤヲ驗知セントス。
 二、試驗區別供試品種名樹令本數及樹形左ノ如シ。

區別	試驗	品名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	四段長梢	ムアスダイヤモンド	十一年生	二本	四段長梢	大正十一年二年生定植
第二區	三段長梢	"	"	"	三段長梢	
第三區	二段長梢	"	"	"	二段長梢	
第四區	一段長梢	"	"	"	一段長梢	
第五區	三段備枝	"	"	"	三段備枝	
第六區	二段備枝	"	"	"	二段備枝	
第七區	一段備枝	"	"	"	一段備枝	

一、本試驗方法左ノ如シ。

(1) 第一區ハ初年ニ於テ主幹地上一尺二寸ニテ剪定シ夫レヨリ三枝ヲ發生セシメ一ハ直立ニ誘引シテ主幹トシ他ノ二枝ハ左右ニ誘引シテ結果セシメ次年ニハ其ノ内主幹ノ一枝ハ之レヲ一尺二寸ニ剪定シ他ノ左右二枝ハ短梢ニ剪定ス、而シテ直立ノ主幹ヨリ又三枝ヲ發生セシメ之レニ結果セシメ左右二枝ハ幹部ニ近キ處ニテ二芽ヲ殘シテ剪定シ如此四段マデ剪定整枝ヲ毎年繼續施行スルモノトス。

- (2) 第二區ハ初年ニ於テ主幹地上一尺二寸ニテ剪定シ夫レヨリ三枝ヲ發生セシメ一ハ直立ニ誘引シテ主幹トシ他ノ二枝ハ左右ニ誘引シテ結果セシメ次年ニテ其ノ内主幹ノ一枝ハ之レヲ一尺二寸ニ剪定シ他ノ左右二枝ハ左右ニ誘引シテ之レヲ一尺二寸内外ニテ剪定ス。主幹ヨリハ又更ニ三枝ヲ發生セシメ初年ノ如ク取り扱ヒ左右ニ誘引シテ結果枝トナス。而シテ其ノ枝上ニテ最モ主幹ニ近ク發生シタル梢ニハ結果セシメズシテ豫備枝トシ冬季ニ至リ今年ノ結果母枝ハ其ノ豫備枝ノ基部ニテ剪除シ豫備枝ハ之レヲ一尺二寸内外ニ剪定シテ左右ニ誘引シテ結果母枝トナス。如此四段ノ長梢ヲ造リ之レニ結果セシム。
- (3) 第三區ハ第二區ニ於ケルト同ジ取り扱ヒヲナシ三ヶ年ニテ三段ノ長梢ヲ完成ス。即チ第三區ハ三段ナルニ第二區ハ四段ナル差アリ。
- (4) 第四區ハ初年ニ於テ一尺二寸ニ剪定シ之レヨリ三枝ヲ發生セシメ一枝ハ直立ニ誘引シテ主幹トシ翌年更ニ一尺二寸ニ剪定シ殘リ二枝ハ一尺内外ニテ剪定シ左右水平ニ誘引シテ結果枝トナシ此ノ枝上最モ主幹ニ近ク發生シ強生ナル一枝ハ左右枝共ニ結果セシメズ此レヲ豫備枝トナス。直立セシ主幹ヨリハ左右枝ノミ發生セシメ之レヲ翌年一尺二寸内外ニ剪定シ左右ニ誘引シテ結果枝トナス。其ノ後ノ取り扱ヒハ初メ一段ニ於ケルト同様ニ主幹近クニ發生充實セルモノヲ豫備枝トシ前年ノ結果枝ハ之レヲ冬季剪除ス。而シテ結果枝上ニ發生スル新梢ハ之レヲ誘引スルコトナク其ノ儘放任スルモノトス。
- (5) 第五區ハ初年ニ於テ地上二尺四寸ニテ剪定シ之レヨリ三枝ヲ發生セシメ二年ニ三枝ハ之レヲ十八度ノ傾斜ヲ以テ左右ニ誘引結果セシメ其ノ最モ主幹ニ近ク發生スル一芽ハ結實セシメズ豫備枝トシ其ノ他ノ發生ノ新梢ニ結果セシメ爾後毎年如此豫備枝ヲ發生セシメ前年ノ結果枝ヲ剪除ス。尙ホ直立主幹頂部ヨリ發生セシ豫備ノ二枝ハ六十八度ニ誘引スル事一段目同様トシ毎年二段宛更新ス。
- (6) 第六區ハ初年ニ於テ地上三尺六寸ニテ剪定シ之レヨリ二枝ヲ發生セシメ二年目ニ至リ一枝ハ之レハ水

平ニ誘引シ結果枝タラシメ他ノ一枝ハ莖部ニ芽ヲ殘シテ剪定ス。是レヨリ發生セル二枝ノ内一枝ハ翌年ノ豫備結果枝トシテ水平ニ誘引シ他ノ一枝ハ前年ノ如ク二芽ヲ殘シ剪定シ前年結果枝ハ之レヲ剪除ス。如此毎年同一ノ整枝ヲナス。

(7)

第七區ハ初年ニ於テ一尺二寸ニテ剪定シ之レヨリ三枝ヲ發生セシメ一枝ハ主幹トシテ直立セシメ他ノ二枝ハ左右水平ニ誘引シ主幹トナス。而シテ二年目ニ至リ主幹ノ長サ二尺ノ高サニテ剪定シ二芽ヲ發生セシメ前年ノ如ク左右水平ニ誘引シ主幹トナシ又初年水平主幹ヨリハ結果枝ヲ生セシメ爾後毎年主幹上同一場所ニ於テ二芽短梢剪定ヲ行ヒ上部ノ水平枝モ亦同様ニ取扱フ。

- 一、本試験供試樹栽植反別ハ二十八坪トス。
- 一、本試験供試樹栽植距離ハ方六尺トス。
- 一、本試験ノ成績摘載様式品種試験ト同様トス。

試験成績

區別	試驗別	房數	重量	平均	昭和六年度	同上年平均	同上年平均	反當
第一區	四段長梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第二區	四段長梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第三區	四段長梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第四區	三段長梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第五區	二段長梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第六區	二段短梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇
第七區	二段短梢	一六八	〇、四七五	二、八〇	一、九七	一、七三	一、七五	〇、〇〇〇

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年同様第七區ニシテ反當五百九貫百々ヲ第一位ニ第四區反當三百八十七貫三百々ヲ第二位ニ第一區反當百七十五貫五百々最モ劣ル尙引續キ行ナハントス。

七、葡萄冬季剪定法試驗

耕種梗概

一、栽植方法肥料剪定期時病虫害豫防中耕除草等ハ品種試験ニ準ズ。

試驗設計

一、本試験ノ目的ハ當場ノ如キ土質及氣候ニ於テ如何ナル剪定方法ガ發育結果ニ良好ナルヤヲ知ラントスルニアリ。

一、本試験區別供試品種樹齡本數樹形ハ左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	在來	ナイヤガラ	十七年	一本	棚	大正十一年春期九年生移植
第二區	長尺	同上	同上	同上	同上	同上
第三區	長尺	同上	同上	同上	同上	同上
第四區	長尺	同上	同上	同上	同上	同上
第五區	短尺	同上	同上	同上	同上	同上

一、本試験方法左ノ如シ。

- (1) 第一區ハ新梢ノ強弱ニヨリ之レヲ適當ノ長サニ剪定スルモノトス。
 - (2) 第二區ハ新梢ノ強弱ニ從ヒ五寸内外ニ剪定ス。
 - (3) 第三區ハ新梢ヲ二尺ノ長サニ剪定スルモノトス。
 - (4) 第四區ハ新梢ヲ三尺ノ長サニ剪定ス。
 - (5) 第五區ハ新梢ヲ四尺ノ長サニ剪定ス。
- 一、本試験供試樹栽植反別ハ二十坪トス。
 - 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
 - 一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト同様トス。

試験成績

區別	試驗別	昭和六年平均		昭和七年平均		昭和八年平均		昭和九年平均	
		房數	重量	房數	重量	房數	重量	房數	重量
第一區	在來	315	7,520	318	7,630	315	7,520	315	7,520
第二區	短梢	325	7,950	325	8,100	325	8,100	325	8,100
第三區	長梢	335	8,380	335	8,530	335	8,530	335	8,530
第四區	長梢	345	8,810	345	8,960	345	8,960	345	8,960
第五區	長梢	355	9,240	355	9,390	355	9,390	355	9,390

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年ト同様第五區ニシテ反當九百二十一貫ヲ第一位ニ第二區反當六百八十三貫四百九第二區ニ第三區反當五百九十一貫八百二十五貫最モ劣レリ尙ホ引續キ行ハントス。

八、葡萄夏季剪定回数試驗

耕種梗概

一、栽培方法肥料冬季剪定病虫害豫防中耕除草等ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、本試驗ノ目的ハ本場ノ如キ土質氣候ニ於テ夏季剪定ノ回数ガ葡萄ノ發育結果ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ。

一、試驗區別供試品種名樹齡本數及樹形左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	第一試驗	アジロンダック	十一年	本	棚	大正十一年二年生植付
第二區	第二試驗	同上	同上	同上	同上	同上
第三區	第三試驗	同上	同上	同上	同上	同上
第四區	第四試驗	同上	同上	同上	同上	同上

一、本試驗方法左ノ如シ。

- (1) 第一區ハ新梢ノ長サ三尺五寸前後ノ時其ノ先端ヲ六月十日ニ一回剪除ス。
- (2) 第二區ハ新梢ヲ三尺五寸ニテ六月十日ニ剪除シ其ノ後發生スル側枝及主枝ハ之レヲ二芽ニテ七月十日剪除シ二回剪定ヲナス。
- (3) 第三區ハ第二區ト同様ニ取扱ヒ更ニ發生スル側枝梢ヲ八月十日ニ二芽ヲ殘シテ剪除シ三回ノ剪定ヲナス。
- (4) 第四區ハ第三區ト同様ニ取扱ヒ更ニ發生スル側枝梢ヲ九月十日ニ二芽ヲ殘シテ剪除シ四回ノ剪定ヲナス。

一、本試驗供試樹栽植反別ハ三十二坪トス。

一、本試驗供試樹栽植距離ハ十二尺トス。

一、本試驗成績摘載様式ハ品種試驗ト同様トス。

試驗成績

區別	試驗別	昭和六年平均		昭和七年平均		昭和八年平均		昭和九年平均	
		房數	重量	房數	重量	房數	重量	房數	重量
第一區	第一試驗	293	6,127	293	6,127	293	6,127	293	6,127
第二區	第二試驗	305	6,770	305	6,770	305	6,770	305	6,770
第三區	第三試驗	317	7,113	317	7,113	317	7,113	317	7,113
第四區	第四試驗	329	7,456	329	7,456	329	7,456	329	7,456

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年同様第二區ノ反當六百十五貫七百五十貫ヲ第一位ニ第一區ノ五百六十三貫八百五十貫第二位ニ第四區ノ反當四百二十四貫八百七十五貫最モ劣レリ尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

九、葡萄摘果試驗

耕種梗概

一、栽植方法肥料剪定病虫害豫防中耕除草ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、試驗ノ目的ハ葡萄ノ結實ニ對シ一房中如何ナル摘果方法ガ其ノ果實ノ收量及品質ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリ。

一、本試驗區別供試品種樹齡本數樹形左ノ如シ。

區別	試驗	品種	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	無摘果	ムアスダイヤモンド	十一年	二本	垣根作	大正十一年二年生植付
第二區	八分摘果	"	"	"	"	"
第三區	六分摘果	"	"	"	"	"
第四區	四分摘果	"	"	"	"	"
第五區	二分摘果	"	"	"	"	"
第六區	無摘果	"	"	"	"	"

一、本試驗ノ方法次ノ如シ。

- (1) 第一區ハ無摘果トス。
- (2) 第二區ハ果粒小豆大ニ生育ノ時摘果スベキ數ノ半數ヲ摘除シ更ニ豌豆大トナリシ時ニ殘リヲ摘果シテ最初結果セシ顆粒ノ八分ノ一ヲ摘果スベシ。
- (3) 第三區ハ果實ノ小豆大ノ時摘果スベキ數ノ半數ヲ摘果シ豌豆大トナリシ時殘リヲ摘果シテ最初結果顆粒ノ六分ノ一ヲ摘果スルモノトス。
- (4) 第四區ハ果實ノ小豆大ノ時摘果スベキ數ノ半數ヲ摘果シ豌豆大トナリシ時殘リヲ摘果シテ最初結果顆粒數ノ四分ノ一ヲ摘果スルモノトス。

- (5) 第五區ハ果實ノ小豆大トナリシ時摘果スベキ數ノ半數ヲ摘果シ豌豆大トナリシ時殘リヲ摘果シテ最初結果顆粒數ノ二分ノ一ヲ摘果スルモノトス。
- (6) 第六區ノ結實ノ小豆大トナリシ時摘果スベキ數ノ半數ヲ摘果シ豌豆大トナリシ時殘リヲ摘果シテ最初結果セシ顆粒數ノ三分ノ二ヲ摘果スルモノトス。
- 一、本試驗供試樹栽植反別ハ二十四坪トス。
- 一、本試驗供試樹栽植距離ハ六尺トス。
- 一、本試驗成績摘載様式ハ品種試驗ト同様トス。

試驗成績

區別	試驗	房數	重量	昭和六年年度	以上六年平均	同	上	反	當
第一區	無摘果	四三、一	一、四四三	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇
第二區	八分摘果	四六、六	一、六四三	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇
第三區	六分摘果	五七、一	一、五七三	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二
第四區	四分摘果	五七、九	一、五七三	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二	一、四四二
第五區	二分摘果	四六、六	一、六四三	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇	一、四四〇
第六區	無摘果	四三、一	一、四四三	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇	一、三七一〇

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ第三區反當四百六十三貫五百匁第一位トシ第二區四百四十三貫百匁第二位ニ第六區反當二百四十九貫三百匁最モ劣レリ。品質ニ於テハ第五區第六區最モ良好ニシテ第一區最モ劣レリ。要スルニ生食用トシテハ摘果スベク其ノ程度ハ四分ノ一位トシ加工用ノ場合ハ摘果セザルヲ可トス尙引續キ行ハントス。

十、葡萄施肥方法試驗

耕種梗概

一、栽植方法、剪定、肥料摘果病虫害豫防方法ハ品種試験ニ準ズ。

試験設計

一、本試験ノ目的ハ施肥方法ヲ異ニシ葡萄ノ發育結果品質ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントス。
一、本試験區別供試品種樹齡本數樹形次ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	環狀法	チャムピオン	十二年	二本	棚作	大正十一年二年生植付
第二區	放射狀法	"	"	"	"	"
第三區	表土剝法	"	"	"	"	"
第四區	表土剝法	"	"	"	"	"
第五區	表土剝法	"	"	"	"	"

- 一、本試験方法左ノ如シ。
- (1) 第一區ハ樹株ノ周圍ニ圓形ノ溝孔ヲ穿テ其ノ溝内ニ肥料ヲ投入シ土壤ト混和シ更ニ堀リ上ゲタル表土ヲ之レニ被ヒ而シテ其ノ溝ノ直徑ハ前年ヨリ二寸宛其ノ大キサヲ延長増加スルモノナリ。
 - (2) 第二區ハ樹株ヲ中心トシ放射狀ニ溝孔ヲ穿テ之レニ施肥スル事前法ノ如クス。而シテ放射孔ノ數ハ六又ハ八トシ成ル可ク葡萄根ヲ切斷セザル場所ヲ選ビ之レヲ堀ルモノトス。
 - (3) 第三區ハ樹株周圍一面ノ表土ヲ第一區環狀法ト同様ノ廣サニ上根ノ露出スル程度ニ剝ギ取り其ノ上ニ薄ク平均ニ施肥シ後堀リ上ゲタル表土ヲ之レニ被フ。
 - (4) 第四區ハ樹株ノ葡萄根四乃至五本ヲ選定シ其ノ兩側ニ溝孔ヲ穿テ其ノ内ニ施肥スル事第一區ノ如クシ後之レニ覆土スルモノナリ。
 - (5) 第五區ハ第一及第三區兩様ノ方法ヲ併用スルモノナリ。
- 一、本試験供試樹栽植反別四十坪トス。

一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト同様トス。

試験成績

區別	試驗別	昭和六年度		以上七ヶ年平均		同上反當	
		房數	重量	房數	重量	房數	重量
第一區	環狀法	三八八	六、四四五	九五〇	八、八三三	三〇、六七五	六三六、九〇〇
第二區	放射狀法	三三七	七、八五三	七六六	九、二六三	二九、〇二五	六九四、〇〇〇
第三區	表土剝法	四〇三	七、九九九	六〇四	八、七六六	三三、三三三	六九七、〇〇〇
第四區	表土剝法	三三三	六、八九九	七〇八	八、二四六	二九、二五〇	六二八、〇〇〇
第五區	表土剝法	二七三	六、〇八七	五五五	七、三三六	二二、〇〇〇	五三三、〇〇〇

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ第三區ノ反當六百九十四貫八百九十九匁ヲ第一位トシ、第三區ノ反當六百五十九貫七百九匁ヲ第二位ニ第五區ノ反當四百四十二貫六百二十五匁最モ劣レリ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十一、葡萄磷酸質肥料試験

耕種梗概

一、栽植方法剪定病虫害豫防方法中耕除草ハ品種試験ニ準ズ。
一、施用スル肥料種類數量配合法左ノ如シ。
大正十一年度二年生ハ葡萄品種試驗施肥標準ニ依リ行フ。

大正十二年 三年生反當施用量

試驗別	元肥				一回追肥				含有成分
	骨粉	米糠	過石	藥灰	骨粉	米糠	過石	下肥	
骨粉區	100	100	100	100	100	100	100	100	0.024
米糠區	100	100	100	100	100	100	100	100	0.024
過石區	100	100	100	100	100	100	100	100	0.024
混合區	100	100	100	100	100	100	100	100	0.024

四年生反當施肥用量

試験別	元		肥		二、回追肥		含有成分	
	骨粉	米糠	過石	硫酸	骨粉	米糠	窒素	磷酸
骨粉	五、六三	四、〇七	四、〇七	三、九三	三、一八	二、二九	〇、二五	〇、〇〇
米糠	四、二八	一、五〇	一、五〇	一、五〇	〇、二五	〇、二五	〇、〇〇	〇、〇〇
過石	—	—	10,000	—	5,000	—	—	—
硫酸	—	—	—	五、五九	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
窒素	—	—	—	—	—	—	—	—
磷酸	—	—	—	—	—	—	—	—
加里	—	—	—	—	—	—	—	—

五年生反當施肥用量

試験別	元		肥		二、回追肥		含有成分	
	骨粉	米糠	過石	硫酸	骨粉	米糠	窒素	磷酸
骨粉	九、〇八	六、八五	四、〇七	三、九三	四、五四	二、八二	〇、二五	〇、〇〇
米糠	—	—	—	—	—	—	—	—
過石	—	—	10,100	—	5,000	—	—	—
硫酸	—	—	—	八、三三	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
窒素	—	—	—	—	—	—	—	—
磷酸	—	—	—	—	—	—	—	—
加里	—	—	—	—	—	—	—	—

六年生反當施肥用量

試験別	元		肥		二、回追肥		含有成分	
	骨粉	米糠	過石	硫酸	骨粉	米糠	窒素	磷酸
骨粉	一、七六	七、五三	五、九八	三、九三	五、六七	三、五七	〇、二五	〇、〇〇
米糠	—	—	—	—	—	—	—	—
過石	—	—	七、四二	—	三、五七	—	—	—
硫酸	—	—	—	七、七九	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
硫酸	—	—	—	—	—	—	—	—
窒素	—	—	—	—	—	—	—	—
磷酸	—	—	—	—	—	—	—	—
加里	—	—	—	—	—	—	—	—

六年生以後ハ六年生ト全様ノ施肥ヲ行フ。

試験設計

一、本試験ノ目的ハ磷酸質肥料ノ種類ヲ異ニシ左記品種ノ發育結果品質ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ラントス。

一、本試験區別品種名樹齡本數樹形ハ左ノ如シ。

區別	試験別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	骨粉	ブライトン	十一年生	二	柳作	大正十一年二年生植付
第二區	米糠	標準	—	—	—	—
第三區	過石	標準	—	—	—	—
第四區	硫酸	標準	—	—	—	—

一、本試験供試樹栽植反別ハ二十八坪トス。

一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。

一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト全様トス。

區別	試験別	昭和六年度		昭和七年度		同反當	
		房數	重量	房數	重量	房數	重量
第一區	骨粉	二九六	五、二〇	三〇七	六、三六	三〇〇	四、〇〇
第二區	米糠	三八三	五、四〇	四六三	六、三三	三九六	四、〇〇
第三區	過石	三五八	五、一四	四七三	六、三三	三九六	四、〇〇
第四區	硫酸	二五五	四、六四	四四三	五、七八	三〇〇	四、〇〇
		十四、十五、二、三、五ノ六ヶ年平均		昭和六年度		以上七ヶ年平均	

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年全様第二區ニシテ反當四百七十五貫五十匁ヲ第一位ニ、第一區反當四百六十貫三百五十匁ヲ第二位ニ、第四區ノ反當三百九十六貫百五十匁最モ劣レリ。而シテ其ノ品質ニ於テハ第一區ノ骨粉區最モ品質優良ニシテ前年優良ナリシ第三區ハ第二區ヨリ劣レリ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十二、硝子室葡萄品種特性調査

耕種梗概

一、栽植方法ハ室内兩側ノ植壇客土中規定ノ場所ニ徑一尺ノ孔ヲ穿チ苗木根端ヲ整理セシモノヲ稍々淺ク灌

水シテ定植ス。

一、肥料ハ年二回ニシテ一本ニ對スル種類數量ハ骨粉七匁、木灰四匁、硫酸アンモニア二匁ニシテ其ノ肥料ノ半量ヲ發芽前ニ、残り半量ヲ凋花後ニ施用ス。

一、管理方法左ノ如シ。

(イ) 灌水ハ發芽前ニ充分行ヒ開花中ハ室内並ニ土壤共稍々乾燥ナラシメ果粒ノ發育シ始ムル時ハ更ニ多量ノ灌水ヲナシ冬季中ハ一切之レヲ行ハズ其他時期ニ於テハ土壤ノ乾濕ヲ見計ヒ適宜ニ多量ノ灌水ヲナス。

(ロ) 葉上灌水ハ發芽前一週間ニ始マリ朝夕一回花期ニ達スレバ之レヲ中止シ更ニ落花後之レヲ行ヒ果粒豫定ノ大サニ達スルニ至リテ之レヲ止ム。

(ハ) 溫度ハ發芽約一ヶ月前ヨリ補温シ夜間最低溫度四十度乃至四十五度、晝間五十度乃至六十度ヨリ初メ漸時發芽情況ニ從ヒ五度宛上昇セシメ發育ヲ促シ開花期ニ達スレバ又下降セシメ、夜間最低五十度晝間七十五度乃至八十度ヲ保タシメ盛花期ニ至レバ日中最高九十五度トシ其後同様ノ溫度ヲ持續セシメ既ニ果實ノ稍々着スルニ至レバ漸次溫度ヲ低下セシメ且ツ空氣ノ流通ヲ充分ナラシム。

(ニ) 障子ノ開閉ハ以上規定溫度ノ標準ニ從ヒ既ニ收穫後ハ翌年發芽ノ促進ヲ行フマデ開放スルモノトス

試驗設計

一、左記品種ヲ蒐集シテ硝子室内ニテ行ヒ以テ其ノ品質ノ良否收量ノ多寡栽培ノ難易等其ノ品種固有ノ特性ヲ調査シ以テ將來本縣下ノ斯業計畫者ノ資タラシメントス。

一、本試驗調査區別品種名樹齡本數ハ左ノ如シ。

區別	品種名	樹齡	本數	備考
第一區	ホヌスターシードリンゲ	三年生	二本	昭和五年二年生植付

區別	品種名	樹齡	本數	備考
第一區	ゴードンチヤンピオン	三年生	二本	
第二區	マドレス、フヰールトコト	三年生	二本	
第三區	ブラウンスオプウェル	三年生	二本	
第四區	ホワイトマラガ	三年生	二本	
第五區	カアラブリアンレゲン	三年生	二本	
第六區	グロコルマン	三年生	二本	
第七區	マスカットアレキサンドリ	三年生	二本	
第八區	マスカットカノン	三年生	二本	
第九區	マスカットハンブルグ	三年生	二本	
第十區	ミスペアリン	三年生	二本	
第十一區	パレスティン	三年生	二本	

一、調査記載書式ハ左ノ如シ。

種號	品番	施肥	枝幹	節發		開凋	落果	摘着	完採	總上	重下	大最	品質	病成	收入			溫最	最平	濕最	最平							
				間	芽										花	葉	房					果	色	熟	收	房	重	房

試驗成績

區別	品種名	上房		中房		下房		合計	平均(一本)	
		房數	重量匁	房數	重量匁	房數	重量匁		房數	重量匁
第一區	ホヌスターシードリンゲ	10	75.5	3	5.5	3	14.5	16	87.5	
第二區	ゴードンチヤンピオン	10	75.5	3	5.5	3	14.5	16	87.5	
第三區	マドレス、フヰールトコト	10	75.5	3	5.5	3	14.5	16	87.5	
第四區	ブラウンスオプウェル	10	75.5	3	5.5	3	14.5	16	87.5	

第五區	ブラツクプリンス	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第六區	ホワイトマラガス	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第七區	カラーコルマン	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第八區	グロークルマン	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第九區	マスカットアレキサンドリア	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第十區	マスカットカンノンホール	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第十一區	マスカットハンブルグ	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第十二區	ミスベアソン	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五
第十三區	パレスタイン	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五	二七五

以上ノ成績ニ依レバ收量ニ於テハ第十三區「パレスタイン」種ヲ第一位トシ、第八區「グロークルマン」之ニ亞ギ、第一區「ホスターシードリング」第三位ヲ示シ、其他「マスカットハンブルグ」「ブラツクプリンス」「マドレスフキルドコート」「プリンスオブウエルス」ノ順位ヲ示セリト雖モ、未ダ樹齡幼ク數年後ノ成績ニ非レバ優劣ヲ決定ス可カラズ引續キ之ヲ行ナハントス。

十三、桃品種試驗

耕種 概観

一、栽植方法ハ徑二尺深サ一尺五寸ノ孔ヲ穿チ孔底ハ中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ周圍ニ施シ少シク表土ヲ投入シ堆肥ト混合シ其ノ上ニ稍々淺ク定植ス。
 二、施肥ハ元肥一回追肥二回トス。元肥ハ二月中ニ行ヒ第一回追肥ハ六月上旬第二回ハ果實採收後直ニ行フ其ノ種類數量ハ左ノ如シ。

樹齡	元肥			一回追肥			二回追肥			含有成分		
	堆肥	木灰	過石	木灰	過石	下肥	木灰	過石	窒素	燐酸	加里	
二年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200	
三年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200	
四年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200	
五年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200	

六年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200
七年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200
八年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200
九年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200
十年	1,000	0,100	0,101	1,211	0,101	10,115	0,110	0,105	0,400	0,200	0,200

十一年以後ハ十年生ト同等トス。

- 一、剪定ハ冬季及夏季ノ二回トス冬季ハ三月上旬迄ニ行ヒ夏季ハ五月下旬ヨリ八月下旬迄ニ行フ。
- 一、摘果ハ二回ニ行フモノトス。第一回ハ五月中旬最後ニ残スベキモノ二倍ヲ止メ、第二回ハ五月下旬所要ノ數ヲ殘シ其他ヲ摘果ス。而シテ袋掛ハ最後ノ摘果後直ニ行フモノトス。
- 一、三月中旬石灰硫黄合劑ホーメ比重四度ノ液ヲ撒布シ落花後及果實指頭大ノ時及袋掛前硫化加里又ハ石灰硫黄合劑ヲ撒布シ尙ホ落葉落果ハ焼却ス。
- 一、採收ハ適熟ヲ待チ順次行フ取扱ハ丁寧ニシテ果實ヲ損傷セザル様ニス。

試驗 設計

一、本試驗目的ハ左記各品種ヲ蒐集栽培シ生育狀態收量ノ多寡及品質ノ良否ヲ比較シ以テ本縣ノ風土ニ適應スル優良種ヲ選定セントス。
 二、本試驗區別品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	田中早生	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付
第二區	傳早生	十一年	二本	盆狀形	
第三區	改良天津	十一年	二本	盆狀形	
第四區	橋本早生	十一年	二本	盆狀形	
第五區	アメリヤ	十一年	二本	盆狀形	
第六區	カールマン	十一年	二本	盆狀形	
第七區	日月桃	十一年	二本	盆狀形	

- 一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二十六歩トス。
- 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
- 一、本試験成績摘載様式ハ梨ノ特性調査様式ニ準ズ。

試験成績

區別	試験別	十四、十五、二十年平均		昭和六年度		以上七ヶ年平均		同上反當	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區	田中早生	106	3,723	307	13,261	135	5,128	101	3,155
第二區	橋早生	137	5,423	333	13,599	165	6,558	121	4,860
第三區	改良天津	83	2,803	183	5,360	90	2,922	67	2,350
第四區	カールマン	53	1,703	118	3,645	77	2,477	75	2,350
第五區	日月桃	33	1,177	76	2,488	63	1,933	40	1,300
第六區		23	877	56	1,855	46	1,468	35	1,100
第七區		13	477	36	1,100	23	766	15	490

以上ノ成績ニ依ル時ハ第二區ハ前年同様收量最モ多ク反當四百九十一貫八百五十匁ヲ第一位ニ、第一區反當三百八十四貫六百匁第二位ニ、第七區反當百三十三貫九百五十匁最劣レリ。然レドモ熟期ニ於テハ日月桃最モ早ク橋早生之レニ次ギ品質ハ橋早生之レニ次ギ品質不良ナルハ改良天津ナリ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十四、桃客土ニ關スル試験

耕種梗概

- 一、肥料、剪定、摘果、袋掛、病虫害豫防等ハ品種試験ニ準ズ。
- 一、本試験ノ目的ハ左記ノ如ク客土ノ種類ヲ異ニシ其ノ何レガ本場ノ如キ氣候土質ニ於テ發育結果優良ナル

試験設計

ヤヲ知ラントスルニアリ。
一、本試験區別供試品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	砂利	橋早生	十年生	二本	歪狀形	大正十一年二年生植付
第二區	瓦ノ破片	橋早生	十年生	二本	歪狀形	
第三區	瓦ノ破片及石炭殼	橋早生	十年生	二本	歪狀形	
第四區	瓦ノ破片及石炭殼及標準砂	橋早生	十年生	二本	歪狀形	
第五區	瓦ノ破片及石炭殼	橋早生	十年生	二本	歪狀形	
第六區	瓦ノ破片及石炭殼	橋早生	十年生	二本	歪狀形	
第七區	瓦ノ破片及石炭殼	橋早生	十年生	二本	歪狀形	

一、本試験客土方法

- 第一區ハ徑二尺深サ一尺五寸ノ孔ヲ堀リ孔底五寸ノ厚サニ砂利ヲ敷キ其ノ上ニ少シク土ヲ入レ後供試樹ヲ中央ニ置キ表土ト砂利ヲ等分ニ混合セシモノヲ以テ栽植ス。
- 第二區ハ栽孔ノ大サ及ビ栽植方法ハ一區ト同様ニシテ孔底並ニ混合土ニ砂ヲ使用ス。
- 第三區ハ栽孔ノ大サ及ビ栽植方法ハ一區ト同様ニシテ孔底並ニ混合土ニ瓦ノ破片ヲ使用ス。
- 第四區ハ栽孔ノ大サ及ビ栽植方法ハ一區ト同様ニシテ孔底並ニ混合土ニ石炭殼ヲ使用ス。
- 第五區ハ栽孔ノ大サ及ビ栽植方法ハ一區ト同様ニシテ孔底並ニ混合土ニ瓦ノ破片及砂ヲ等分ニ使用ス。
- 第六區ハ栽孔ノ大サ及ビ栽植方法ハ一區ト同様ニシテ孔底並ニ混合土ニ石炭殼及砂ヲ等分ニ使用ス。
- 第七區ハ無混合トス。

但シ各區混合材料容積ハ六立方尺トス。

- 一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二十六歩トス。
- 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。

一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト全様トス。
試験成績

區別	試験別	昭和六年度		以上七ヶ年平均		同上反當	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區	砂利	一〇五	三、三〇四	二四四	八、七二四	一二五	九、七五五
第二區	瓦ノ破片	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
第三區	瓦ノ破片及砂	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
第四區	瓦ノ破片及砂	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
第五區	瓦ノ破片及砂	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
第六區	石炭及砂	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
第七區	標準	一六九	四、七九四	二〇〇	六、一五八	一七五	四、八七五
		四、五、六ヶ年平均	三、三〇四	二四四	八、七二四	一二五	九、七五五

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年全様第七區ニシテ反當六百七十二貫七十五匁アリ。第二位ハ第四區反當五百五十三貫七百二十五匁ニシテ、第五區反當二百七十九貫百五十匁最モ劣レリ。即チ本場ノ如キ土質ニ於テハ容土ノ必要ハナク寧ロ剪定方法ニ依リ收量ヲ左右スルヲ知ルモノナリ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十五、桃豫備枝剪定法試験

耕種梗概

一、肥料、摘果、袋掛、病虫害豫防中耕除草ハ品種試験ト同様トス。

試験設計

一、本試験ノ目的ハ桃樹ノ下部結果枝ガ常ニ枯死スルノ特性アルヲ防グ爲メ是レガ適當ナル豫備結果枝剪定方法ヲ確定セントスルニアリ。

一、本試験區別品種名、樹齡、本數、樹形ハ左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	二枝標準	田中早生	十年生	二本	盃狀形	大正十一年二年生植付
第二區	三枝標準	"	"	"	"	"
第三區	四枝標準	"	"	"	"	"
第四區	四枝標準	"	"	"	"	"

一、本試験方法左ノ如シ。

第一區ハ普通剪定法ヲ行フ。

第二區ハ最初發育枝上ニ二葉ヲ殘シテ剪定シ之レヨリ生ジタル二枝ヲ冬季ニ至リ上部ノ一枝ヲ結果枝トシテ剪定シ下部ノ一枝ハ更ニ二葉ヲ殘シ下部ノ一枝ハ更ニ二葉ヲ殘シ剪定シ翌年之レヨリ又二枝ヲ生ゼシム而シテ上部ノ一枝ハ結果枝トシ下部ノ一枝ハ冬季ニ至リ又二葉ヲ殘シ剪定ス。尙ホ前年結果セシメタル枝ハ冬季基部ヨリ剪除シ毎年之レヲ反覆ス。

第三區ハ最初發育枝上ニ三葉ヲ殘シテ剪定シ之レヨリ生ジタル三枝ヲ冬季ニ至リ上部二枝ハ結果枝トシテ剪定シ下部ノ一枝ハ更ニ三葉ヲ殘シ剪定シ翌年之レヨリ又三枝ヲ發生セシム。而シテ上部ノ二枝ハ結果枝トシ下部ノ一枝ハ冬季ニ至リ又三葉ヲ殘シ剪除ス尙ホ結果セシメタル枝ハ冬季ニ基部ヨリ剪除シ毎年之レヲ反覆ス。

第四區ハ最初發育枝上ニ四葉ヲ殘シ之レヨリ生ジタル四枝ヲ冬季ニ於テ上部三枝ハ結果枝トシテ剪定シ下部ノ一枝ハ更ニ四葉ヲ殘シテ剪定シ翌年之レヨリ又四枝ヲ發生セシム而シテ上部ノ三枝ハ結果枝トシ下部ノ一枝ハ冬季ニ至リテ又四枝ヲ殘シテ剪定ス尙ホ結果セシメタル枝ハ基部ヨリ剪除ス如此毎年之レヲ反覆ス。

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二歩トス。

一、本試験樹栽植距離ハ方十二尺トス。

一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト同様トス。

試験成績

區別	試験別	昭和六年度			以上七ヶ年平均			同上反當		
		個數	重量	枯死ス	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區	標準	二九	四〇・三	三〇	九・三	二二	七・三	二五	一五・九	
第二區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第三區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第四區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第一區	標準	二九	四〇・三	三〇	九・三	二二	七・三	二五	一五・九	
第二區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第三區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第四區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年ト同様第三區ニシテ反當八百九貫九百二十五匁ヲ第一位ニ、第二區反當五百五十四貫五百五匁之レニ次ギ、第三區反當四百七十三貫百匁最モ劣レリ。尙ホ樹勢ヨリ見ル時ハ第四區ハ枝梢多ク發育旺盛ニ過ギ、第二、第三區ハ發育中庸ヲ得タリ。故ニ桃ノ冬季剪定ニ於テハ一結果枝ニ對シテ二、三本ノ豫備枝ヲ設クル事ニ注意シ結果枝ノ枯損ヲ防止スベキナリ。

十六、桃斷根試験

耕種梗概

一、肥料、剪定、摘果、袋掛、病虫害豫防、中耕、除草ハ品種試験ニ準ズ。

試験設計

一、本試験ノ目的ハ左ノ如ク斷根ノ方法ヲ異ニシ其ノ發育結果品質ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ知ラントスルニアリ。
 一、本試験區別、品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	試験別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	標準	傳十郎	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付
第二區	標準	傳十郎	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付
第三區	標準	傳十郎	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付
第四區	標準	傳十郎	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付

一、本試験方法左ノ如シ。

第一區ハ無斷根トス。

第二區ハ落葉後冬季直根ヲ切斷スルモノトス。

第三區ハ冬季側根ヲ、初年ハ樹幹ヨリ一尺離シテ切斷シ、毎年二寸宛延長シテ切斷ス。

第四區ハ冬季中ニ側根ヲ幹ヨリ一尺ニテ切斷シ、直根ハ地表ヨリ九寸乃至一尺ニテ切斷ス。而シテ側根ハ毎年二寸宛延長スルモノトス。

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二歩トス。

一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。

一、本試験成績摘載様式ハ品種試験ト同様トス。

試験成績

區別	試験別	昭和六年度			以上七ヶ年平均			同上反當		
		個數	重量	枯死ス	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區	標準	二九	四〇・三	三〇	九・三	二二	七・三	二五	一五・九	
第二區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第三區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	
第四區	標準	三三	七〇・九	三三	一〇・四	三三	七・三	二四	一五・九	

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ前年全樣第一區ニシテ反當六百七十四貫五百五匁ヲ第一位ニ、第

三區ノ反當五百六十四貫二百二十五匁第二位ニ、第四區ノ反當四百七十八貫九百五十匁最モ劣レリ。
樹勢ヨリ見ル時ハ第一區ハ發育良好ニシテ其ノ他ハ樹勢不良ニシテ經濟的栽培ヲ成スヲ得ズ。即チ本場ノ如キ土質ニ於テハ斷根ハ全ク不必要ナルヲ知ル。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十七、桃石灰加用量試驗

耕種梗概

一、剪定、摘果、袋掛、病虫害豫防、中耕、除草ハ品種試驗ニ準ズ。

試驗設計

一、本試驗ノ目的ハ左記區別ノ如ク石灰ノ用量ヲ異ニシ以テ其ノ適量ヲ知ラントスルニアリ。
一、本試驗區別、供試品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	標準無加用	橘早生	十一年	二本	カンザラアル	大正十一年二年生植付
第二區	三分加用	"	"	"	"	"
第三區	五分加用	"	"	"	"	"
第四區	六分加用	"	"	"	"	"
第五區	八分加用	"	"	"	"	"
第六區	十分加用	"	"	"	"	"

一、本試驗供試樹栽植反別ハ六坪トス。

一、本試驗供試樹栽植距離ハ三尺ノ六尺トス(反當六百本植)。

一、本試驗肥料第一區ハ標準肥料ニシテ、第二區ハ一本當リ石灰十六匁六分、第三區ハ一本當リ三十三匁三分、第四區ハ五十匁、第五區ハ六十六匁、第六區ハ八十三匁ノ割合ニ混ジ施スモノトス。

一、本試驗成績摘載様式ハ品種試驗ニ同様ナリ。

試驗成績

區別	試驗別	十四、十五、二、三、五ノ六年平均		昭和六年度		同上七ケ年平均		同上反當	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量	個數	重量
第一區	標準	三	〇、八九七	三	〇、八四五	三	〇、九七〇	三	二、九一〇
第二區	三分加用	三	〇、七二〇	三	〇、八七五	三	〇、九一五	三	二、七四〇
第三區	五分加用	三	〇、七二〇	三	〇、八七五	三	〇、九一五	三	二、九一〇
第四區	六分加用	三	〇、七二〇	三	〇、八七五	三	〇、九一五	三	二、九一〇
第五區	八分加用	三	〇、七二〇	三	〇、八七五	三	〇、九一五	三	二、九一〇
第六區	十分加用	三	〇、七二〇	三	〇、八七五	三	〇、九一五	三	二、九一〇

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ第一區ノ反當二百九十一貫匁ヲ第一位ニ、第二區ノ反當二百七十四貫五百匁第二位ニ、第五區ノ反當百九十貫二百匁最モ劣レリ。

品質上ヨリ見ル時ハ第三區ノ三十三匁三分區甘酸共ニ有リ最モ良ク、第五區之レニ次ギ、第一區ハ果形大ニシテ外觀ハ優良ナレ共甘酸共ニ少ク纖維ヲ有ス。故ニ本場ノ如キ土質ニ有リテハ反當二十貫前後ノ石灰ヲ施用スルヲ可トスルガ如シ。

十八、枇杷窒素質用試驗

耕種梗概

一、栽植方法ハ徑二尺深サ一尺五寸ノ孔ヲ掘リ孔底中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ周圍ニ施シ少シク表土ヲ投入シ堆肥ト混合シテ稍々淺ク定植ス。

一、剪定トシテ九月下旬ニ密枝及懷枝ヲ剪除スルニ止ム。

一、摘果ハ三月上旬一房果實中ニ發育不良ノモノ約半數摘除シ更ニ五月上旬發育不良ノモノヲ摘除シ一房中二乃至三ノ果實トナシ袋掛ス。

- 一、中耕ハ早春一回行ヒ除草ハ隨時必要ト認メタル時ニ行フ。
- 一、採收ハ完熟ノ時一房宛之レヲ行フ。

試驗設計

- 一、本試驗ノ目的ハ枇杷樹ニ施用スベキ窒素分ハ幾何ノ量ヲ以テ適量トナスヤヲ知ラントスルニアリ。
- 一、本試驗區別、供試品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	標準	千葉一號	高接二年	二本	自然形	大正十一年二年生植付 昭和五年千葉一號接木
第二區	二割増	"	"	"	"	"
第三區	四割増	"	"	"	"	"
第四區	二割減	"	"	"	"	"
第五區	四割減	"	"	"	"	"

- 一、本試驗供試樹栽植反別ハ一畝十歩トス。
- 一、本試驗供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
- 一、本試驗ノ施肥ハ元肥一回、追肥二回トス。元肥ハ十一月中ニ施シ、第一回追肥ハ四月中ニ、第二回追肥ハ果實採收後直ニ施スモノトス。
- 一、其ノ種類數量配合法ハ左ノ如シ。
- 一、枇杷施肥標準反當使用量

樹齡	元肥			一回追肥			二回追肥			含有成分		
	堆肥	木灰	過石	堆肥	木灰	過石	堆肥	木灰	過石	窒素	磷酸	加里
二年	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
三年	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
四年	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
五年	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000

年	堆肥	木灰	過石	硫安	豆粕	木灰	過石	下肥	木灰	過石	窒素	磷酸	加里
六年	155,000	9,850	5,550	1,270	22,370	7,770	3,390	131,570	9,850	5,550	1,500	1,500	1,500
七年	175,000	13,850	7,750	1,990	22,680	10,650	4,590	155,570	13,850	7,750	1,500	1,500	1,500
八年	175,000	13,850	7,750	1,990	22,680	10,650	4,590	155,570	13,850	7,750	1,500	1,500	1,500
九年	175,000	13,850	7,750	1,990	22,680	10,650	4,590	155,570	13,850	7,750	1,500	1,500	1,500

十年以後九年生ト同様

枇杷窒素質用試驗肥料及反當施肥量三年生

區別	元肥			一回追肥			二回追肥			含有成分		
	堆肥	木灰	過石	堆肥	木灰	過石	堆肥	木灰	過石	窒素	磷酸	加里
第一區	70,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
第二區	70,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
第三區	70,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
第四區	70,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000
第五區	70,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000	100,000	3,750	2,150	1,000	1,000	1,000

一、本試驗成績摘載様式ハ左ノ如シ。

番品	枝幹		發開		採探		收量		品質		被除		病備	
	太	長	芽	花	取	上	下	上	大	掛	袋	發	蟲	考
號名	サ	サ	日	日	日	數	數	量	量	期	日	否	害	考
第一	サ	サ	日	日	日	數	數	量 <td>量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td> </td>	量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td>	期	日	否	害	考
第二	サ	サ	日	日	日	數	數	量 <td>量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td> </td>	量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td>	期	日	否	害	考
第三	サ	サ	日	日	日	數	數	量 <td>量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td> </td>	量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td>	期	日	否	害	考
第四	サ	サ	日	日	日	數	數	量 <td>量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td> </td>	量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td>	期	日	否	害	考
第五	サ	サ	日	日	日	數	數	量 <td>量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td> </td>	量 <td>期</td> <td>日</td> <td>否</td> <td>害</td> <td>考</td>	期	日	否	害	考

試驗成績

品種不同ノ爲メ千葉一號枝接セル爲メ發育一樣ナラズ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

十九、枇杷磷酸質用量試験

耕種梗概

- 一、栽植方法、剪定、摘果、袋掛、中耕、除草、採收ハ窒素質加用量試験ニ準ズ。
- 一、本試験ノ目的ハ枇杷樹ニ施用スベキ磷酸分ガ幾何ノ量ヲ以テ適量トナスヤヲ知ラントスルニアリ。
- 一、本試験區別、品種名、樹齡、本數、樹形ハ左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	標準	千葉一號	三年	二本	自然形	大正十一年二月生植付 昭和五年千葉一號枝接ス
第二區	四割増	"	"	"	"	
第三區	二割増	"	"	"	"	
第四區	四割減	"	"	"	"	
第五區	二割減	"	"	"	"	

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二歩トス。

一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二トス。

一、本試験ニ施用スル肥料ノ種類、數量、配合法ハ左ノ如シ。但シ標準區ハ窒素質用量試験ノ標準區ヲ兼用ス。

枇杷磷酸質用量試験肥料反當施肥量三年生 元肥ハ標準肥料元肥ニ全ジ。

區別	試驗別	一回追肥			二回追肥			含有成分		
		豆粕費	木灰費	過石費	下肥費	藥灰費	過石費	窒素	磷酸	加里
第一區	標準	五、五、六、六、四	三、〇、七、四	一、五、〇、三	六、五、七、九	二、三、八、四	一、三、七	一、五、〇	一、五、〇	一、五、〇
第二區	二割増	五、五、六、六、四	三、〇、七、四	一、五、〇、三	六、五、七、九	二、三、八、四	一、三、七	一、五、〇	一、五、〇	一、五、〇
第三區	四割増	五、五、六、六、四	三、〇、七、四	一、五、〇、三	六、五、七、九	二、三、八、四	一、三、七	一、五、〇	一、五、〇	一、五、〇
第四區	二割減	五、五、六、六、四	三、〇、七、四	一、五、〇、三	六、五、七、九	二、三、八、四	一、三、七	一、五、〇	一、五、〇	一、五、〇
第五區	四割減	五、五、六、六、四	三、〇、七、四	一、五、〇、三	六、五、七、九	二、三、八、四	一、三、七	一、五、〇	一、五、〇	一、五、〇

一、本試験成績摘載様式ハ窒素質加用量試験ト同様トス。

試験成績

品種不同ノ爲メ千葉一號ヲ枝接セル爲メ發育一樣ナラズ、尙ホ引續キ行ハントス。

二十、枇杷加里質用量試験

耕種梗概

- 一、栽植方法、剪定、摘果、袋掛、中耕、除草、收穫ハ窒素質加用量試験ニ準ズ。

試験設計

- 一、本試験ノ目的ハ枇杷樹ニ施用スル加里分ハ幾何ノ量ヲ以テ適量トナスヤヲ知ラントスルニアリ。
- 一、試験區別、供試樹品種名、樹齡、本數、樹形ハ左ノ如シ。

區別	試驗別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	標準	千葉一號	三年	二本	自然形	大正十一年二月生定植 昭和五年千葉一號枝接ス
第二區	四割増	"	"	"	"	
第三區	二割増	"	"	"	"	
第四區	四割減	"	"	"	"	
第五區	二割減	"	"	"	"	

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二歩トス。

一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二トス。

一、本試験ニ施用スル肥料種類數量ハ左ノ如シ。

但シ第一區標準ハ窒素質用量試験ノ標準區ニ全様トス。

枇杷加里質用量試験反當施肥量（元肥ハ標準區ノ元肥ト全様トス）。

區別	試驗別	一回追肥			二回追肥			含有成分		
		豆粕貫	藁灰貫	過石貫	下肥貫	藁灰貫	過石貫	窒素	磷酸	加里
第一區	標割増	五、六一四	三、六一四	一、三六	六、四二一	六、一八九	一、八五三	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇
第二區	四割増	五、六一四	四、九〇三	一、三六	六、四二一	六、一八九	一、八五三	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇
第三區	四割減	五、六一四	二、一八六	一、三六	六、四二一	六、一八九	一、八五三	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇
第四區	四割減	五、六一四	一、二八〇	一、三六	六、四二一	六、一八九	一、八五三	一、五〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇

一、本試験成績摘載様式ハ窒素質用量試験ト全様トス。

試験成績

品種不動ノ爲メ千葉一號ヲ枝接セル爲メ發育一樣ナラズ、尙ホ引續キ行ハントス。

二十一、梅品種試験

耕種梗概

一、栽植方法ハ徑二尺深サ一尺五寸ノ孔ヲ穿チ孔底中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ周圍ニ施シ少シク表土ヲ投入シ堆肥ト混合シテ其ノ上ニ稍々淺ク定植ス。
 二、施肥ハ元肥一回追肥二回トス。元肥ハ二月中ニ行ヒ、第一回ノ追肥ハ五月上旬、第二回追肥ハ果實採收後直ニ行フ。其ノ種類數量配合法左ノ如シ。

樹令	堆肥貫	木灰貫	過石貫	硫安貫	一回追肥			二回追肥			含有成分			
					豆粕貫	木灰貫	過石貫	下肥貫	木灰貫	過石貫	窒素貫	磷酸貫	加里貫	
二年	一、八〇〇	〇、一〇〇	〇、一〇一	〇、七九四	一、七三三	一、三二六	〇、四四四	一〇、一七五	〇、七〇一	〇、七〇一	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇
三年	一、一〇〇	〇、五五二	〇、五五二	〇、五五二	一、三二六	一、〇七三	〇、五五二	一〇、一七五	〇、七〇一	〇、七〇一	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇
四年	一、一〇〇	〇、五五二	〇、五五二	〇、五五二	一、三二六	一、〇七三	〇、五五二	一〇、一七五	〇、七〇一	〇、七〇一	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇
五年	一、一〇〇	〇、五五二	〇、五五二	〇、五五二	一、三二六	一、〇七三	〇、五五二	一〇、一七五	〇、七〇一	〇、七〇一	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇
六年	一、一〇〇	〇、五五二	〇、五五二	〇、五五二	一、三二六	一、〇七三	〇、五五二	一〇、一七五	〇、七〇一	〇、七〇一	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇	〇、七〇〇

樹令	堆肥貫	木灰貫	過石貫	硫安貫	豆粕貫	木灰貫	過石貫	下肥貫	木灰貫	過石貫	窒素貫	磷酸貫	加里貫
七年	九、〇〇〇	一、一六六	〇、五五二	一、〇〇〇	六、一八三	一、三二六	二、五八一	七、二四六	一、三二六	一、三二六	一、六六四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
八年	一〇、〇〇〇	一、一六六	〇、五五二	一、〇〇〇	六、一八三	一、三二六	二、五八一	七、二四六	一、三二六	一、三二六	一、六六四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
九年	一〇、〇〇〇	一、一六六	〇、五五二	一、〇〇〇	六、一八三	一、三二六	二、五八一	七、二四六	一、三二六	一、三二六	一、六六四	一、〇〇〇	一、〇〇〇
十年	一〇、〇〇〇	一、一六六	〇、五五二	一、〇〇〇	六、一八三	一、三二六	二、五八一	七、二四六	一、三二六	一、三二六	一、六六四	一、〇〇〇	一、〇〇〇

- 一、剪定ハ冬季剪定一回、夏季剪定ヲ二回、行フモノトス。
- 一、藥劑撒布ハ三月上旬石灰硫黃合劑ホーメ比重三乃至四度ノモノヲ用フ。
- 一、中耕ハ早春一回淺ク行フ除草ハ隨時必要ニ應ジ行フモノトス。
- 一、採收ハ完熟少シク前ニ行フモノトス。

試験設計

一、本試験ノ目的ハ左記品種ヲ蒐集栽培シ其ノ發育ノ狀況收量ノ多寡及ビ品質ノ良否ヲ驗知シ以テ縣下ニ適スル良品種ヲ撰出セントスルニアリ。

一、本試験區別、品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	試驗品種名	樹令	本數	樹形	備考
第一區	花白加實	十一年	二本	盆狀形	大正十一年二年生植付
第二區	太豐後實	七	〃	〃	〃
第三區	養老梅	〃	〃	〃	〃
第四區	紅梅	〃	〃	〃	〃
第五區	小紅梅	〃	〃	〃	〃
第六區	長加實	〃	〃	〃	〃
第七區	吉野加實	〃	〃	〃	〃
第八區	林耶兵衛州	〃	〃	〃	〃

- 一、本試驗供試樹栽植反別ハ二畝歩トス。
- 一、本試驗供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
- 一、本試驗成績摘載様式ハ次ノ如シ。

品名	番	開花	開滿	發芽	採收	收量		品質	落葉		發病	備考
						總量	最大		始	終		
日	日	日	日	日	日	數	量	量	メ	リ	否	要
月	月	月	月	月	月	量	重	重			良	大
日	日	日	日	日	日	量	重	重			育	害
日	日	日	日	日	日	量	重	重			發	備

試驗成績

以上ノ成績ニ依ル時ハ收量最モ多キハ花香實ノ反當二百二十八貫百五十匁ニシテ、第二位ハ第二區白加賀種ノ反當百四十一貫三百匁ナリ。尙ホ品質ヨリ見ル時ハ白加賀最モ優良ニシテ果形整一ニシテ外皮ニ斑點ナク、肉質厚ク大サモ中等ナリ。花香實ハ果形稍々整一ナルモ外皮ニ褐斑多ク外觀不良ナリ。養老ハ果稍々大ニシテ褐斑多ク外觀極メテ不良ニ、豊後、太平ハ果實過大ニ失シ外皮極メテ褐斑多ク外觀不良ナリ。尙ホ紅サシ、小梅、紅加賀、長東、陰居、吉郎兵衛、林州ハ紋羽病ノ被害ヲ受ケ發育極メテ不良ナリ。

二十二、柿品種試驗

耕種梗概

- 一、栽植方法ハ徑二尺(但シ五年生)深サ一尺五寸ノ孔ヲ穿チ孔底ノ中央ヲ稍々凸形トシ堆肥ヲ施シ少シク

表土ヲ投入シ堆肥ト混合シテ稍々淺ク定植ス。十五年生ハ徑五尺深サ二尺ノ孔ヲ穿チ、其ノ他ノ方法ハ五年生ニ準ズ。

- 一、施肥ハ元肥一回追肥二回トス。元肥ハ二月中ニ行ヒ、第一回追肥ハ七月上旬ヨリ八月上旬迄ニ行ヒ、第二回追肥ハ十月ニ行フモノトス。其ノ種類數量ハ左ノ如シ。

樹齡	元肥					一回追肥					二回追肥					含有成分		
	堆肥	木灰	過石	硫安	豆粕	木灰	過石	下肥	木灰	過石	窒素	磷酸	加里	窒素	磷酸	加里		
二年生	18,000	0,100	0,101	0,889	1,711	2,216	0,444	2,011	0,550	0,705	0,450	0,450	0,450	0,450	0,450	0,450		
三年生	10,000	0,551	0,203	0,790	3,244	3,047	0,569	2,636	0,721	1,068	0,600	0,600	0,600	0,600	0,600	0,600		
四年生	5,000	0,555	0,564	0,590	3,368	4,972	0,872	3,943	1,229	1,573	0,900	0,900	0,900	0,900	0,900	0,900		
五年生	8,000	1,061	0,640	0,911	4,491	9,841	1,813	5,303	3,225	4,728	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500		
六年生	10,000	1,596	0,553	0,700	5,615	11,910	2,581	6,556	3,676	5,479	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000		
七年生	11,000	1,192	0,553	0,700	6,739	13,034	2,994	7,736	4,190	6,102	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500		
八年生	11,000	1,192	0,553	0,700	7,863	14,158	3,407	8,860	4,603	6,615	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000		
九年生	110,000	2,000	0,856	0,972	8,987	17,282	3,820	9,978	5,018	7,132	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500		

- 一、剪定ハ二月中ニ行フモノトス。

- 一、摘果ハ多數結果セル枝ニ行フコトアルモ普通行ハズ、袋掛ハ果實ノ直徑五分ノ時行フモノトス。
- 一、藥劑撒布ハ三月上旬石灰硫黃合劑ボーメ比重四度乃至三度ノモノヲ使用ス。
- 一、中耕ハ早春一回淺ク行ヒ除草ハ隨時必要ニ應ジ行フモノトス。

試驗設計

- 一、各地ニ於テ優良ト認メラル、左記品種ヲ蒐集シ以テ本場ノ如キ風土ニ於テ栽培容易ニ收量多ク品質優良ナル品種ヲ撰出セントスルニアリ。
- 一、本試驗供試品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

區別	品種名	樹齡	本數	樹形	備考
第一區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第二區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第三區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第四區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第五區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第六區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第七區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第八區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第九區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十一區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十二區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十三區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十四區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十五區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十六區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十七區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十八區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第十九區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付
第二十區	丸饅頭	十二年	二本	盃狀形	大正十一年九生植付

一、本試驗供試樹栽植反別ハ四畝トス。
 一、本試驗供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
 一、本試驗成績摘載様式ハ次ノ如シ。

品名	種名	香	枝幹	發芽	開花	開滿	採收	收穫量	品質	備考
名	種	香	枝	發	開	開	採	數	質	考
號			太	月	日	日	日	量	期	
サ			長	日	月	日	月	重	掛	
サ				日	日	日	日	果	袋	
				日	日	日	日	重	除	
				日	日	日	日	大	始	
				日	日	日	日	果	終	
				日	日	日	日	重	落	
				日	日	日	日	大	葉	
				日	日	日	日	果	發	
				日	日	日	日	重	芽	
				日	日	日	日	大	病	
				日	日	日	日	果	備	
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日	日	日	重		
				日	日	日	日	大		
				日	日	日	日	果		
				日	日					

第 第 第 第 第	四 三 二 一	區 區 區 區	米桃 田植桃 甘饅頭	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	昭和六年枯死ス
-----------	---------	---------	------------------	---------	---------	---------	---------

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝十八歩トス。
 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
 一、本試験成績摘載様式ハ梅ニ準ス。

試験成績

本年度成績モ前年ト大差ナク發育旺盛ナルハ丸饅頭種ニシテ米桃種最モ不良ナリ。何レモ未ダ結果スルニ至ラズ。尙ホ引續キ之レヲ行ハントス。

栗特性調査

耕種梗概

一、栽植方法、病虫害豫防、中耕、除草ハ柿特性調査ニ準ズ。

試験設計

一、左記品種ニツキ之レガ特性ヲ調査セントス。
 一、本試験供試品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

第 第 第 第 第	七 六 五 四 三 二 一	區 區 區 區 區 區 區	今北 豊多摩早生 銀寄 岸根 霜降 長兵衛 長兵衛 長兵衛	十年 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	二本 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	自然形 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃	備考 大正十一年二年生植付 大正十一年九年生植付
-----------	---------------	---------------	--	---------------------	---------------------	----------------------	--------------------------------

一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝二十六歩トス。
 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
 一、本試験成績摘載様式ハ柿特性調査ヨリ袋掛ヲ除キタルモノトス。

試験成績

本年度ニ於ケル成績ヲ其ノ收量ノ點ヨリ見ル時ハ最モ多キハ長兵衛種ノ反當百九十五貫三百匁ヲ第一位ニ銀寄種ノ反當百三十九貫八百匁之レニ亞ギ、霜降種ノ百二十二貫七百七十五匁第三位ナリ。尙ホ樹勢上ヨリ見ル時ハ今北、岸根最モ旺盛ニ徒長的發育ヲナシ、豊多摩早生最モ旺盛ナラズ。品質上ヨリ見ル時ハ銀寄、豊多摩早生、岸根種ハ粉狀ニシテ甘味強ク、長興寺、長兵衛種ハ果皮裂開シ易ク肉質ハ粉狀ヲナサズ。甘味弱ク品質優良ナラズ。熟期ハ豊多摩早生最モ早ク八月下旬ニ熟シ、銀寄、岸根、霜降ノ順ニシテ長兵衛、長興寺最モ晩ク十一月月上旬ニ至ル。

耕種梗概

一、栽植方法、肥料、病虫害豫防、剪定、採收ハ桃品種試験ニ準ズ。

試験設計

一、左記品種ニ付之レガ特性ヲ調査セントス。
 一、本試験供試區別、品種名、樹齡、本數、樹形左ノ如シ。

第 第 第 第 第	五 四 三 二 一	區 區 區 區 區	ホワイセノア ブラウンターキー セレスト ウイオレット カリホルニア ニアンブラック	七年 〃 〃 〃 〃 〃	三本 一本 一本 一本 二本	盆形状 〃 〃 〃 〃 〃	備考 大正十五年二年生植付 斑羽病ノ爲ニ枯死ス
-----------	-----------	-----------	---	-----------------	----------------------------	------------------	-------------------------------

- 一、本試験供試樹栽植反別ハ一畝八歩トス。
- 一、本試験供試樹栽植距離ハ方十二尺トス。
- 一、本試験成績摘載様式ハ左ノ如シ。

品名	種名	番号	枝幹	發芽	開花	夏果收穫	秋果收穫	個數	重量	品質	發育	病蟲害	備考
			太長	日	日	日	日				否		
				月	月	月	月	數	量	質	良	害	考

特性成績

何レモ徒長のニ發育ヲナシ冬季先端枯死シ、結果極メテ不同ニ且ツ秋、冬降霜ノ爲ニ成熟スルニ至ラザルモノ多ク成績ヲ見ルニ至ラズ。

第三、花 卉

一、花卉經濟試驗

耕種梗概

- 一、栽植畦幅二尺ニシテ一條植トス。第七區及ビ十區ハ畦幅三尺株間二尺五寸トス。
- 一、肥料ハ栽植ノ際一坪ニ對シ油粕二升、堆肥三貫ノ割合ヲ以テ植溝内ニ投入シ底土ト混合シ更ニ其ノ上ニ

土ヲ入レ然ル後苗ノ根ガ肥料ニ接觸セザル様植込ム。
 第一回追肥ハ春期發芽ニ際シ坪當リ人糞尿一貫目、過燐酸石灰二十匁ヲ、第二回ハ凋花ノ際同量ノ肥料ヲ約五倍ノ水ニ稀薄シテ施ス。
 一、中耕除草ハ隨時行フモノトス。

試驗設計
 一、本試験ノ目的ハ經濟上有望ト認ムル左記品種ヲ栽培シ本場ノ如キ土質ニ於テ何レノ品種ガ經濟上最モ有利ナルヤヲ驗知シ、以テ將來大イニ發達セントスル花卉栽培業者ノ資料タラシメントスルニアリ。
 一、本試験供試品種左ノ如シ。

區別	品種名	區別	品種名
十七四一 區區區區	水ノ井トヒ スノコギリ草 ダリア	十八五二 一區區區區	シュツケシヤ ハマーギク ハマーギク
		十九六三 二區區區區	矢車草 シヤスターデージ グラデオラス コハマーギク

一、本試験成績摘載様式ハ左ノ如シ。

試驗成績

區別	品種名	自大正十二年 至昭和五年八ヶ年平均		昭和六年度		以上九ヶ年平均	
		單價 錢	反當收量 本	同上收入 錢	單價 錢	反當收量 本	同上收入 錢
一	水仙	〇・一〇	七五、九三五	一四四、七三	〇・〇四	一六、三〇〇	一三六、五五
二	水車	〇・〇九	三四、八九六	二二、五五	〇・〇二	三九、一〇〇	一六、二七
三	矢野	〇・〇九	八八、七三九	二一、五三	〇・〇二	七四、一〇〇	一八、七九
四	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
五	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
六	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
七	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
八	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
九	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
十	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八
十一	ジャマン	〇・〇五	一〇五、六四九	二二、〇〇	〇・〇二	一〇三、〇〇〇	二一、〇八

備考 單價ハ盛花期單價トス。

耕種梗概

一、栽植方法ハ幅二尺深サ一尺ノ植孔ヲ掘リ孔底ニ堆肥ト土トヲ混合シタルモノヲ七寸位ノ厚サトシ更ニ土ヲ投入シ地表ヨリ五寸内外高ク床ヲ作り砧木ノ上端地表ヨリ一寸位ヒ地中ニ有ル様定植ス株間ハ二尺トス

二、施肥ハ一年三回ニ施シ、一本ニ對スル施肥期及種類數量ハ左ノ如シ。

施肥期	肥料名	數量	備考
三月下旬	下過磷酸石灰	六六〇	開花ノ多キ時ニハ之レ以外ニ下肥並過石等ヲ適宜施ス事有リ
五月中旬	堆肥	一六〇	
五月中旬	木灰	五三〇	
九月上旬	油粕	五三〇	

一、冬季剪定時期ハ二月下旬トス。

二、手入レハ夏季發芽シ新稍伸長スルニ從ヒ女竹ノ支柱ニ之レヲ誘引シ花梗抽出スル時ハ中央ノ大ナル蕾ヲ殘シ他ハ摘除ス。而シテ凋花後ハ花梗ヲ剪斷ス。

三、病虫害防除トシテハ随時除虫菊加用石鹼合劑及ビ三斗式ボルドウ液ノ撒布ヲ行フ。

四、冬季降霜嚴シキ時ニ霜除ヲナシ又地表ニ覆蓋ヲナスモノトス。

試驗設計

一、目的 本場ノ如キ氣候土質ニ於テハ左記品種中何レガ最モ栽培容易ニ品質良好ナルヤヲ知ラントスルニアリ。

二、試驗品種樹齡左ノ如シ。

區別	品種名	樹齡	區別	品種名	樹齡
一	天二	九年	一	赤城	九年
二	不登	九年	二	日ノ	九年
三	新登	九年	三	ルノ	九年
四	フラン	九年	四	フオン	九年
五	ラン	九年	五	マ	九年
六	ク	九年	六	シ	九年
七	リン	九年	七	ヤ	九年
八	デン	九年	八	ル	九年
九	ス	九年	九	フ	九年
十		九年	十	オン	九年
十一		九年	十一	マ	九年
十二		九年	十二	シ	九年
十三		九年	十三	ヤ	九年
十四		九年	十四	ル	九年
十五		九年	十五	フ	九年
十六		九年	十六	オン	九年
十七		九年	十七	マ	九年
十八		九年	十八	シ	九年
十九		九年	十九	ヤ	九年
二十		九年	二十	ル	九年
二十一		九年	二十一	フ	九年
二十二		九年	二十二	オン	九年
二十三		九年	二十三	マ	九年
二十四		九年	二十四	シ	九年
二十五		九年	二十五	ヤ	九年
二十六		九年	二十六	ル	九年
二十七		九年	二十七	フ	九年
二十八		九年	二十八	オン	九年
二十九		九年	二十九	マ	九年
三十		九年	三十	シ	九年
三十一		九年	三十一	ヤ	九年
三十二		九年	三十二	ル	九年
三十三		九年	三十三	フ	九年
三十四		九年	三十四	オン	九年
三十五		九年	三十五	マ	九年
三十六		九年	三十六	シ	九年
三十七		九年	三十七	ヤ	九年
三十八		九年	三十八	ル	九年
三十九		九年	三十九	フ	九年
四十		九年	四十	オン	九年
四十一		九年	四十一	マ	九年
四十二		九年	四十二	シ	九年
四十三		九年	四十三	ヤ	九年
四十四		九年	四十四	ル	九年
四十五		九年	四十五	フ	九年
四十六		九年	四十六	オン	九年
四十七		九年	四十七	マ	九年
四十八		九年	四十八	シ	九年
四十九		九年	四十九	ヤ	九年
五十		九年	五十	ル	九年

試験成績

イ、成績最モ優良ノモノ(十花以上)

雪燈籠、階白髪、八重櫻、天ノ川、百花撰、銀月、醉顔、小町白、銅雲、日ノ丸、扶桑白、御所櫻、豊代立田川、白雲閣

ロ、成績優良ナルモノ(五花以上十花以下)

日本紅、白雁、御國ノ譽、霓裳羽衣、西行櫻、玉霰、初日ノ出、初鳥、嵐山、八千代獅子、濃神樂、還城樂、大正錦、宮神樂

ハ、最モ不良ナルモノ(五花以下)

阿房宮、帝錦、熊谷、朱金光、日月錦、月ノ影、神樂獅子、紫雲、月宮殿

四、ガラチオラス植込時期試験

耕種概観

一、植込方法ハ深サ九寸畦幅二尺ニ作條ヲ作り之レニ堆肥一區當リ三貫油粕一升ノ割合ヲ以テ混シタルモノヲ作孔ニ投入シ更ニ土ト混合シ其ノ上ニ土二寸ヲ覆ヒ然ル後株間五寸ニ球ヲ植込ス。...

一、其ノ他ノ手入レトシテハ夏季乾燥ニ失スル時敷藁ヲナシ凋花後ハ花梗ヲ切り去リ秋季莖葉ノ半バ黄變スル時球根ヲ掘リ上ダルモノトス。...

一、目的、本試験ノ目的ハ植込時期ヲ異ニシテ之レガ開花ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリ。
一、本試験區別植込月日、品種名、供試個數左ノ如シ。

Table with columns: 區別, 植込月日, 品種名, 形, 坪數. Rows include experimental areas 1-4 with details like 'ペンクビニーター' and '六〇球'.

一、供試反別ハ七坪六合トス。
一、本試験成績記載様式ハ左ノ如シ。

Table with columns: 試験, 開花, 植込, 掘上, 備考. Rows show dates and weights for different experimental groups.

試験成績

Summary table with columns: 區別, 試験期, 植込重量, 開花月日, 掘上重量, 備考. Rows 1-4 show average weights and flowering dates for each area.

備考 植込球數ハ各區共六十球宛ニシテ四月一日ニ於ケル重量ハ同一トナス。

試驗成績
 グラデオラスハ其ノ植込期ヲ異ニスル時ハ開花期ヲ異ナラシムルモ以上ノ如ク開花本數ニ差ヲ來スモノナ
 リト雖モ市價ノ如何ニヨリ反ツテ多額ノ収入ヲ得ル事アルベク開花本數モ充分充實セル球ヲ用フル時ハ全
 部開花スルニ至ルベシ。

第四、特用作物

一、茶樹仕立法試驗

耕種梗概

- 一、播種ハ二月下旬苗床ニ撒播發芽シタルモノヲ移植ス。
 - 一、栽植方法ハ深サ一尺ニ植孔ヲ掘リ堆肥ヲ入レ土壤ト混合シ置キ直根ハ垂直ニ下向セシムル様栽植ノ後充
分灌水ヲナス。
 - 一、肥料ハ冬季堆肥反當二百貫ノ割合ヲ以テ追肥トシテ五月中旬並ニ八月中旬ノ二回ニ反當人糞尿百五十貫
過燐酸石灰六貫ヲ分施ス。
 - 一、盛夏乾燥ニ過グル時及ビ冬期霜柱ノ立ツ時ハ之レ等ヲ防止スル目的ヲ以テ敷藁ヲ行フモノトス。
- 試驗設計
 一、目的茶樹發育ノ最モ優良ナル仕立法ヲ知ラントス。
 一、本試驗區別品種名樹齡左ノ如シ。

第 區	別 試	驗 種	別 品	種 名	樹 齡
第一	區	輪植法	在來種	八年	
第二	區	二條互目法			

第三區 區 一 株一本植法
 第四區 區 一 條植法

一、本試驗植付法左ノ如シ
 第一區ハ直徑一尺二寸ノ圓ヲ畫キ其ノ圓周圍上ニ十二本植付ケタリ。
 第二區ハ畦幅一尺ノ二條畦ヲ作り株間一尺互ノ目ニ二本宛植付ケタリ。
 第三區ハ直徑五寸ニ圓ヲ畫キ中心ニ二本圓周上ニ四ヶ所八本植付ケタリ。
 第四區ハ一線上ニ株間五寸ヲ取り一ヶ所ニ一本宛植付ケタリ。
 一、本試驗供試反別ハ第一區第三區ハ六坪二合第二區第四區ハ十坪三合トス。
 一、本試驗成績記載様式ハ左ノ如シ。

試 驗	發 盛	芽 花	ノ	ノ	ノ	一回摘葉		二回摘葉		總	發 育
						日 量	月 重	日 量	月 重		
別 日	月 日	少 多	大 小	深 淺	日 量	月 重	日 量	月 重	量 重	否 良	

試驗成績

第 區	第 別	第 試	第 驗	第 別	昭和二年、三、四、五ノ四年平均反當		昭和六年		茶 中 茶 反 當	
					生葉重量	茶 中 茶 粉 茶 當	生葉重量	茶 中 茶 粉 茶 當	生葉重量	茶 中 茶 粉 茶 當
第一	區	輪植法	一條十本植法	區	四八、四〇〇	六三、五五	一六一、六一六	三三、五五五	一、八〇八	五、七七一
第二	區	二條互目法	一條十本植法	區	八五、〇〇三	八二、六六八	一八〇、四三五	二七、〇九五	一、九七九	五、八六六
第三	區	一條十本植法	一條十本植法	區	八四、八八五	九、五〇三	一九二、四八三	二七、五〇三	一、八八三	五、八六六
第四	區	一條十本植法	一條十本植法	區	五六、四九八	八、四九八	一五五、五六四	三三、〇〇〇	一、六〇〇	五、〇〇〇

區	別	試驗	別	昭和三十四、三十五、三十六年	昭和三十七、三十八年	昭和三十九、四十、四十一、四十二年	昭和三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二年
第一區	輪植法	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十	茶中茶粉茶

以上ノ成績ニ依ル時ハ第三區收量最モ多ク之レ即チ未ダ樹形充分ナラザル爲メ栽植本數ノ多キ第三區好成績ヲ示シタルモノト認ム。

二、苜蓿肥料試驗

耕種梗概

- 一、栽植方法ハ畦幅株間共ニ六寸トナス。
- 一、施肥方法ハ整地ニ際シ反當堆肥三百貫ヲ土地全面ニ撒布シ後之レヲ鋤キ込ミ植付ノ時畦間六寸ノ作條ヲ作り之レニ左記ノ肥料ヲ施シ覆土シ其ノ上ニ苗ヲ併置ス而シテ後覆土シ根ハ肥料ト直接相接セザル様ニス。
- 一、中耕及ビ除草ハ植付後三回之レヲ行フ。

區	別	窒素	素燐	質酸	加里	食鹽	質石	質灰
第一區
第二區

區	別	窒素	素燐	質酸	加里	食鹽	質石	質灰
第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
第六區
第七區

以上ノ肥料ハ硫酸アンモニア、過燐酸石灰、硫酸加里ヲ使用セリ。

一、本試驗成績摘載様式ハ左ノ如シ。

區	植	發	刈	割	同	色	備
日	月	芽	取	重	重	澤	考
...

試驗成績

區	別	目大正十四年至昭和五年六ヶ年平均	昭和三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二年
第一區
第二區
第三區
第四區
第五區
第六區
第七區

區別	以上七年平均				備考
	生重量	生割重量	乾燥重量	割ラザル重量	
第一區	九六五、五七八	六八、四三〇	九、九七五	四四七、四五二	三尺五寸以下ノ長サノモノハ割ラズシテ乾燥セリ 昭和六年度ハ各區共三尺五寸以上ニ成長セズ
第二區	九三三、四九九	六三、三三一	九、六〇五	四四三、八六〇	
第三區	八九四、五三三	五五、五四三	八、五四五	四三二、七〇七	
第四區	三二八、一四四	六四、五三一	一〇、一三三	四五八、八八一	
第五區	九四八、五三三	六三、六〇四	八、八九三	四七〇、〇九四	
第六區	九四一、六七八	六〇、七四三	八、六四四	四九一、八〇〇	
第七區	一、〇四、八七七	六八、五六五	一〇、九四五	四〇〇、五五五	
第八區	八一〇、〇六八	六一、五三四	九、四四六	三四三、〇三八	
					六〇、四九六

苧苳栽培ハ之レヲ割リ乾燥シタル物ノ多収ヲ望ムモノナレバ以上ノ成績ヨリ考察スレバ第七區最モ收量多ク第四區之レニ亞ギ第三區最モ劣レリ。
尙ホ本年ノ如ク夏季發育中ニ乾燥甚シキ年ハ發育極メテ不良ナルヲ知ルベク三四年以上ノ連作ハ其ノ發育ニ極メテ不良ナルガ如シ。

三、苧苳肥料試驗

耕種梗概

一、栽植方法

栽植方法ハ畦幅二尺ニ植溝ヲ作り元肥ヲ下ニ敷込ミ覆土シテ苗ヲ一ヶ所ニ二本栽植込ミ株間ハ一尺トシ覆土ハ一寸トス。

一、肥料

初年ニ於テ基肥二五〇貫乾鱈一五貫ヲ施シ追肥トシテ六月上旬稀薄下肥二〇〇貫ヲ施シ第二回收穫後直チニ堆肥五〇〇貫剥皮ノ屑ヲ一様ニ撒布ス第二年以後ハ基肥トシテ乾鱈二五貫施シ追肥ニ下肥一五〇貫ヲ九月上旬第三回收穫後剥皮屑ヲ施スモノトス。

一、管理

發芽後四五寸ニ伸長シタル時ニ一回萌芽ヲ刈リ取り隨時必要ト認メタル時ニ行フ。

試驗設計

一、目的 苧苳栽培ニ必要ナル肥料三要素ヲ驗知セントス。

一、本試驗區別左ノ如シ。

一、標準區(栃木縣立農事試驗場標準)

二、窒素多量區(標準區ヨリ反當二貫々増シ)

三、磷酸多量區

四、加里多量區

一、本試驗供試反別ハ一區三坪ニシテ二區制トス。

一、試驗方法

區別	標準	試驗	區別
第一區	標準 (耕種梗概ノ如シ)	標準	第一區
第二區	反當二貫々ノ窒素ヲ增加ス。	反當二貫々ノ窒素ヲ增加ス。	第二區
第三區	反當二貫々ノ磷酸ヲ增加ス。	反當二貫々ノ磷酸ヲ增加ス。	第三區
第四區	反當二貫々ノ加里ヲ增加ス。	反當二貫々ノ加里ヲ增加ス。	第四區

以上何レモ追肥トシテ水ニ溶解稀釋シテ施ス。

一、本試驗成績摘要式ハ左ノ如シ。

別	區		發芽	發枯	發育	刈取月日	同上重量	全重	第二回後草丈	生皮重量	乾皮重量	屑重	生乾	生乾	品質	花開	栽培	晴	
	日	月																	
回	一	第	回	二	第	回	一	二	量	重	量	重	量	重	皮合	皮生	草皮	勞	
回	二	第	回	一	第	回	二	量	重	量	重	量	重	皮合	皮生	草皮	勞	間	
回	一	第	回	二	第	回	一	二	量	重	量	重	量	重	皮合	皮生	草皮	勞	間
回	二	第	回	一	第	回	二	量	重	量	重	量	重	皮合	皮生	草皮	勞	間	

一、肥料

反	當	腐熟堆肥	乾燥肥	下追肥	堆肥	室成	窒素	燐	酸	加	分	里	初	年	以後
二	年	以	後	年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六

試驗成績

區	別	生草重量	同生皮重量	同乾皮重量	同屑重量	生草重量	同生皮重量	同乾皮重量	同屑重量
第一	區	一六六、五六七	一一、四九三	五二、三九三	一四三、六六四	二九四、八〇三	九六、三〇〇	二九、八二六	二六〇、二二九
第二	區	一六八、八五四	一八、五二二	五九、二二八	一四三、四一三	二九二、三三九	九六、六八八	二八、三三四	二六三、五六四
第三	區	一五八、七六九	一九、〇三三	五三、〇七三	一二七、四四九	二七三、四四九	八九、五七一	二八、三三一	二四四、五六一
第四	區	一五四、九九四	一八、九四五	四八、六四五	一二二、六四七	二二七、六四七	九三、八六六	三三、九七〇	二四三、五七八

區	別	生草重量	同生皮重量	同乾皮重量	同屑重量	生草重量	同生皮重量	同乾皮重量	同屑重量
第一	區	五〇、三二〇	九三、六三〇	二八、三二一	四五六、八二二	一八四、二二二	八九、九四〇	五八、〇三二	一六六、九四一
第二	區	五〇、二〇五	九四、八四七	二八、四六六	四〇〇、〇〇三	一八〇、三三〇	九一、五三五	五六、八〇〇	一六三、五三六
第三	區	六〇、〇〇〇	八八、八九〇	二六、九四九	五三六、一九九	一九三、一七七	八二、八三四	六一、九六四	一七四、九四七
第四	區	六〇、〇〇〇	八八、八九〇	二六、九四九	五三六、一九九	一九三、一七七	八二、八三四	六一、九六四	一七四、九四七

以上ノ成績ニ依ル時ハ第二區窒素多量區ノ乾皮重量五十五貫五百三十六匁區第一位ヲ占メ標準肥料ヨリモ尚ホ多量ノ窒素肥料ノ施用ヲ必要トスルモノ、如シ。

第五、品種改良

- 一、蔬菜ニ關スル試驗
 - (1) 耕種 概略 三月五日 移植 五月 定植距離 畦幅五尺、株間二尺、反當一、〇八〇株

一、肥料 元肥 堆肥三〇〇貫、魚肥三〇貫、油粕一〇貫、過石五貫、藁灰一〇貫
 追肥 油粕一〇貫、下肥一五〇貫、過石五貫、硫加一〇貫、硫安二貫

二、施肥法 元肥ハ定植三十日前、追肥ハ定植後直チニ施ス。
 一、整枝 枝ノ母蔓ニ本立ニ番類一葉摘心。
 一、病虫害防除 三斗式ボルドウ液四回撒布(硫酸ニコチン加用)
 一、媒助 開花前雌雄花共ニ袋掛ケヲ爲シ、開花後媒助シ直チニ其ノ袋ヲ掛ケルモノトス。

(2) 試験方法

一、一區面積 二〇坪
 一、一區株數 七十二株
 系統數 一〇系統

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ系統ノ淘汰ヲ施行シ左記一〇系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 二A六一四—一四 (二) 二A八一二〇—二一 (三) 二A八一二〇—一四
- (四) 六B二一一—二六—三五 (五) 品比三號 (六) 品比四號 (七) 品比五號
- (八) 品比六號 (九) 品比七號 (十) 六F三一—五—八

(i) 耕種梗概

一、播種期 三月十日
 一、移植回数 三回

一、栽培距離 畦幅三尺〇貫株間一尺五寸一貫 反當二、四〇〇株 畝積四貫三〇〇 畝里計貫四〇〇

二、肥料 元肥 堆肥五〇〇貫、魚肥三〇貫、大豆粕三〇貫、過石二〇貫、藁灰一五貫、硫加二〇貫、
 追肥 硫安五貫

(1) 施肥法

一、施肥法 元肥ハ定植三十日前追肥ハ輪肥トシテ定植ノ時々、其ノ后三四日ヲ經テ之ヲ施スモノトス。
 一、病虫害防除 三斗式ボルドウ五〇〇倍硫酸ニコチン加用八回撒布。

(2) 試験方法

一、一區面積 五坪
 一、一區株數 四十株
 一、媒助 開花前、袋掛ケヲ行ヒ開花スレバ媒助(同株媒助)ヲ爲シ、又袋掛ケヲ爲スモノトス。

(3) 試験成績

- 前年度ニ引續キ系統ノ淘汰ヲ施行シ左記九系統ヲ撰拔セリ。
- (一) 一九一三八—三四—五 (二) 一八一三三—三六—三二 (三) 一八一三三—三一—二一
 - (四) 一八一三三—三一—二四 (五) 一八一三三—三一—三一 (六) 千A三一—一七—二七—三九—三一
 - (七) 千A三一—一七—二七—七八—二五 (八) 千A三一—一七—二三 (九) 一七一—三一—三九—三三—五三

(1) 耕種試験

一、播種期 三月十五日

八、胡瓜半白純系淘汰

以下青節成純系淘汰ニ準ズ。

(2) 試験方法

- 一、一區面積 八五坪
- 一、一區株數 四十株
- 一、媒 助 開花前、袋掛ケヲ行ヒ開花スレバ同様ノ媒助ヲ爲シ復袋掛ケヲ爲ス。
- 一、比較系統數 五〇
- (3) 試験成績

前年度ニ引續キ系統ノ淘汰ヲ施行シ左記ニ五系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 一四 A (二) 一六 A (三) 一七 A (四) 一八 A (五) 一九 A (六) 二〇 A
- (七) 二一 A (八) 二六 A (九) 二七 A (十) 二九 A 一一 (十一) 二九 A 一二
- (十二) 二九 A B 一九 (十三) 二九 B 一五 (十四) 二九 B 二〇 (十五) 二九 B 二五
- (十六) 二九 B 一四 (十七) 二九 B 一二 (十八) 二九 B 一六 (十九) 三〇 A 一八
- (二〇) 三〇 A 一八 (二一) 三〇 A 一九 (二二) 三〇 A 一一 (二三) 三二 A (二四) 三三 A
- (二五) 三四 A

二、大型黄金甜瓜純系淘汰

(1) 耕種試驗

- 一、播種期 五月上旬
- 一、栽培距離 畦幅四尺株間二尺(反當一、三五〇株)
- 一、肥料 元肥堆肥三五〇貫 下肥一五〇貫 米糠三〇貫 魚肥三〇貫 油粕一〇貫 草木灰一〇貫 硫加一〇貫 過石一〇貫 追肥 硫安二貫 三成分窒素五貫八五〇 磷酸四貫三〇〇 加里七貫四〇〇

一、施肥法 元肥ハ播種一ケ月前ニ一尺五寸幅ノ作條ニ追肥ハ本葉一枚ノ時輪肥トシテ施ス。

一、整枝 二蔓八葉、側芽三枚摘心

一、病虫害 三斗式ボルドウ五回撒布(硫酸ニコチン加用)

(2) 試験方法

- 一、一區面積 十坪
- 一、一區株數 四十五株
- 一、媒 助 開花前袋ケ掛ヲ行ヒ開花スレバ同様株媒助ヲナシ又袋掛ケヲナス。
- 一、比較系統數四〇
- (3) 試験成績

前年度ニ引續キ施行シ左記十三系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 一一九 (二) 一一一 (三) 一一五 (四) 八 (五) 一一七 (六) 八一 一四
- (七) 八一 一四 (八) 二一 一四 B 一〇 (九) 二一 一四 一一 (十) 一一 一四 C 一七
- (十一) 三一 一三 A 一三 (十二) 三一 一三 一一 (十三) 三一 一三 C 一六

ホ、葱分型試験

(1) 耕種概

- 一、播種期 六月二十日
- 一、定植期 九月十五日
- 一、栽植距離 畦幅二尺五寸 株間二寸
- 一、肥料(反當) 元肥 堆肥三〇〇貫 魚肥二五貫 米糠三〇貫 葉灰二〇貫 過石五貫 追肥 硫安一〇貫 硫加三貫 過石七貫 下肥二〇〇貫 三成分窒素五貫八五〇 磷酸四貫三五〇 加

里五貫〇〇〇

一、施肥法 元肥ハ定植ノ際追肥ハ土寄ノ時施ス。

一、土寄 三回

一、母本撰拔 二月上旬

一、採種 網室ニテ採種ヲ爲ス、媒助ハ筆若シクハ母本ヲ搖リテ交互ニ花粉ヲ附着セシム。

(2) 試験方法

一、一區面積 六坪

一、一區本數 五四〇本

一、比較系統數六〇

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ系統ノ淘汰ヲ施行シ左記一〇系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 二六號 (二) 二八號 (三) 二號 (四) 八號 (五) 二〇號 (六) 七號 (七) 四五號
- (八) 五號 (九) 四二號 (十) 二〇號

へ、里芋分型試験

(1) 耕種梗概

一、播種期 四月二十日

一、栽植距離 畦幅二尺五寸、株間一、二尺、反當三、六〇〇株

一、肥料 元肥 堆肥三〇〇貫 魚肥三〇 過石一〇貫 硫加六貫

追肥 硫安三貫、過石二貫、硫加二貫

一、施肥法 元肥ハ播種前追肥ハ第一回六月上旬、第二回七月上旬ノ二回ニ施ス。

一、中耕土寄 三回

一、收穫 十一月上旬

(2) 試験方法

一、全面積 六十坪

一、一區株數 一四株

一、供試品種 親責

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ施行シ左記三七系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 五一一 (二) 五一二 (三) 五一一 (四) 五一一 (五) 五一五 (六) 五一七
- (七) 五一九 (八) 五一一〇 (九) 五一一一 (十) 五一一二 (十一) 五一一三
- (十二) 五一二四 (十三) 五一二五 (十四) 五一二六 (十五) 五一二七 (十六) 五一二九
- (十七) 五一三〇 (十八) 五一三一 (十九) 五一三二 (二十) 一本一ヨリ十三號
- (二十一) 丸一ヨリ四號

ト、白菜分型試験

(1) 耕種梗概

肥料試験ニ準ズ

(2) 試験方法

一、一區面積 十坪

一、一區株數 八十二株

一、系統數 十七系統

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ系統ノ淘汰ヲ行ヒ左記八系統ヲ撰拔セリ。

- (一) 變二號A
- (二) 變二號B
- (三) C₂A
- (四) B₂A
- (五) 一―四
- (六) 一―六(D一號)
- (七) 二號
- (八) 三號

チ、西瓜交配種純系分離試験

(1) 耕種梗概

一、播種期 四月二十七日

二、栽植距離 畦幅六尺株間四尺

一、肥料 (反當)元肥 堆肥二五〇〇貫、油粕五〇貫、魚肥二〇貫、米糠七〇貫、藁灰二〇貫
追肥 下肥二〇〇貫、油粕一〇貫、硫加六貫

一、藥劑撒布 銅石鹼液三回ホルドウ三斗式五回バーミサイド一回

(2) 試験方法

一、一區面積 二十坪

二、一區株數 三十株

一、系統數 六〇

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ施行シ左記八系統ヲ撰拔セリ。

(一) 三D一〇一三一

(六) 三D一〇一三四

(二) 全一―二

(七) 全一―一

(三) 全一―三八

(八) 全一―四〇

(四) 全一―四

(五) 三D一〇一四

(1) 耕種梗概

リ、甘藍分型試験

一、播種期 九月下旬

一、移植 一回

一、肥料 (反當)元肥 堆肥三〇貫、魚肥三〇貫、過石二〇貫、藁灰一〇貫、硫加五貫
追肥 硫安一〇貫、硫加二貫

三成分 窒素五、六〇〇貫、磷酸四、九〇〇貫、加里五、二六〇貫

一、定植 十一月中旬 畦幅二、五尺 株間二尺 反當二、一六〇株

一、中耕 二回

一、病虫害防除 カゼイン石灰加用砒酸鉛液撒布

(2) 試験方法

一、一區面積 二十坪

一、一區株數 一四四株

一、系統數 五〇

(3) 試験成績

前年度ニ引續キ之レヲ施行シ左記一系統ヲ撰拔セリ。

早春二號――一

二、果樹

イ、枇杷純系淘汰

耕種梗概

一、栽培方法、剪定、摘果、中耕、除草ハ枇杷窒素質用量試験ニ準ジ肥料モ亦同標準施用區ニ依ル。

研究設計

一、目的 實生ニ依リ優良品種ヲ作出セントス。

一、方法 大正九年田中枇杷ヲ實生シ葉形葉脈發育ノ良否ヲ調査シ優良ト認メタル物ノミヲ保留シ漸次淘汰ヲ行ヒ本年ニ至リテハ四十七本ヲ殘ス。之レニ付キ尙ホ引續キ研究セントス。

一、本試驗成績摘載様式ハ枇杷室素質用量試驗ニ準ス。

其ノ成績次ノ如シ。

大正九年田中枇杷ヲ實生シ同十一年一月實生苗二千九十一本中ヨリ葉形葉脈葉色發育ノ良否等ニ付キ調査ヲ行ヒ百十本ヲ撰別シ同十一年二月十日定植シ其ノ後發育不良ナルモノヲ除キ同十二年度ニアリテハ八十八本更ニ同十三年度ニ於テ發育不良ノモノヲ除外シ六十三本トシ更ニ同十四年度ニ五十四本トナシ同十五年度ニ於テ五十二本ヲ本年モ之レヨリ枯死セルモノヲ除キ四十七本トナシ引續キ調査ヲナシ。

左ニ昭和四年度ヨリ結果セルモノノ調査ヲ示セバ、

昭和四年度結果セルモノ

番號	個數	重量	最大重量	形	狀	肉	質	風味	外	皮
三五二	一三	七六	八五	圓長	圓形	肉質厚シ	質	甜味少ク酸味多シ	果毛多ト外觀美ナラズ	皮
二九	二五	七六	八五	圓	圓形	弱ク果汁多シ	質	甜味少ク酸味多シ	果毛多ク紅黃色	皮

昭和五年度結果セルモノ

番號	個數	平均重量	最大重量	形	狀	肉	質	風味	外	皮
八一	四	八〇	一〇〇	丸	圓形	軟クシテ肉少シ	質	甜味少ク酸味多シ	果毛稍々少ク黃色ニシテ美ナラズ	皮
二一	四	八〇	一〇〇	丸	圓形	極メテ軟ク果汁多シ	質	甜味稍々少シ	果毛少ク紅黃色ニシテ美ナリ	皮
八	六	四〇	五三	丸	圓形	軟ク肉量少シ	質	甜味アリ酸味少シ	果毛多ク外觀美ナラズ	皮
二九	四	九〇	一〇四	長	圓形	軟クシテ厚シ	質	甜味共ニ少ク果汁多シ	果毛極メテ多ク褐黃色	皮

昭和六年度結果セルモノ

番號	個數	平均重量	最大重量	形	狀	肉	質	風味	外	皮
三一	五	七一	九五	角張リタル	圓形	軟クシテ肉少シ	質	甜味アルモ酸味極メテ強シ	果毛少ク黃色稍々強ク色澤良好	皮
三三	四	五二	一〇〇	極メテ長型	ヲナス	軟クナレドカス殘ル	質	酸味強ク甜味少シ	淡黃綠色	皮
三六	七	七五	一〇〇	長	圓形	肉厚クシテ柔軟	質	酸味強ク甜味少シ	果毛多ク色澤不良黃綠色	皮
三四	二	五七	一一〇	長	圓形	肉厚ク硬シ	質	酸味多ク甜味少シ	果毛多クシテ外觀良好ナラズ黃綠色ナラス	皮

耕種梗概

番號	個數	平均重量	最大重量	形	狀	肉	質	風味	外	皮
三二	三	一一〇	一五五	丸	圓形	硬クシテ厚シ	質	甜味少ク酸味多シ	果毛多クシテ美ナラズ紅黃色	皮
三一	三	七八	八五	長	圓形	硬クシテ厚シ	質	甜味少ク酸味多シ	綠黃色ニシテ美ナラズ	皮
五	七	七三	一一三	ユガミタル	丸形	硬クシテ肉質少シ	質	酸味強ク甜味少シ	黃色ニシテ美ナラズ	皮
三	七	七三	一一三	丸	圓形	硬クシテ肉質少シ	質	甜味有ルモ果汁極メテ少シ	淡黃色	皮
四	九	七二	一一三	長	圓形	硬クシテ肉質少シ	質	甜味少ク酸味強シ	淡黃色	皮
六	七	七三	一一三	角	圓形	硬シ	質	甜味少ク酸味強シ	淡黃色	皮
五六	四	七三	一一三	角	圓形	硬シ	質	甜味少ク酸味強シ	淡黃色	皮

第一回枇杷交配ニ關スル研究

一、採收ハ完熟ノ後之レヲ行フ。

一、播種ハ採種後直チニ高サ五寸副四尺ノ床ヲ造リ之レニ畔幅二寸株間一寸距離一寸深サ二寸ニ点播シテ覆藁ヲナシ充分灌水ス。發芽シ來ル時ハ覆藁ヲ除キ本葉二枚發生シタル時他ノ苗床ニ移植シ冬季霜除ケヲナシ翌春本圃ニ定植ス。

一、肥料ハ年三回ニシテ施肥種類數量配合法ハ枇杷室素質用量試驗標準區ニ依ル。

一、剪定、摘果、採收ハ枇杷室素質用量試驗ニ準ス。

試験設計

一、目的 交配ニヨリ優良ナル新品種ヲ作出セントス。
二、本試験區別交配品種及個數左ノ如シ。

區別	交配	品種	個數	備考
第一區	田中	源兵衛	六	
第二區	福壽院	源兵衛	六	
第三區	福壽院	源兵衛	六	
第四區	福壽院	源兵衛	六	
第五區	福壽院	源兵衛	六	
第六區	福壽院	源兵衛	六	
第七區	福壽院	源兵衛	六	
第八區	福壽院	源兵衛	六	

一、方法 第一、二、三區ハ大正十二年十二月七日開花前三日前頃ノ蕾ヲ撰定シ其ノ花及雄蕊ヲ切り去リ直チニ袋掛ヲ行ヒ翌八日第一、二、三區ノ交配ニ施用スベキ品種ノ開花前ノ蕾ニ袋掛ヲ成シ置キシモノヲ取り來リ其ノ花粉ヲ前日殘置セシ雌蕊柱頭ニ筆ヲ以テ媒助シ後又被袋スルモノトス。
 第四、五、六區ハ十二月五日前同様ノ花瓣雄蕊ヲ取り去リ之ニ被袋シ置キ同時ニ他ノ供用品種タルベキ蕾ニ被袋シ置キ七日其ノ父タルベキ品種ノ花粉ヲ母木ノ柱頭ニ附着交配ノ後更ニ被袋セシメタリ。
 第七、八、九區ハ十二月八日當ニ開花セントスル蕾ヲ撰ビ其ノ雄蕊及花瓣ヲ去リ之レニ父木タル可キ品種ノ當ニ開カントスル蕾ヲ取り去リ其ノ花粉ヲ筆ヲ以テ母木雌蕊柱頭ニ附着セシメ被袋スルモノトス。
 二、本研究調査様式ハ左ノ如シ。

番號	發芽	葉色	葉鋸	主幹	着開	花開	花被	收穫	總量	最大	平均	果皮	果皮	發育
日小	月大	色淺	齒太	長	否良	日大	袋薄	數個	量重	量重	量重	薄厚	質	否良

研究成績

大正十二年田中、茂木、楠、福壽院、源兵衛ノ五品種間相互交配シタル系統ヲ得同十三年六月二十八日之レヲ播種シ八系統二百四十四本ノ仔苗ヲ得同十四年ヨリ左ノ通り委託栽植ス。

系統數	植付本數	現在本數	氏名	系統	統
一一二二二二三三	一一一七〇 九九五七一〇七〇	一一二〇〇	安房郡富浦村 加藤三郎 鳥山助 金山元 金木次郎 福村貞七 木村吉	田中 福壽院 源兵衛 楠 茂木 田中 福壽院 源兵衛 楠 茂木 田中 福壽院 源兵衛 楠 茂木 田中	

昭和六年度結果セルモノヲ示セバ

番號	個數	重量	最大果	形狀	肉質	風味	外皮
楠×田中 楠×田中 田中×楠 田中×楠	七號 A A B	六五五 七三三	一七三 一三二	極メテ丸型	極メテ柔軟 肉質ハモロク果汁多シ	酸味稍々強ク甘味少シ 甘酸共ニ強カラズ 果汁多キモ酸味強シ	暗褐色ヲ呈シ斑點明瞭ナリ 淡黄色ニシテ果毛多シ 濃黄色ニシテ斑點ハ明瞭ナリ

八、第二回枇杷交配ニ關スル研究
 一、採種、播種、肥料、剪定、摘果、袋掛ケハ第一回枇杷交配ニ關スル研究ニ準ズ。
 二、目的 交配ニヨリ優良ナル新品種ヲ作出セントスルニアリ。
 三、本研究區別交配品種左ノ如シ。

區別	交配品種	區別	交配品種	區別	交配品種
一四一三三四三	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	二四六四三三九	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	一四一三三四三	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛
二四七七八一五	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	一四一三三四三	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	二四七七八一五	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛
同同同同安房郡岩井町	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	同同同同同	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	同同同同同	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛
福原 川名 渡邊 福原 福原 福原	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	福原 川名 渡邊 福原 福原 福原	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	福原 川名 渡邊 福原 福原 福原	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛
楠×田村 茂木×源兵衛 楠×源兵衛 楠×鹿兒島早 福壽院×田村早 福壽院×一粒 福壽院×田村早 田中×一粒 田中×茂木白 田中×一粒 源兵衛×楠 源兵衛×茂木	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	楠×田村 茂木×源兵衛 楠×源兵衛 楠×鹿兒島早 福壽院×田村早 福壽院×一粒 福壽院×田村早 田中×一粒 田中×茂木白 田中×一粒 源兵衛×楠 源兵衛×茂木	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛	楠×田村 茂木×源兵衛 楠×源兵衛 楠×鹿兒島早 福壽院×田村早 福壽院×一粒 福壽院×田村早 田中×一粒 田中×茂木白 田中×一粒 源兵衛×楠 源兵衛×茂木	源兵衛 田中 茂木 源兵衛 源兵衛 源兵衛

備考 ○印ノミ授精結實其ノ他ハ不結實
 一、方法 近日開花セントスル母樹ノ蕾ノ雄蕊ヲ取り去リ袋掛ケヲナシ置キ父樹ノ蕾發育母樹ト同様ナルモノヲ撰ビ之レニ袋掛ケヲナシ袋内ニ於テ開花シタル時母樹及父樹ノ袋ヲ去リテ父樹ノ花粉ヲ筆ヲ以テ母樹ノ雌蕊ノ柱頭ニ附着セシメ直チニ被袋シ置クモノトス。
 二、本研究調査摘載様式ハ第一回枇杷交配ニ關スル研究ノ摘載様式ト同様トス。
 其ノ成績左ノ如シ。

大正十三年十一月源兵衛、田中早、鹿兒島早、田中、茂木、甲斐、土佐大白、寺治、一粒、洞庭、田村大、茂木白、楠ノ十四品種ヲ相互交配シ七十一系統ヲ得大正十四年六月十三日之レヲ播種シ九十六系統二百六十七本ノ仔苗ヲ得タルヲ以テ昭和二年五月六日之レヲ左ノ通り委託栽植トス。

六年度結果セルモノヲ示セバ

番	號	個數	重量	最大重量	形	狀	肉	質	風	味	外	皮
源兵衛	×××	二	一	二	丸	丸	極軟	酸味	強	少	淡黃	多
源兵衛	×××	二	一	二	丸	丸	硬	酸味	極強	少	淡黃	多
源兵衛	×××	二	一	二	丸	丸	硬	酸味	強	少	淡黃	多
田中	×××	二	一	二	丸	丸	軟	酸味	極	多	淡黃	多
茂木	×××	二	一	二	丸	丸	軟	酸味	極	多	淡黃	多

三三三二二一一〇〇〇九九九	〇	鹿兒島早
五二九六三〇七四一八五二九六三	〇	鹿兒島早
區區區區區區區區區區區區	〇	鹿兒島早
〇	〇	鹿兒島早
同同同同同同同同同同同同	〇	鹿兒島早
正正 斐	〇	鹿兒島早
××××××××××××××	〇	鹿兒島早
鹿田寺經楠鹿田寺福楠甲田寺福楠	〇	鹿兒島早
兒村壽島村壽村壽	〇	鹿兒島早
早大治院 早大治院 斐大治院	〇	鹿兒島早
〇	〇	鹿兒島早
同同同同同同同同同同同同	〇	鹿兒島早
××××××××××××××	〇	鹿兒島早
甲田一源茂大田一源茂大田一源茂	〇	鹿兒島早
村兵村兵村兵	〇	鹿兒島早
斐早粒術木正早粒術木正早粒術木	〇	鹿兒島早

備考 ○印ハ授精結果其他ハ不結實

一、方法 ハ第二回枇杷交配ニ關スル研究ト同様トス。

一、本研究調査摘載様式ハ第一回枇杷交配ニ關スル研究ノ摘載様式ニ準ズ。

成績

昭和二年十一月十日ヨリ十四日ニ亘リ前記ノ如ク十四品種ヲ相互交配シ昭和三年五月三十日ヨリ六月ニ成熟シタル果實ヲ順次採收調査シ三百五系統九百四十五本ノ仔苗ヲ培養シ昭和五年七月及昭和六年四月其ノ内葉ノ形狀色澤發育ノ良好ナルモノニシテ優良ナラント認メタルモノ四百五ヲ左ノ通り高接ヲ行ヒタリ。

三二二一	昭和高接	本	昭和本	昭和本
〇八八六七	昭和本	昭和本	昭和本	昭和本
六七七八八	昭和本	昭和本	昭和本	昭和本
八〇九五六	昭和本	昭和本	昭和本	昭和本
千葉縣農事試驗場	住	所	氏	名
同同同	安房郡富浦村			
岡大本加	古藤			
本古田	長伊			
貞次三	郎郎			
藏郎郎				

木、第一回梨交配ニ關スル研究

耕種梗概

一、採種ハ果實ノ充分完熟セル後之レヲ採收シ種實ヲ選別清水ニテ洗滌シ過乾セザル様砂ト混合シテ土中ニ貯藏シ翌年三月上旬之レヲ取り出し高サ五寸幅四尺ノ床ヲ造リ採種後八分内外ノ厚サニ覆葉シテ充分灌水ス發育シ來ル時ハ覆葉ヲ除キ更ニ翌春之レヲ發育良好ナル砧木ニ嫁接シ其ノ基部ハ母木トシテ栽培ス

試験設計

一、目的、交配ニヨリ優良品種ヲ作出セントスルニアリ。

一、本研究區別交配品種名左ノ如シ。

區別	交配品種名	現在	接數
第一區	早生赤幸藏		
第二區	同		
第三區	同		
第四區	同		
第五區	同		
第六區	同		
第七區	同		
第八區	同		
第九區	同		
第十區	同		

一、大正十年四月播種同十三年之レヲ五年生梨ニ嫁接セリ之レニ對スル肥料ハ梨品種試驗ノ施肥標準ニ準ズ

研究成績

大正十年四月早生赤幸藏今村秋新幸藏眞銚ノ五品種ヲ交配シ同十一年四月之レヲ播種シ同十二年五系統九本ノ交配仔苗ヲ得同十三年春季之レヲ嫁接シ交配原苗並ニ嫁接苗ヲ栽培シタルニ二年度ニ至リ早生赤幸

藏二號結果シ其ノ調査ヲ示セバ。

品種名	重量	熟期	外形	皮	肉	質
早生赤 × 幸藏二號	四三匁	八月二日	偏圓	粗ニシテ褐斑多シ	粗ニシテ色ハ白色果汁多ク甘味少シ	

昭和四年度ニ結果セルモノ

品種名	重量	熟期	外形	皮	肉	質
今村秋 × 新幸藏	四二匁	九月十三日	偏圓	褐斑多ク凸凹多シ	柔軟ニシテ砂粒少ク多汁肉色白	
太白 × 廿世紀	三六	九月十三日	隨圓	黄褐色斑點少シ果皮滑カナリ	甘味富ム果汁少シ肉質緻密肉色淡褐色	

昭和五年度ニ結果セルモノ

品種名	重量	熟期	外形	皮	肉	質
早生赤 × 幸藏一號	六八匁	九月三十日	不整ナル丸形	極メテ粗ニシテ褐斑多ク美ナラズ	極メテ固ク砂粒多ク白色ニシテ果汁少ク甘味少ク酸味アリ	
早生赤 × 幸藏三號	二二匁	八月三十日	丸形	濃褐色ニシテ斑點明瞭ナリ	極メテ粗ニシテヤ、褐色ヲ呈シ甘味少ク砂粒多シ	
今村秋 × 幸藏	五七匁	九月五日	偏圓	黄褐色斑點少シ	砂粒極メテ多ク甘味少ク滋味多シ品質不良ナリ	

昭和六年度ニ結果セルモノ

品種名	重量	熟期	外形	皮	肉	質
早生赤 × 幸藏四號	六八匁	九月三十日	不整ナル隨圓	粗ニシテ斑點明瞭褐斑多ク赤ニシテ斑點多クシテ明瞭	硬ク砂粒多ク肉質ハ白色ヲ呈ス	
新幸藏 × 眞鐘	二二匁	八月三十日	丸形	濃褐色ニシテ明瞭	稍々粗ニシテ甘味少シ果汁少ク肉質硬シ	
幸藏 × 今村秋	五七匁	九月五日	丸形	濃褐色斑點少ク不明瞭	硬ク砂粒多ク純白色果汁多ク滋味多ク甘味少シ	

以上ノ如ク第一回ノ交配種ハ各レモ熟期ハ中熟種ニシテ外皮ハ粗ニシテ褐色ヲ呈シ外觀美ナラズ重量モ一般ニ少ク内質ハ硬ク長十郎種以上ノモノヲ得ルニ至ラズ。

へ、第二回交配ニ關スル研究

耕種梗概

第一回交配ニ關スル研究ニ準ズ

試験設計

一、目的 交配ニヨリ優良ナル品種ヲ作出セントスルニアリ。

二、本研究區別交配品種名ハ左ノ如シ。

區	別	品	種	名	結實發芽成績	現在	接
第一	區	(A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第二	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第三	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實種子ナシ	—	—
第四	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第五	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第六	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第七	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第八	區	(B.A)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第九	區	(C.B)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第十	區	(C.B)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第十一	區	(C.B)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—
第十二	區	(C.B)(B.A)	× × × ×	甘世紀	結實不發芽	—	—

一、本研究交配方法ハ第二回枇杷交配ニ關スル研究ノ交配ニ準ズ。

翌年五月人糞尿坪當リ一貫目油粕二升施シ置キタリ。
 一、大正十四年四月豆柿砧、澁柿砧、龜山村六號砧、同七號砧、同十號砧ノ六種ヲ選ビ各砧別ニ横野、富有甲州百目ヲ嫁接シ以テ其生育結果ニ及ボス關係ヲ研究センガ爲メ大正十五年一月之レヲ左記ノ如ク十七本宛委託試作セシメタリ。

品名	砧木別	本數
横野	豆柿	二
同	澁柿	二
同	龜山村六號	二
同	同七號	二
同	同十號	二
富有	豆柿	二
同	澁柿	二
同	龜山村六號	二
同	同七號	二
同	同十號	二
甲州百目	豆柿	二
同	澁柿	二
同	龜山村六號	二
同	同七號	二
同	同十號	二

右委託地方名及擔當者氏名

- 一、印旛郡志津村小竹八三二 秋元金治
- 一、市原郡富山村古敷谷 箕輪恒爾
- 一、東葛飾郡新川村 柳澤清春
- 一、夷隅郡古澤村 中村綱三郎
- 一、安房郡主基村上小原 龜田久治
- 一、山武郡土氣本郷町下大和田 石井摠司
- 一、香取郡香取町新市場 林謙二郎
- 一、千葉郡睦村麥丸 櫻井因信

加瀬藤治郎
田村寅治郎

一、海上郡旭町

一、君津郡龜山村

(1) 自然生柿砧木ニ關スル研究

耕種梗概

一、剪定、摘果、肥料、病虫害驅除其他ノ手入レハ柿特性調査ニ準ズ。

試験設計

一、目的 本縣ノ風土ニ適シ現ニ樹勢強ク結果ガ旺盛ナル自然生柿樹ノ種子ヲ蒐集播種シ之レヲ砧木トナシ優良品種ヲ嫁接栽培ヲ成ス時ハ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ驗知セントス。

一、研究用砧木育成ハ柿砧木改良ニ關スル研究ニ準ズ。

一、嫁接方法ハ三月中旬接穂ヲ母樹ヨリ切斷シ之レヲ土中深サ八寸位ノ處ニ埋没シ置キ三月下旬以上ノ接穂ヲ各砧木別ニ嫁接ス。

一、成績摘載様式ハ柿特性調査様式ニ準ズ。

研究成績

將來本縣ニ栽培スル柿ノ砧木ニ適スル品種ヲ研究スル爲メ大正十二年度ニ於テ現ニ本縣下ニ自生スル樹勢強ク結果旺盛ナル種實ヲ蒐集シ之レガ調査ヲ行ヒ結果優良ト認ムル左ノ地方産ノ柿種實ノミヲ採收シ大正十三年三月之レヲ播種シ翌大正十四年三月其ノ内君津郡龜山村産ノ砧木六號七號十號ニ富有甲州百目横野ヲ嫁接シ大正十五年一月委託試作セシメ其ノ他地方産砧木ニハ大正十五年三月富有横野衣紋ヲ嫁接シ昭和二年二月之レヲ配付委託試作トス。

種實蒐集地方名

一、印旛郡千代田村

一、安房郡主基村